

## 調査結果の分析

# 1 生活環境について

## (1) 住みやすさについて

問1 あなたは、青梅市を住みよいまちだと思いますか。

「住みよいと思う」が63.9%。一方、「住みにくいと思う」は6.8%。

### [全体]

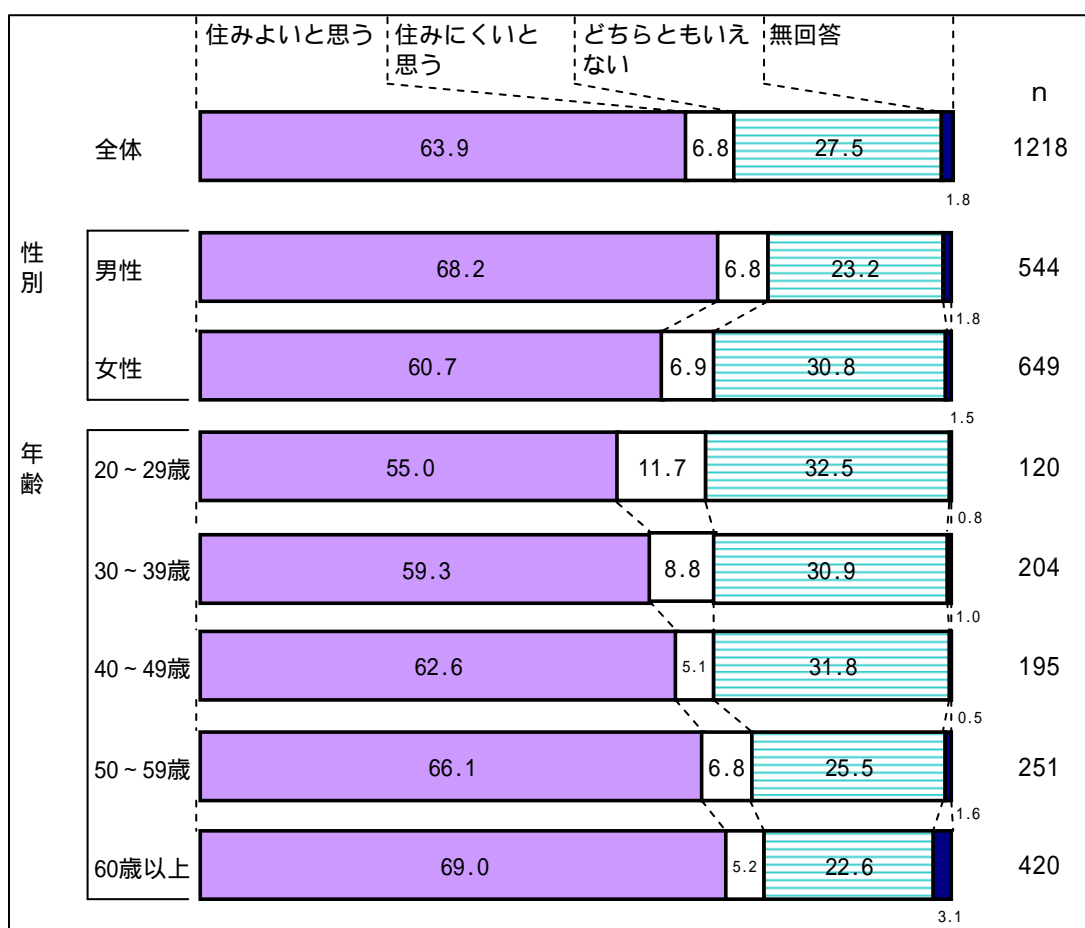
市の住みやすさをたずねたところ、「住みよいと思う」が63.9%と6割を超え、「どちらともいえない」が27.5%、「住みにくいと思う」が6.8%となっている。

### [属性別]

性別でみると、「住みよいと思う」と回答した率は男性(68.2)が女性(60.7%)を約8ポイント上回る。

年齢別でみると、年齢が上がるにつれて「住みよいと思う」と回答する率が高くなる傾向がみられた。一方、「住みにくいと思う」という回答は概ね年齢が下がるにつれて上昇している。

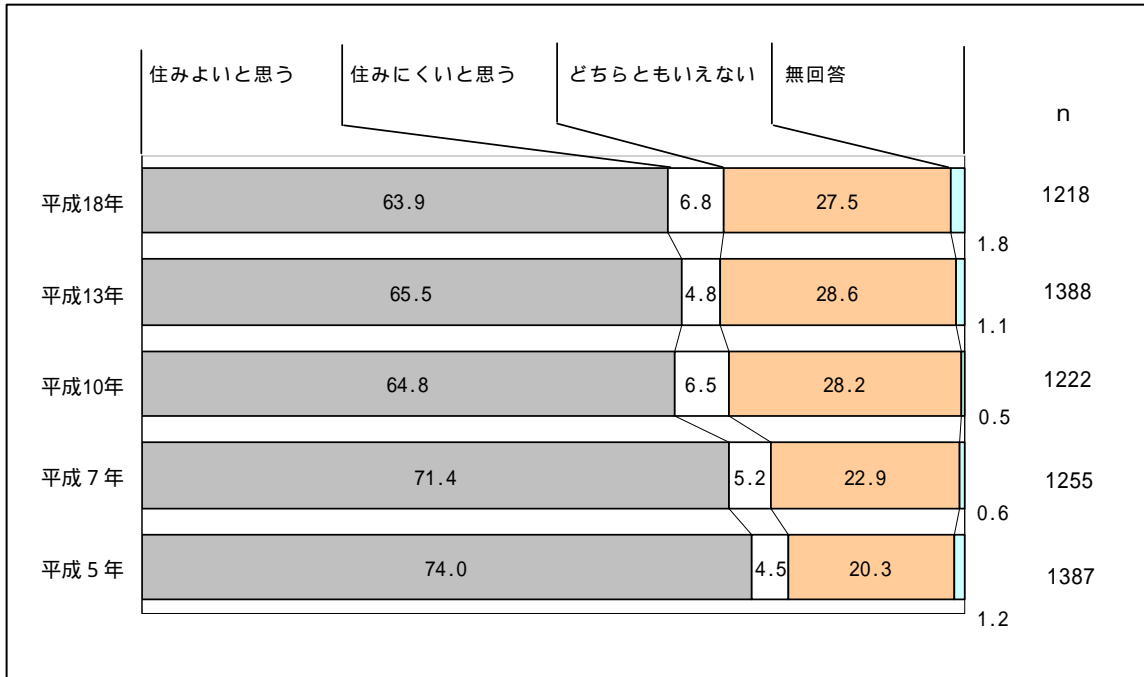
住みやすさについて(全体、性別、年齢別)



青梅市の住みやすさについて（平成5年～平成18年）

〔過去との比較〕

過去の調査結果と比較すると、「住みよいと思う」という回答が平成13年の65.5%から今回調査では63.9%と1.6ポイント減少し、「住みにくいと思う」という回答が平成13年の4.8%から6.8%へ2ポイント増加している。



(2) 今後の定住意向

問2 あなたは、これからも青梅市に住み続けたいと思いますか。

「今後も住み続けたい」が70.2%。

[全体]

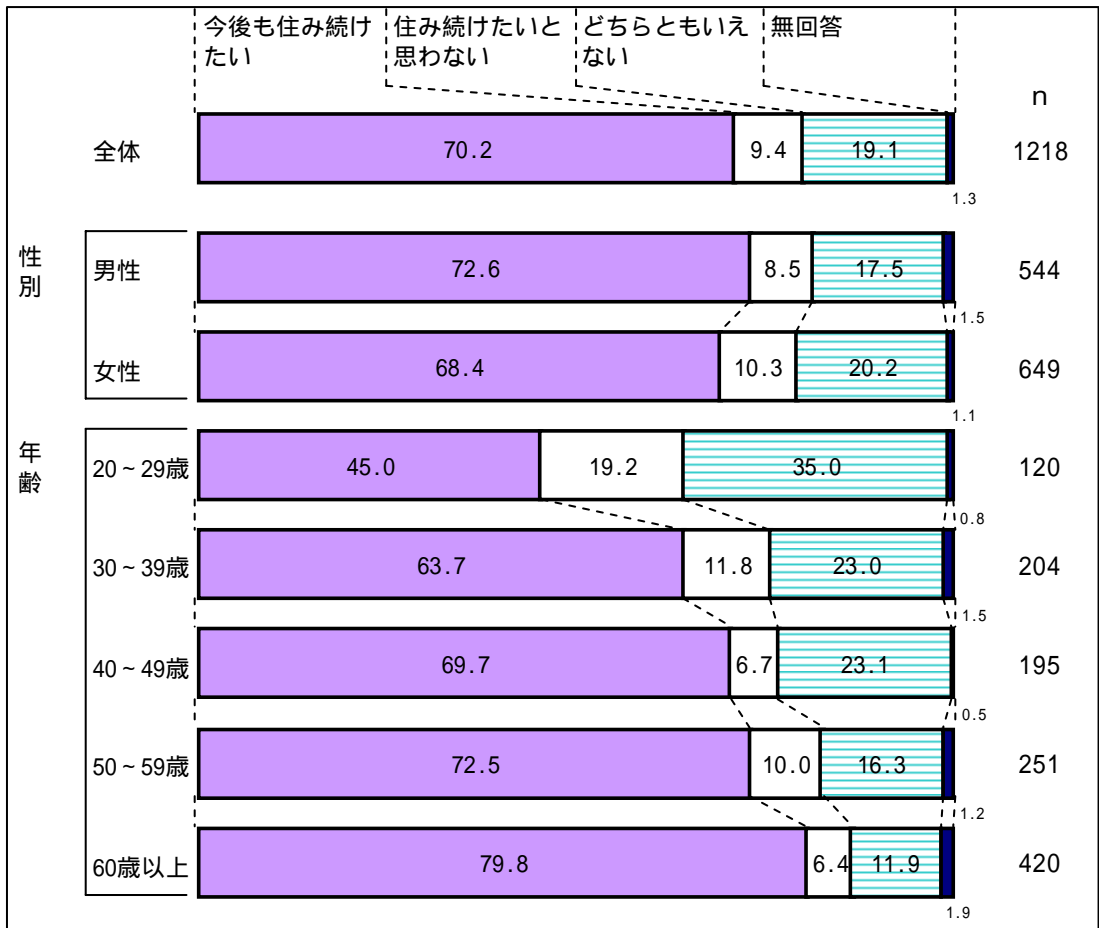
今後の定住意向をたずねたところ、「今後も住み続けたい」が70.2%、「どちらともいえない」が19.1%、「住み続けたいと思わない」が9.4%となっており、今後も住み続けたい人が約7割を占める。

[属性別]

性別では、「今後も住み続けたい」と回答した率は男性(72.6%)が女性(68.4%)を約4ポイント上回る。

年齢別では、年齢が上がるにつれて「今後も住み続けたい」と回答する率が高くなり、60歳以上では79.8%と約8割に達する。一方、20~29歳で「住み続けたいと思わない」(19.2%)と他の世代に比べ高くなっている。

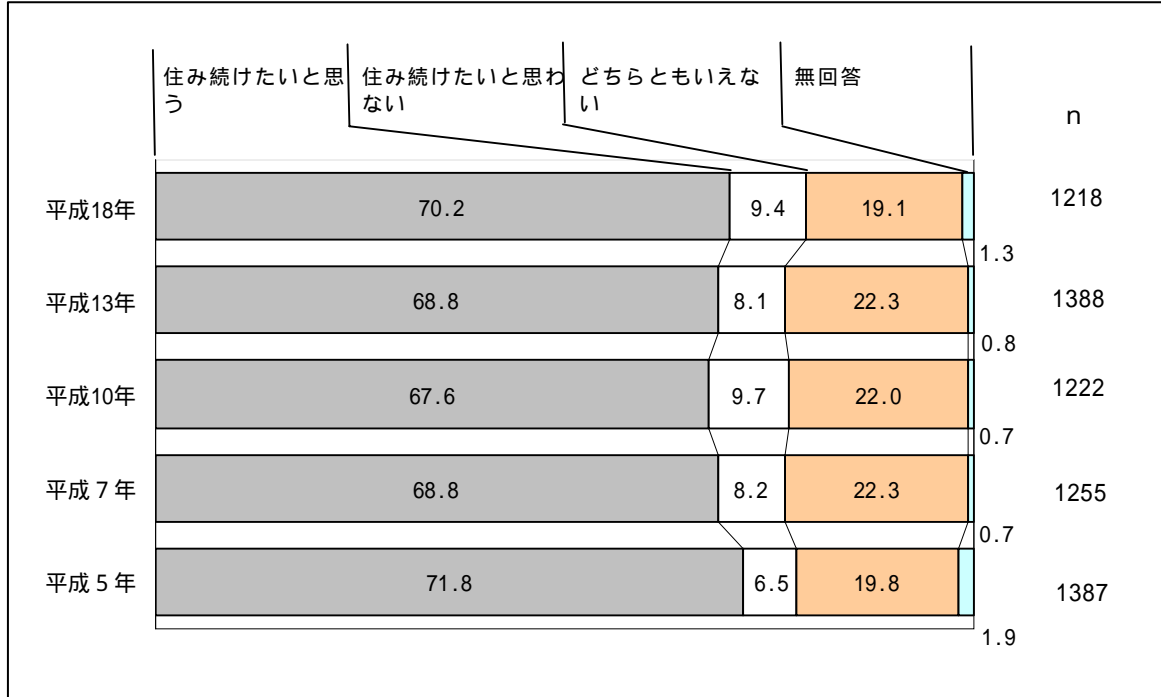
今後の定住意向(全体、性別、年齢別)



定住意向の変化（平成5年～平成18年）

〔過去との比較〕

過去の調査結果と比較すると、「住み続けたいと思う」という回答が平成13年の68.8%から今回調査では70.2%と1.4ポイント増加し、「住み続けたいと思わない」という回答も平成13年の8.1%から9.4%へ1.3ポイント増加している。



### (3) 住み続けたい主な理由

問2-1 住み続けたいと思われる主な理由は何ですか。【問2で「1.今後も住み続けたい」と回答した人のみ/複数回答】

「自然環境がよい」、「自分の家や土地がある」、「長年住み慣れ愛着がある」が3大理由。

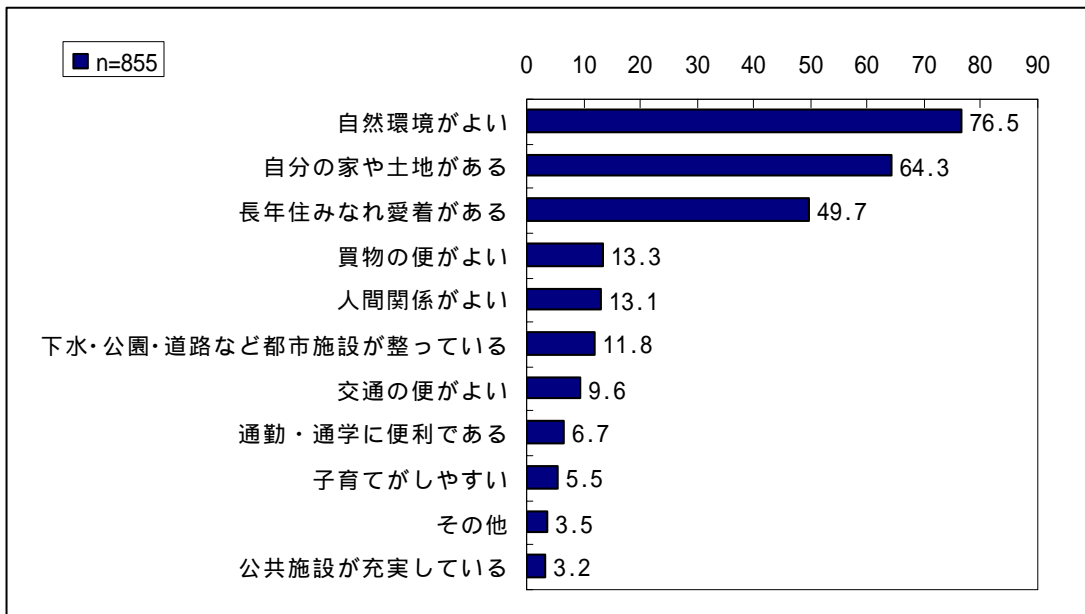
#### [全体]

「今後も住み続けたい」と回答した人にその理由をたずねたところ、「自然環境がよい」(76.5%)が第1位に挙げられ、次いで「自分の家や土地がある」(64.3%)、「長年住み慣れ愛着がある」(49.7%)と続き、これらが他を大きく引き離して住み続けたい三大理由となっている。その他では「買物の便がよい」(13.3%)、「人間関係がよい」(13.1%)、「下水・公園・道路など都市施設が整っている」(11.8%)などの順であった。

#### [属性別]

性別・年齢別でも、全体と同様にすべての層で「自然環境がよい」、「自分の家や土地がある」、「長年住み慣れ愛着がある」が上位を占める。

住み続けたい主な理由（「今後も住み続けたい」と回答した人のみ・全体）



#### (4) 移転したい主な理由

問2-2 市外へ移転したいと思われる主な理由は何ですか。【問2で「2.住み続けたいと思わない」と回答した人のみ/複数回答】

「交通が不便である」が第1位。次いで「買物が不便である」、「通勤・通学に不便である」の順。

##### [全体]

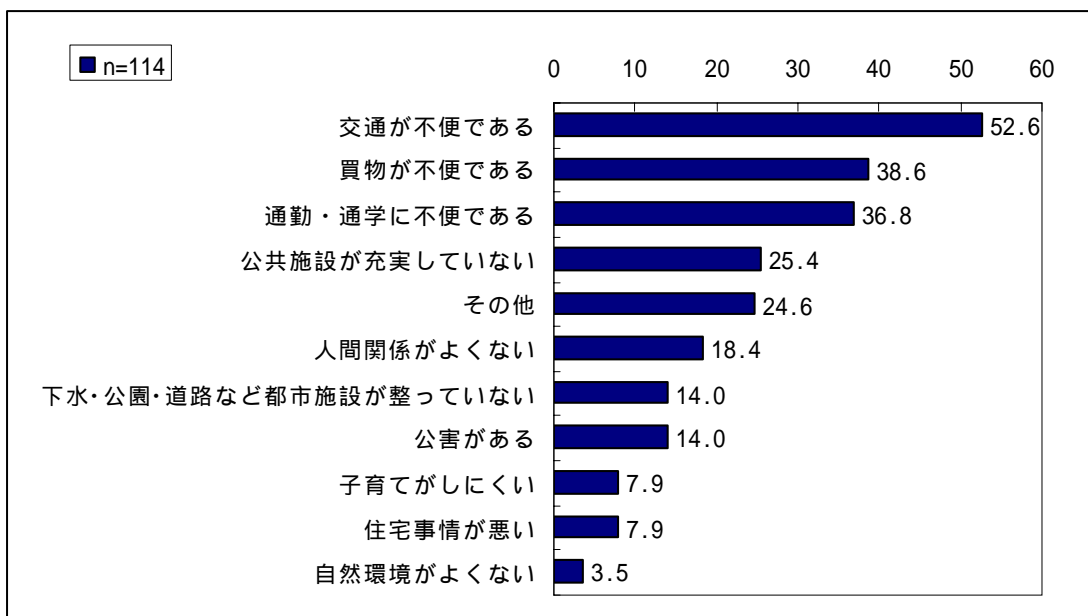
「住み続けたいと思わない」と回答した人に移転したい理由をたずねたところ、「交通が不便である」(52.6%)が第1位に挙げられ、次いで「買物が不便である」(38.6%)、「通勤・通学に不便である」(36.8%)と続き、以下、「公共施設が充実していない」(25.4%)、「その他」(24.6%)などの順であった。

##### [属性別]

性別でみると、男女ともに「交通が不便である」(43.5%・58.2%)が第1位となっているが、男性では「通勤・通学に不便である」(41.3%)、女性では「買物が不便である」(38.8%)がそれぞれ第2位となっている。

年齢別で第1位回答をみると、20～29歳では「通勤・通学に不便である」(47.8%)、30～39歳・40～49歳・50～59歳では「交通が不便である」(54.2%・53.8%・72.0%)、60歳以上では「買物が不便である」(51.9%)がそれぞれ挙げられている。

移転したい主な理由(「住み続けたいと思わない」と回答した人のみ・全体)



( 5 ) 住みたい地域

問 2 - 3 どの地域に住みたいとお考えですか。【問 2 で「 2 . 住み続けたいと思わない」と回答した人のみ】

「多摩地域の他市町村」が 50.0%。

[ 全体 ]

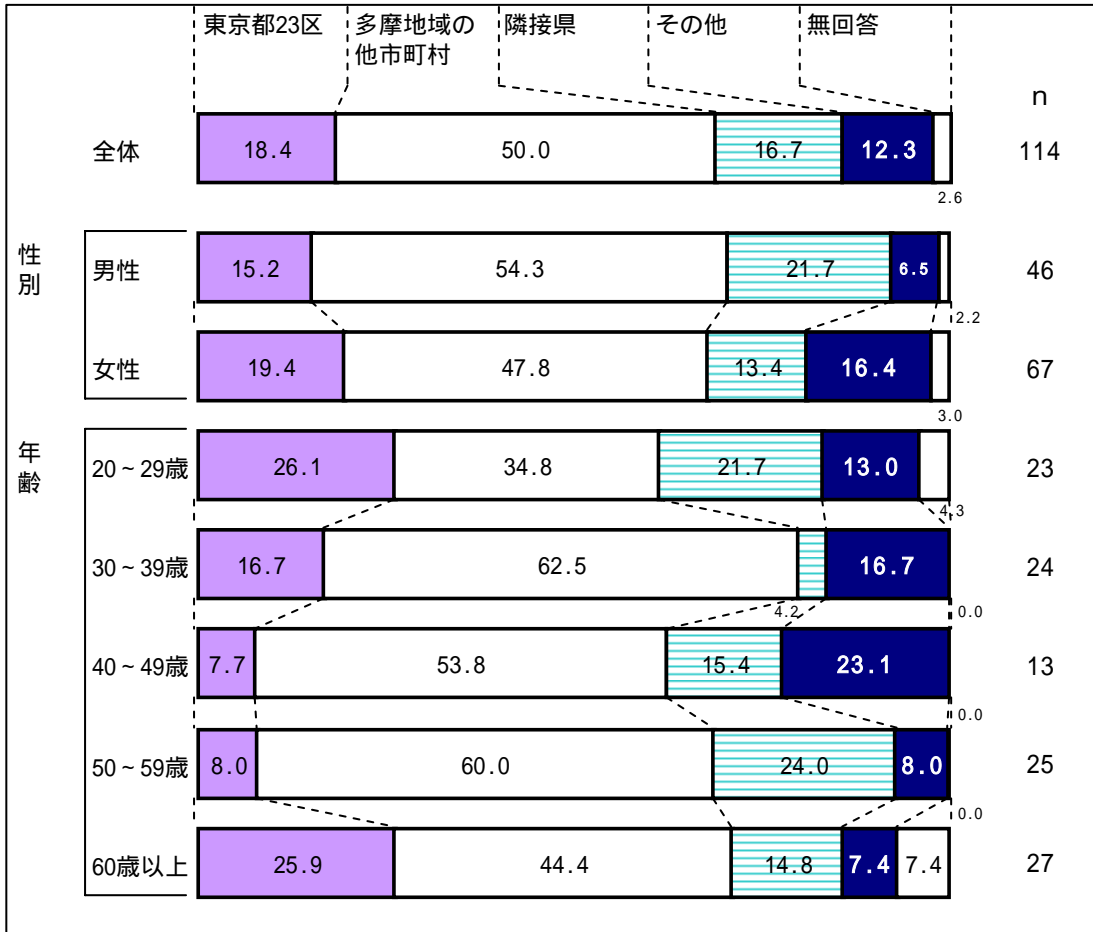
「住み続けたいと思わない」と回答した人に希望する移転先をたずねたところ、「多摩地域の他市町村」(50.0%)が半数を占め、その他は「東京都 23 区」(18.4%)、「隣接県」(16.7%)などであった。

[ 属性別 ]

性別でみると、男女ともに「多摩地域の他市町村」が多数を占めるが、男性では「隣接県」と回答する率が高く、女性では「東京都 23 区」と回答する率が高い傾向がみられた。

年齢別でみると、すべての世代で「多摩地域の他市町村」が最も率の高い回答となっている。また、「東京都 23 区」と回答する率が 20～29 歳(26.1%)、60 歳以上(25.9%)で他の世代に比べ高い傾向がみられた。

住みたい地域（「住み続けたいと思わない」と回答した人のみ・全体、性別、年齢別）





## 2 生活の状況について

### (1) 昨年と比較した暮らし向き

問3 お宅の暮らし向きは昨年の今頃と比べるとどのように変わりましたか。

「変わらない」が 57.1%、「苦しくなった」が 35.6%、「楽になった」は 4.3%。

#### [全体]

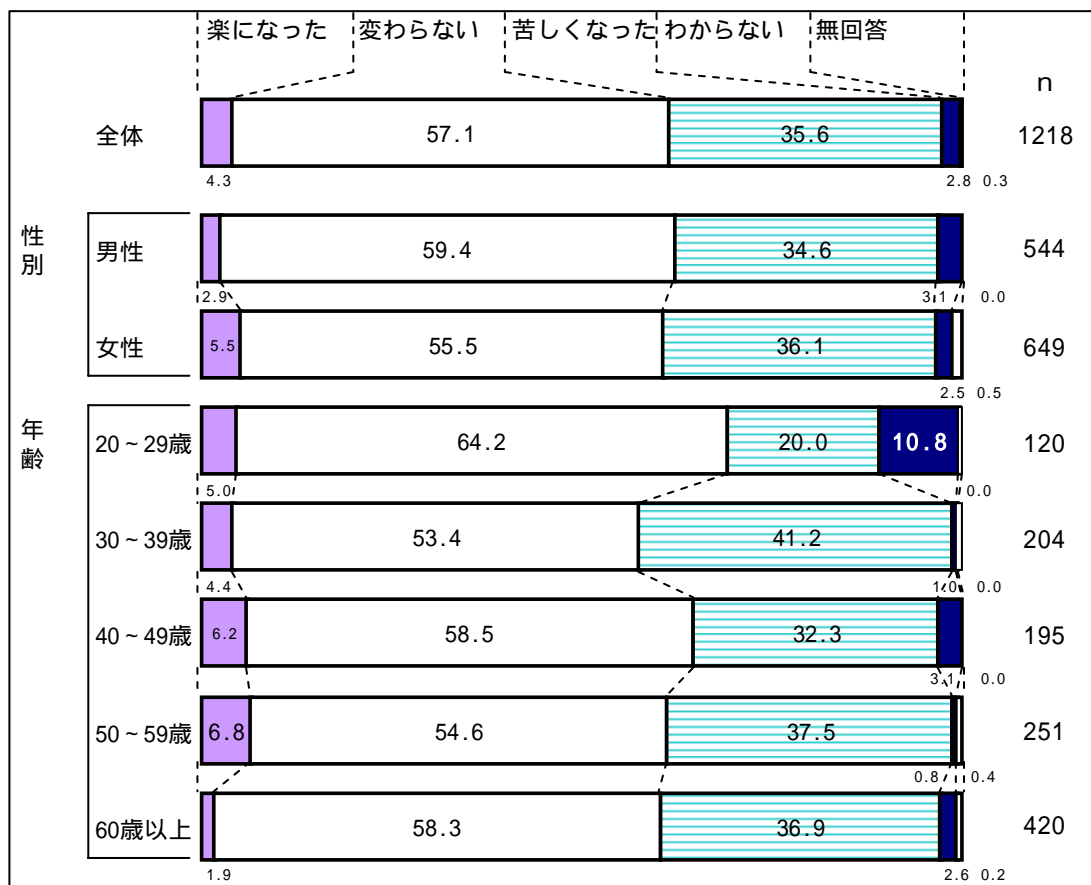
暮らし向きの変化をたずねたところ、「変わらない」が 57.1%、「苦しくなった」が 35.6%、「楽になった」が 4.3%となっている

#### [属性別]

性別で見ると、男女ともに「変わらない」が多数を占めるが、男性に比べ女性で「変わらない」(55.5%)と回答する率が低く、「楽になった」(5.5%)および「苦しくなった」(36.1%)と明確に回答する人が多い。

年齢別で見ると、すべての世代で「変わらない」が多数を占めるが、30～39歳で「苦しくなった」と回答する率が 41.2%と4割を超える。

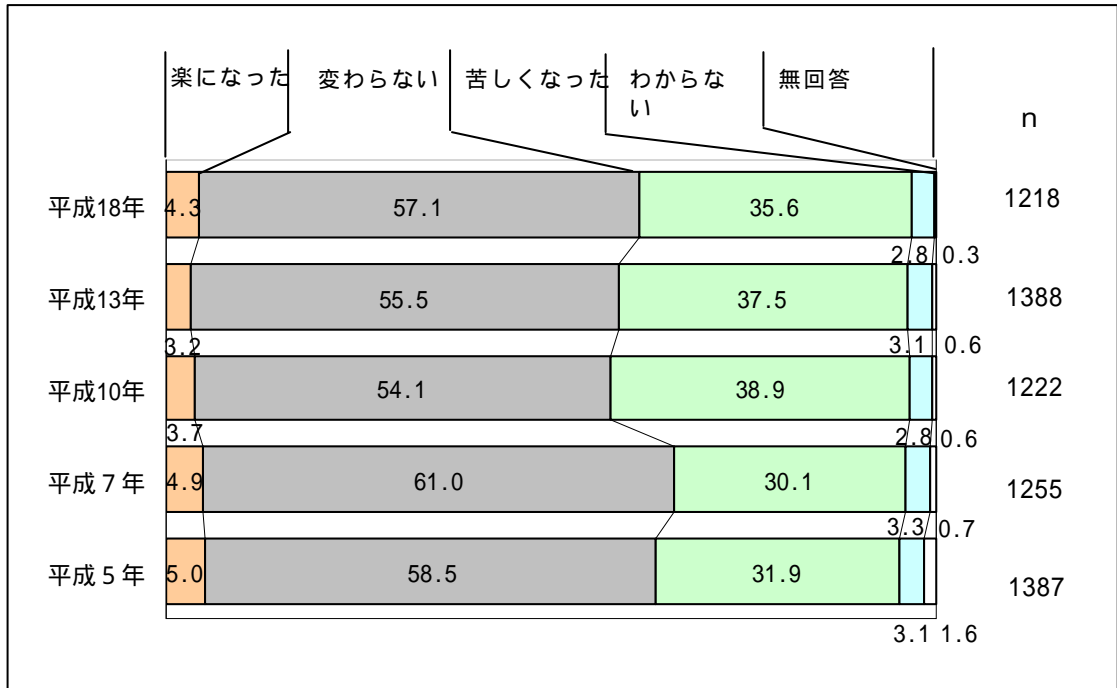
昨年と比較した暮らし向き（全体、性別、年齢別）



暮らし向きの変化（平成5年～平成18年）

[ 過去との比較 ]

過去の調査結果と比較すると、「楽になった」という回答が平成13年の3.2%から今回調査では4.3%と1.1ポイント増加し、「苦しくなった」という回答は平成13年の37.5%から35.6%へ1.9ポイント減少している。



## (2) 暮らし向きが楽になった理由

問3-1 楽になった主な理由は何ですか。【問3で「1.楽になった」と回答した人のみ】

「収入が増えた」が主な理由。

### [全体]

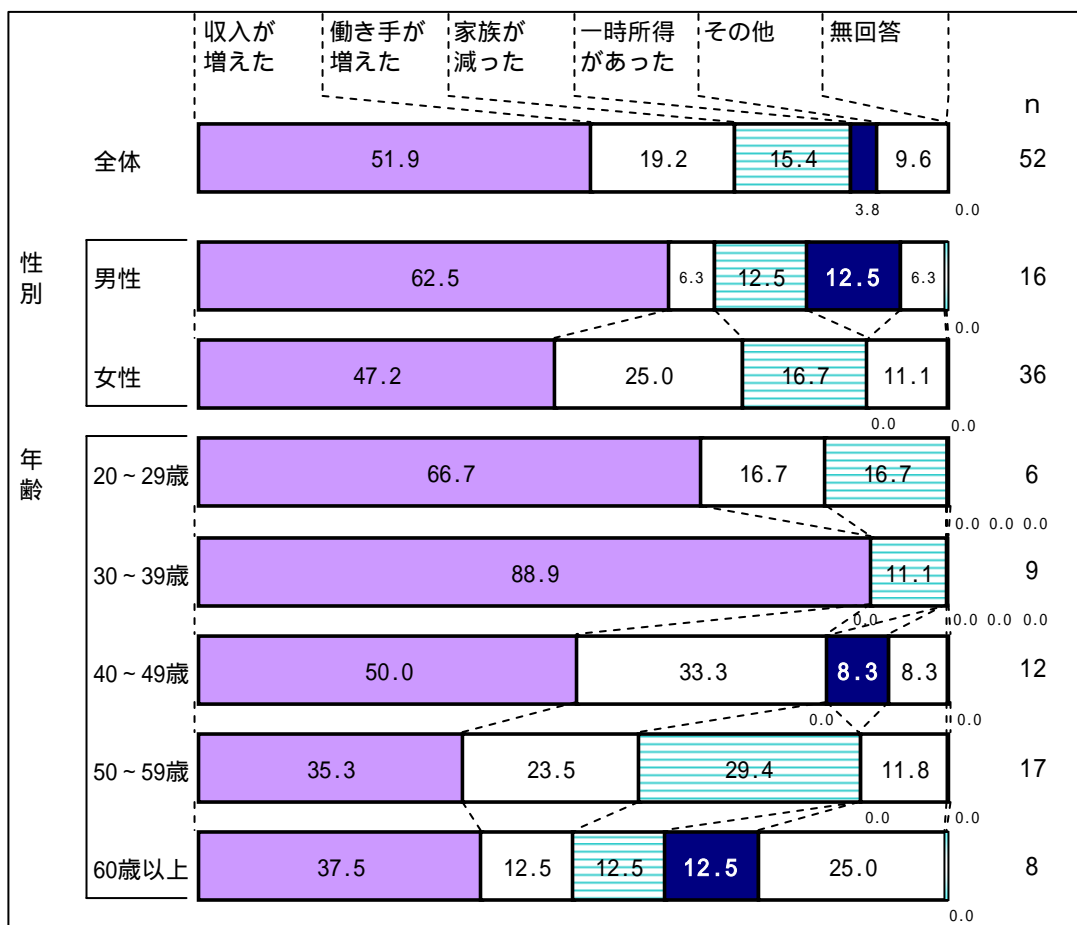
暮らし向きが「楽になった」と回答した人にその理由をたずねたところ、「収入が増えた」(51.9%)が半数強を占めて主な理由となっている。その他では「働き手が増えた」(19.2%)、「家族が減った」(15.4%)などが続く。

### [属性別]

性別でみると、男性では「収入が増えた」(62.5%)、女性では「働き手が増えた」(25.0%)が比較的多い傾向がみられた。

年齢別でみると、すべての世代で「収入が増えた」が最も率の高い回答となっており、特に30～39歳では88.9%にのぼる。また、40～49歳では「働き手が増えた」(33.3%)、50～59歳では「家族が減った」(29.4%)と回答する人が多い傾向がみられた。

暮らし向きが楽になった理由（「楽になった」と回答した人のみ・全体、性別、年齢別）



### (3) 暮らし向きが苦しくなった理由

問3-2 苦しくなった主な理由は何ですか。【問3で「3.苦しくなった」と回答した人のみ】

「収入が減った」が主な理由。

#### [全体]

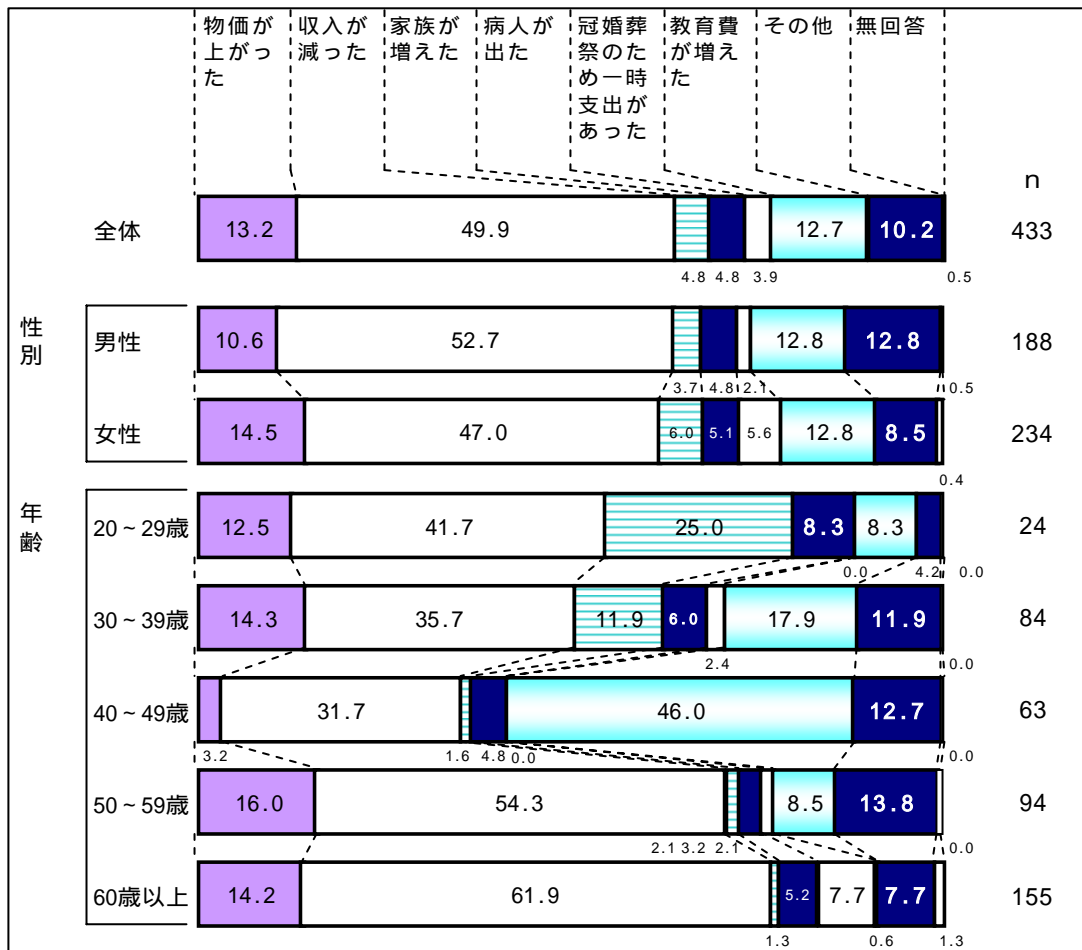
暮らし向きが「苦しくなった」と回答した人にその理由をたずねたところ、「収入が減った」(49.9%)が約半数を占めて主な理由となっている。その他では「物価が上がった」(13.2%)、「教育費が増えた」(12.7%)などが続く。

#### [属性別]

性別でみると、男女ともに「収入が減った」が主な理由となっている。

年齢別でみると、40～49歳以外の世代では「収入が減った」が主な理由となっており、特に60歳以上では61.9%と6割を超える。また、40～49歳では「教育費が増えた」(46.0%)が主な理由となっており、子どもの教育費が大きな負担となっていることがうかがえる。さらに、20～29歳では「家族が増えた」(25.0%)と回答する率が高い傾向がみられる。

暮らし向きが苦しくなった理由（「苦しくなった」と回答した人のみ・全体、性別、年齢別）



(4) 暮らし向きについて

問4 お宅の暮らし向きについて、あなたはどうお考えですか。

「今の暮らしではまだ余裕がない」が53.4%。

[全体]

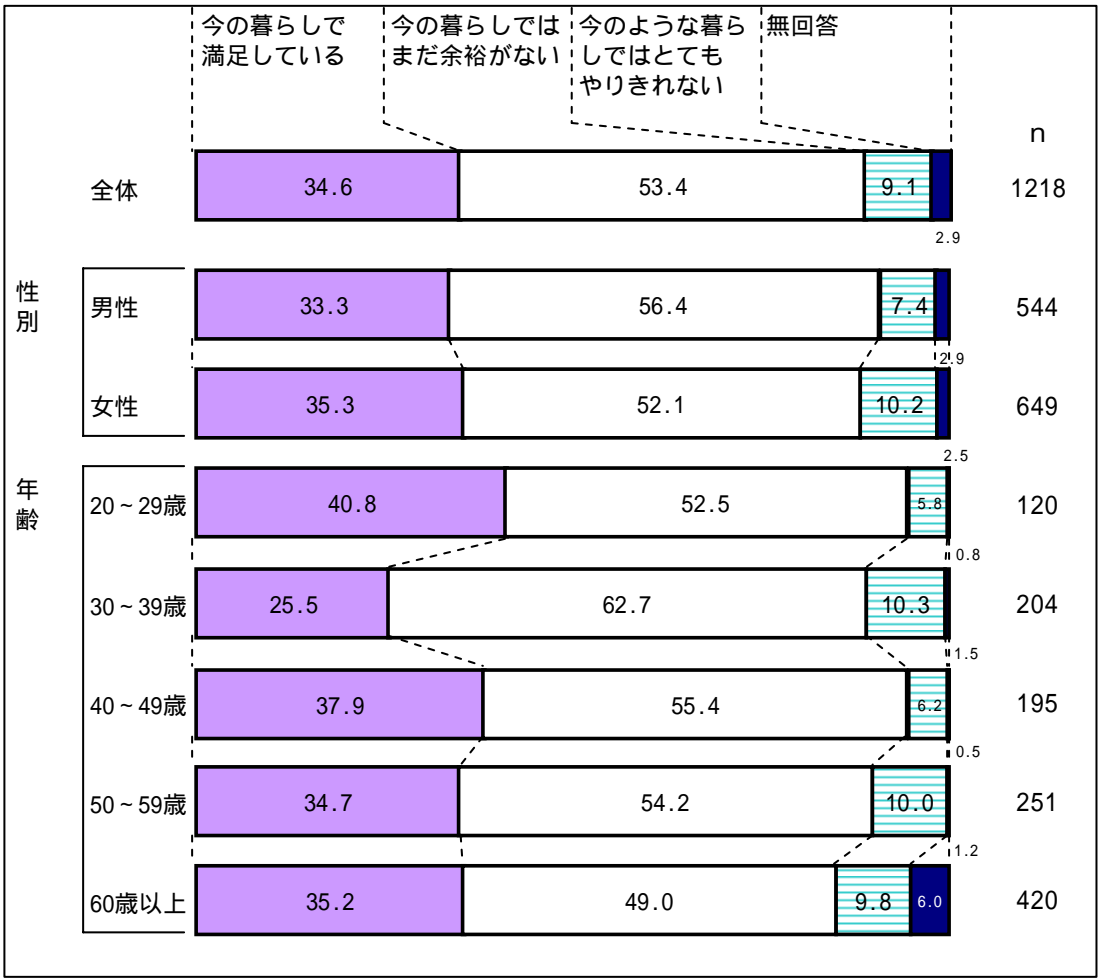
暮らし向きについてたずねたところ、「今の暮らしではまだ余裕がない」が53.4%と半数を超え、「今の暮らしで満足している」が34.6%、「今のよう暮らしではとてもやりきれない」が9.1%となっている。

[属性別]

性別でみると、男女ともに「今の暮らしではまだ余裕がない」が半数を超え、大きな差はみられなかった。

年齢別でみると、すべての世代で「今の暮らしではまだ余裕がない」が多数を占め、特に30～39歳では62.7%と6割を超える。

暮らし向きについて（全体、性別、年齢別）



(5) 余裕が欲しいと思う点

問4-1 どういう点でもっと余裕が欲しいと思われますか。【問4で「2. 余裕がない」または「3. とてもやりきれない」と回答した人のみ】

「預・貯金」で余裕が欲しいと思う人が半数を超える。

[全体]

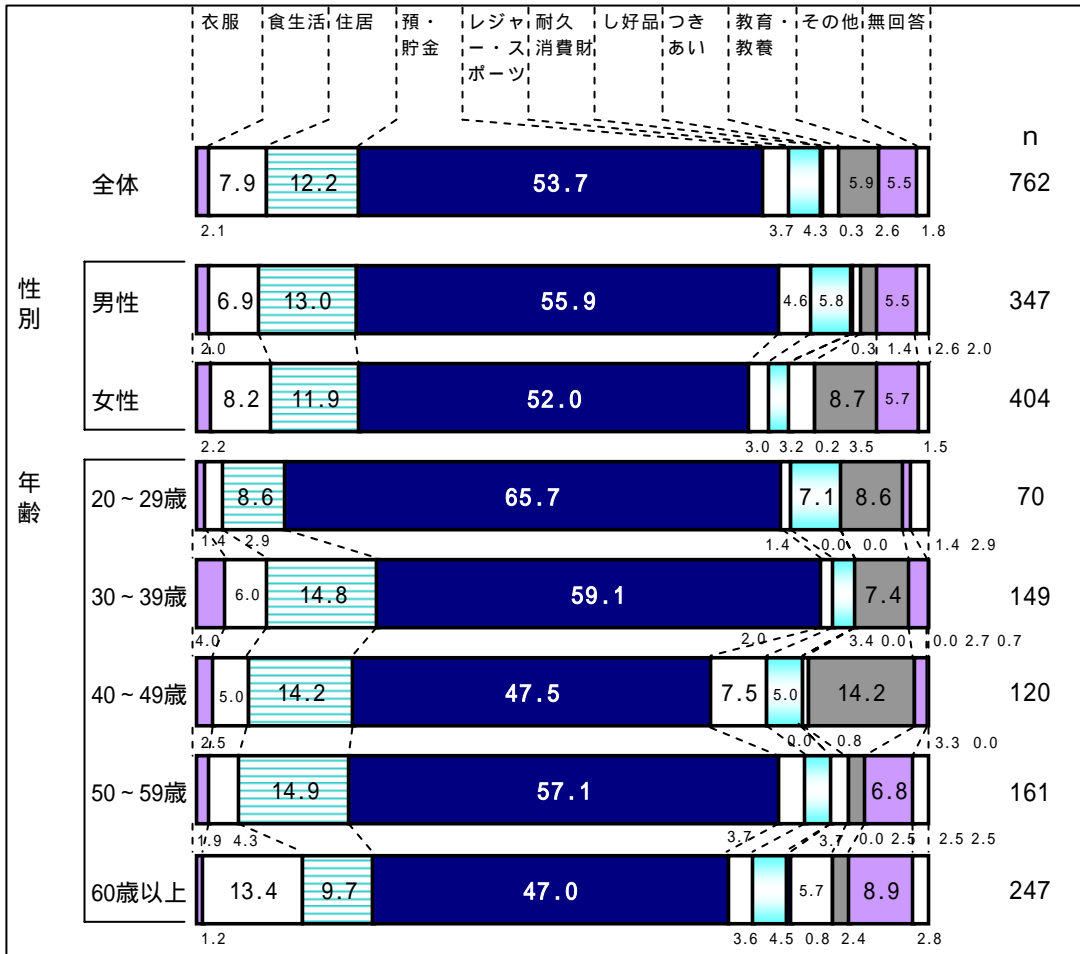
余裕が欲しいと思う点をたずねたところ、「預・貯金」が53.7%と半数を超え、次いで「住居」(12.2%)、「食生活」(7.9%)などの順となっている。

[属性別]

性別でみると、男女ともに「預・貯金」が半数を超え、大きな差はみられなかった。

年齢別でみると、すべての世代で「預・貯金」が多数を占め、特に20~29歳では65.7%と6割を超える。また、60歳以上で「食生活」(13.4%)と回答する率が他の世代に比べ高い傾向がみられた。

余裕が欲しいと思う点(全体、性別、年齢別)



### 3 今後のまちづくりの方向について

#### (1) 10年後の青梅市の将来像

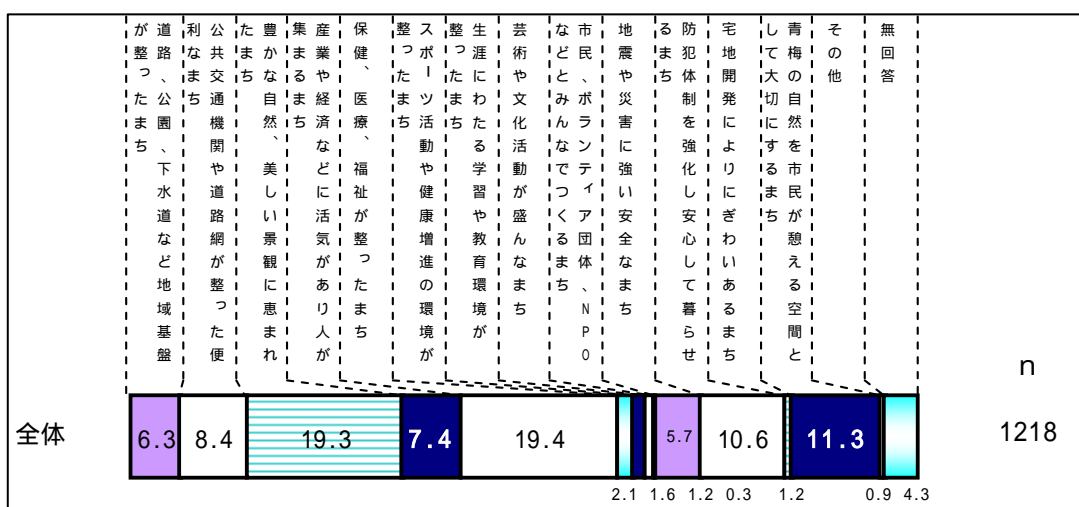
問5 10年後の青梅市の将来像について、どのような市になればよいと思いますか。次の中から、あなたが考える「最も近いイメージ」、「2番目に近いイメージ」、「3番目に近いイメージ」を下の枠の中からそれぞれ選び、回答欄に番号を書き入れてください。

「保健、医療、福祉が整ったまち」、「豊かな自然、美しい景観に恵まれたまち」、「青梅の自然を市民が憩える空間として大切にすまち」が将来イメージの上位に挙げられている。

#### [最も近いイメージ]

青梅市の将来像について「最も近いイメージ」をたずねたところ、「保健、医療、福祉が整ったまち」(19.4%)および「豊かな自然、美しい景観に恵まれたまち」(19.3%)が僅差で上位を占め、次いで「青梅の自然を市民が憩える空間として大切にすまち」(11.3%)、「防犯体制を強化し安心して暮らせるまち」(10.6%)などが続いている。

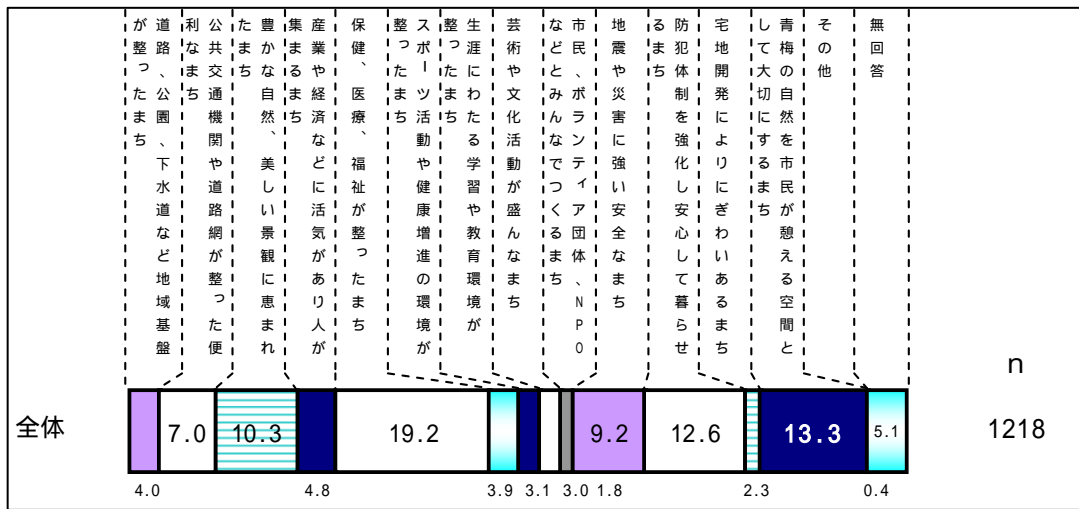
10年後の青梅市の将来像（最も近いイメージ、全体）



#### [2番目に近いイメージ]

青梅市の将来像について「2番目に近いイメージ」をたずねたところ、「保健、医療、福祉が整ったまち」(19.2%)が最も多く、次いで「青梅の自然を市民が憩える空間として大切にすまち」(13.3%)、「防犯体制を強化し安心して暮らせるまち」(12.6%)、「豊かな自然、美しい景観に恵まれたまち」(10.3%)などが続いている。

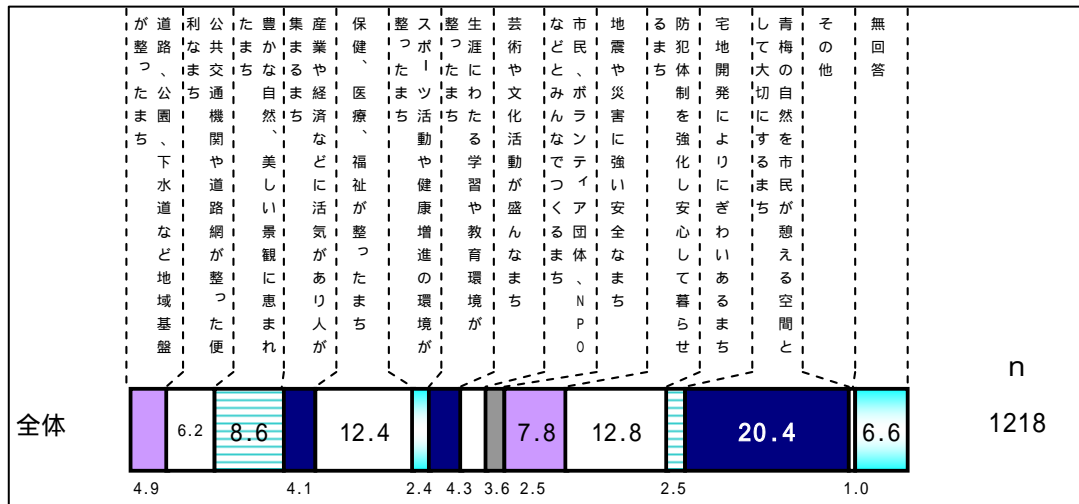
10年後の青梅市の将来像（2番目に近いイメージ、全体）



[ 3番目に近いイメージ ]

青梅市の将来像について「3番目に近いイメージ」をたずねたところ、「青梅の自然を市民が憩える空間として大切にすまち」(20.4%)が最も多く、次いで「防犯体制を強化し安心して暮らせるまち」(12.8%)、「保健、医療、福祉が整ったまち」(12.4%)、「豊かな自然、美しい景観に恵まれたまち」(8.6%)などが続いている。

10年後の青梅市の将来像（3番目に近いイメージ、全体）

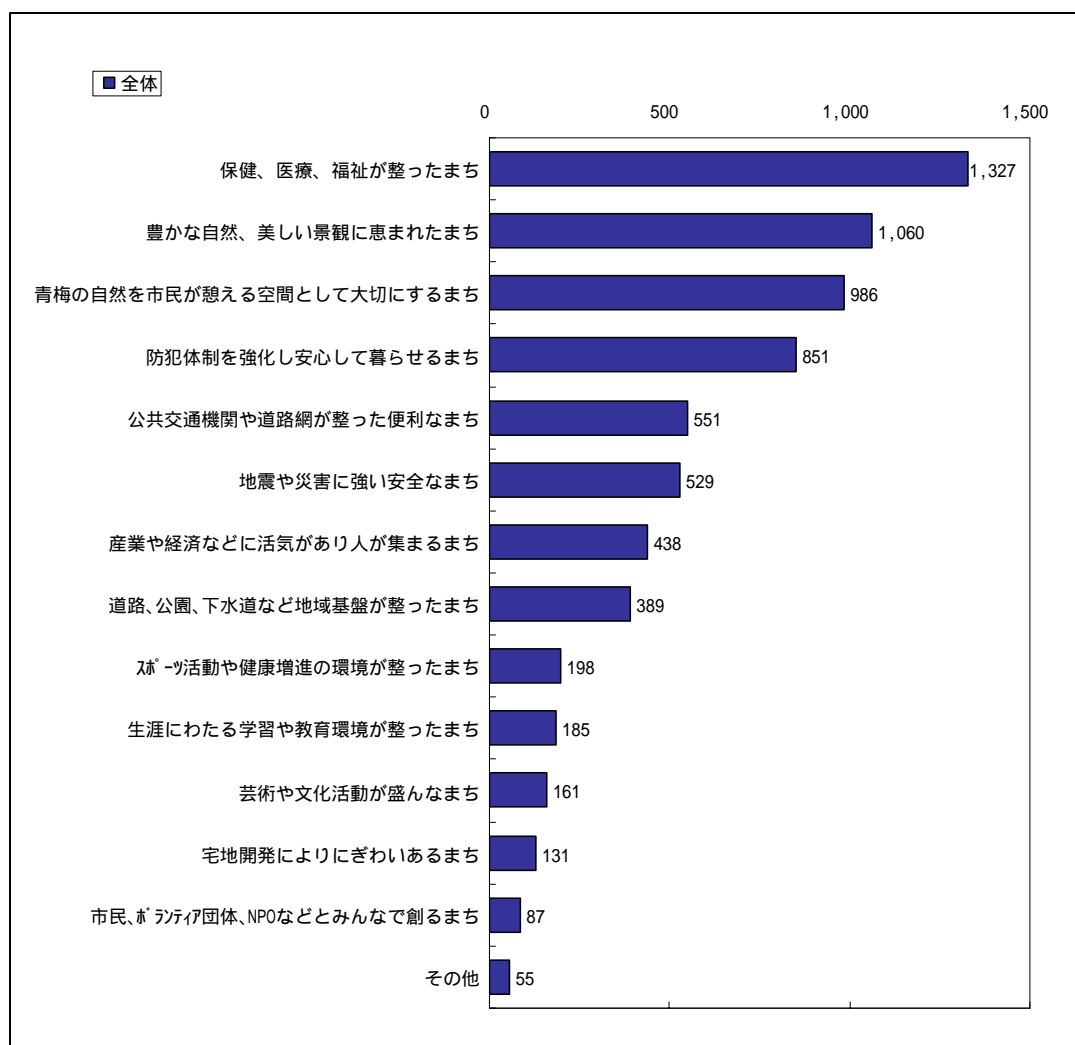




[ポイントによる順位]

青梅市の将来像について、「最も近いイメージ」は3点、「2番目に近いイメージ」は2点、「3番目に近いイメージ」は1点と配点し、回答者数を掛けて加重点を算出してみた。その結果をみると「保健、医療、福祉が整ったまち」(1,327点)が第1位に挙げられ、次いで「豊かな自然、美しい景観に恵まれたまち」(1,060点)、「青梅の自然を市民が憩える空間として大切にすまち」(986点)、「防犯体制を強化し安心して暮らせるまち」(851点)、「公共交通機関や道路網が整った便利なまち」(551点)などの順となっている。

10年後の青梅市の将来像（ポイント、全体）



## (2) 重点的に取り組むべき施策

問6 あなたは、青梅市が今後5年間で重点的に取り組んでいくべき施策は何だと思えますか。【複数回答】

「高齢者の介護予防・生活支援サービスの充実を図る」が第1位。次いで「地域医療・救急医療体制の充実を図る」、「道路などを整備し、安全な交通環境をつくる」、「子育て支援策を充実する」の順。

### [全体]

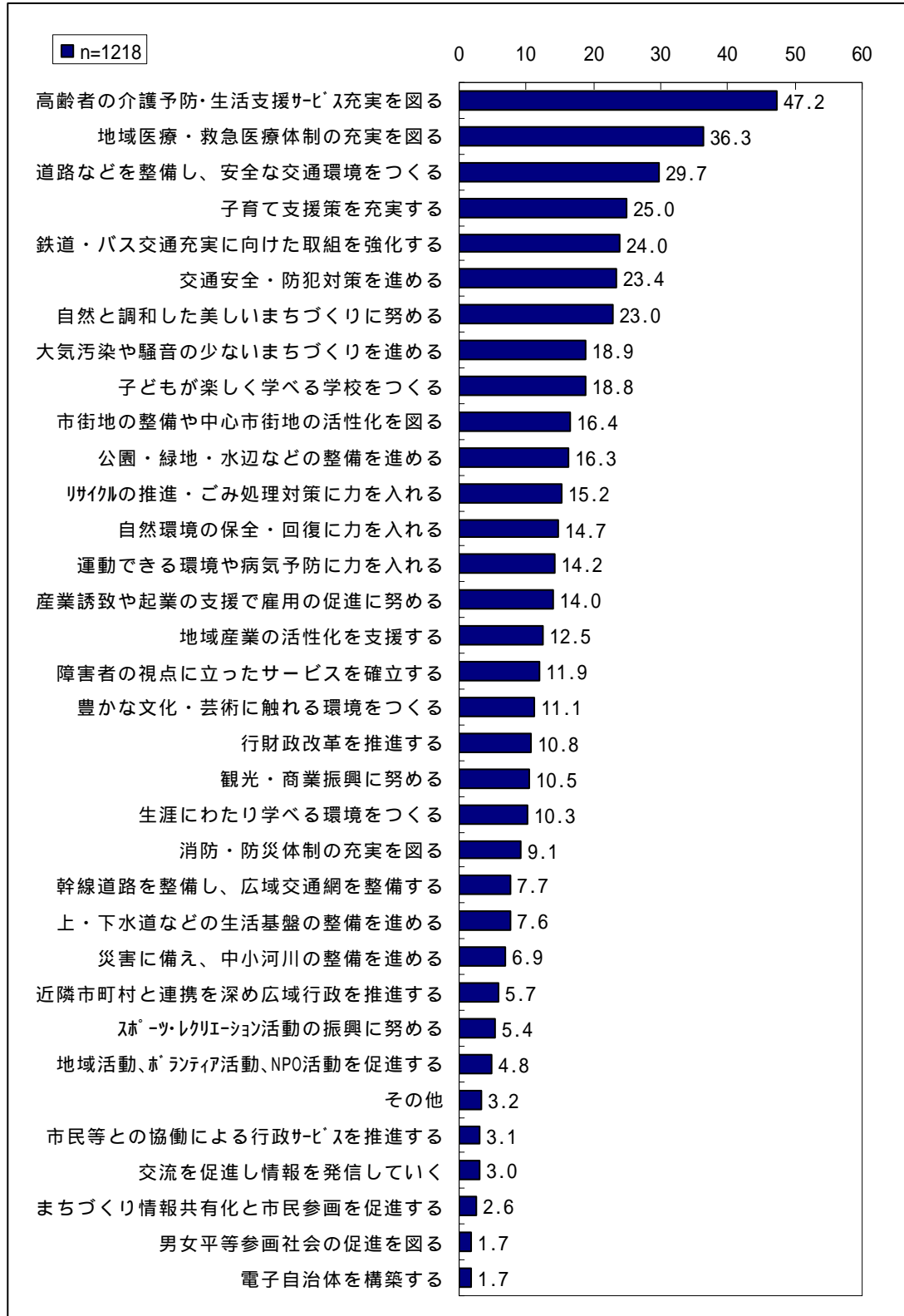
重点的に取り組むべき施策をたずねたところ、「高齢者の介護予防・生活支援サービスの充実を図る」(47.2%)が第1位に挙げられ、次いで「地域医療・救急医療体制の充実を図る」(36.3%)、「道路などを整備し、安全な交通環境をつくる」(29.7%)、「子育て支援策を充実する」(25.0%)、「鉄道・バス交通充実にに向けた取組を強化する」(24.0%)、「交通安全・防犯対策を進める」(23.4%)、「自然と調和した美しいまちづくりに努める」(23.0%)などの順となっている。

### [属性別]

性別で見ると、男性・女性ともに「高齢者の介護予防・生活支援サービスの充実を図る」(43.2%・51.2%)が第1位となっている。

年齢別で見ると、20～29歳・30～39歳では「子育て支援策を充実する」(36.7%・52.9%)、40～49歳では「地域医療・救急医療体制の充実を図る」(40.5%)、50～59歳・60歳以上では「高齢者の介護予防・生活支援サービスの充実を図る」(52.2%・64.8%)がそれぞれ第1位となっている。

重点的に取り組むべき施策（全体）



重点的に取り組むべき施策（全体、性別、年齢別）

（上位5位）

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体		高齢者の介護予防・生活支援サービス充実を図る 47.2	地域医療・救急医療体制の充実を図る 36.3	道路などを整備し、安全な交通環境をつくる 29.7	子育て支援策を充実する 25.0	鉄道・バス交通充実にに向けた取組を強化する 24.0
性別	男性	高齢者の介護予防・生活支援サービス充実を図る 43.2	地域医療・救急医療体制の充実を図る 33.5	道路などを整備し、安全な交通環境をつくる／自然と調和した美しいまちづくりに努める 28.9		交通安全・防犯対策を進める 24.8
	女性	高齢者の介護予防・生活支援サービス充実を図る 51.2	地域医療・救急医療体制の充実を図る 38.8	道路などを整備し、安全な交通環境をつくる 31.0	子育て支援策を充実する 28.7	鉄道・バス交通充実にに向けた取組を強化する 27.0
年齢	20～29歳	子育て支援策を充実する 36.7	地域医療・救急医療体制の充実を図る／交通安全・防犯対策を進める 30.0		道路などを整備し、安全な交通環境をつくる／高齢者の介護予防・生活支援サービス充実を図る 26.7	
	30～39歳	子育て支援策を充実する 52.9	子どもが楽しく学べる学校をつくる 38.2	道路などを整備し、安全な交通環境をつくる／交通安全・防犯対策を進める 32.8		地域医療・救急医療体制の充実を図る 31.4
	40～49歳	地域医療・救急医療体制の充実を図る 40.5	高齢者の介護予防・生活支援サービス充実を図る 39.0	道路などを整備し、安全な交通環境をつくる 35.9	交通安全・防犯対策を進める 29.7	自然と調和した美しいまちづくりに努める 23.1
	50～59歳	高齢者の介護予防・生活支援サービス充実を図る 52.2	地域医療・救急医療体制の充実を図る 35.9	道路などを整備し、安全な交通環境をつくる 30.3	自然と調和した美しいまちづくりに努める 28.3	鉄道・バス交通充実にに向けた取組を強化する 26.7
	60歳以上	高齢者の介護予防・生活支援サービス充実を図る 64.8	地域医療・救急医療体制の充実を図る 39.3	道路などを整備し、安全な交通環境をつくる 26.7	鉄道・バス交通充実にに向けた取組を強化する 25.5	自然と調和した美しいまちづくりに努める 21.0

### (3) 理想的な生活

問7 10年後のあなたの理想的な生活はどのような生活でしょうか。次の中から、どのような活動を増やしたい(始めたい)か、減らしたい(したくない)か、それぞれの項目についてあてはまるものを1つずつ選んでをつけてください。

「のんびり時間を過ごす生活」、「自然の中で散歩したり遊ぶ生活」を増やしたい人が多い。

#### 【「増やしたい(始めたい)」が最も多い活動】

理想的な生活でどのような活動を増やしたいかたずねたところ、「増やしたい(始めたい)」と回答した率が最も多かった項目は19項目中5項目となっている。

- ・「のんびり時間を過ごす生活」(63.4%)
- ・「自然の中で散歩したり遊ぶ生活」(57.1%)
- ・「お金をかけない遊びを楽しむ生活」(44.8%)
- ・「家族と楽しむ生活」(44.3%)
- ・「家庭菜園などを楽しむ生活」(41.8%)

#### 【「現状で良い」が最も多い活動】

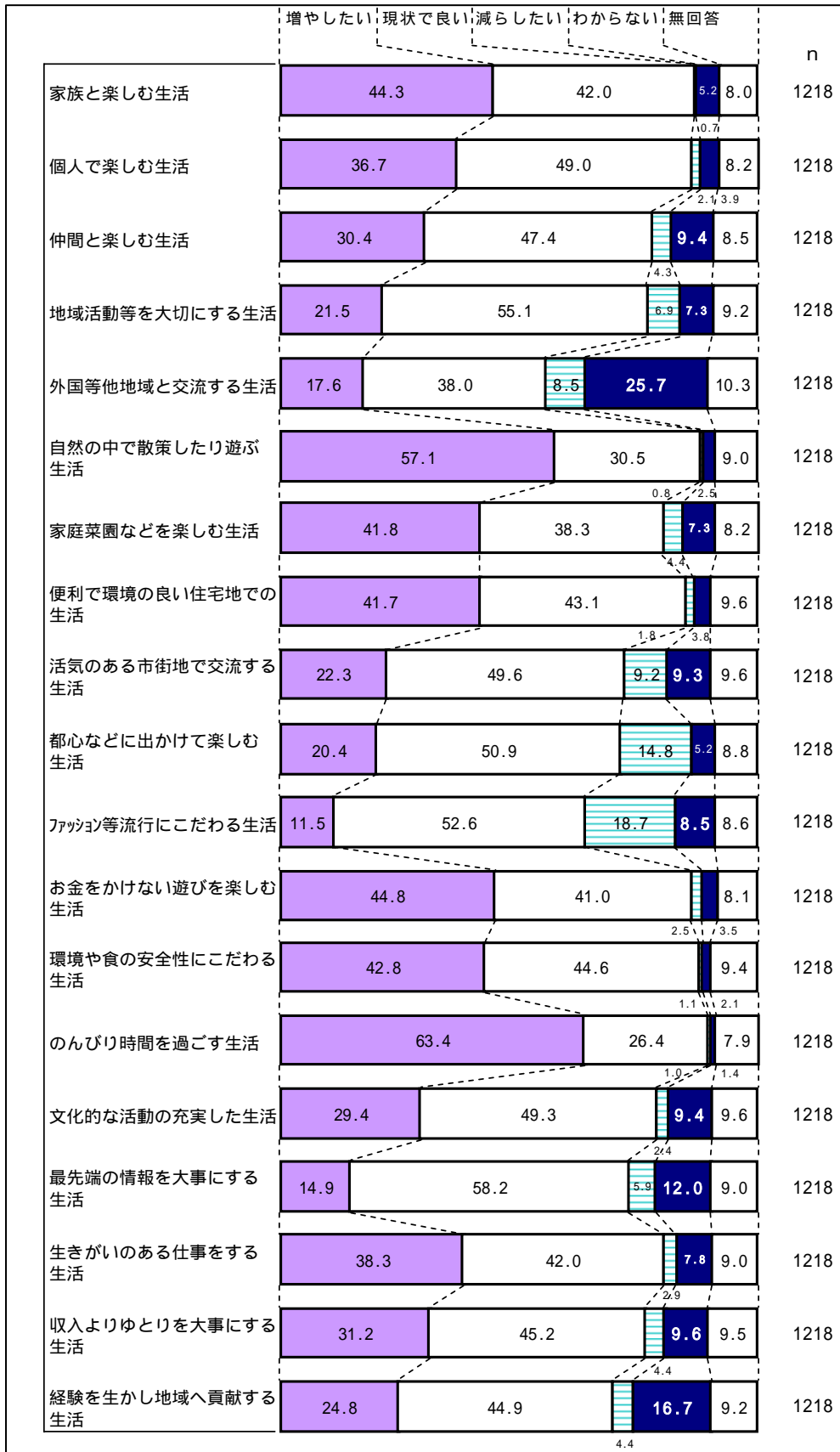
「現状で良い」と回答した率が最も多かった項目は19項目中14項目となっている。

- ・「最先端の情報を大事にする生活」(58.2%)
- ・「地域活動等を大切にする生活」(55.1%)
- ・「ファッション等流行にこだわる生活」(52.6%)
- ・「都心などに出かけて楽しむ生活」(50.9%)
- ・「活気のある市街地で交流する生活」(49.6%)
- ・「文化的な活動の充実した生活」(49.3%)
- ・「個人で楽しむ生活」(49.0%)
- ・「仲間と楽しむ生活」(47.4%)
- ・「収入よりゆとりを大事にする生活」(45.2%)
- ・「経験を生かし地域へ貢献する生活」(44.9%)
- ・「環境や食の安全性にこだわる生活」(44.6%)
- ・「便利で環境の良い住宅地での生活」(43.1%)
- ・「生きがいのある仕事をする生活」(42.0%)
- ・「外国等他地域と交流する生活」(38.0%)

#### 【「減らしたい(したくない)」が比較的多い項目】

「減らしたい(したくない)」と回答した率が比較的多い項目は、「ファッション等流行にこだわる生活」(18.7%)、「都心などに出かけて楽しむ生活」(14.8%)などであった。

### 理想的な生活（全体）



## 4 住宅について

### (1) 住宅対策で力を入れてほしいこと

問8 次の住宅対策のうち、あなたはどれに一番力を入れてほしいと思いますか。

「高齢者用の住宅の建設」が最も多く、次いで「増・改築資金の融資」、  
「住宅取得資金の融資」の順。

#### [全体]

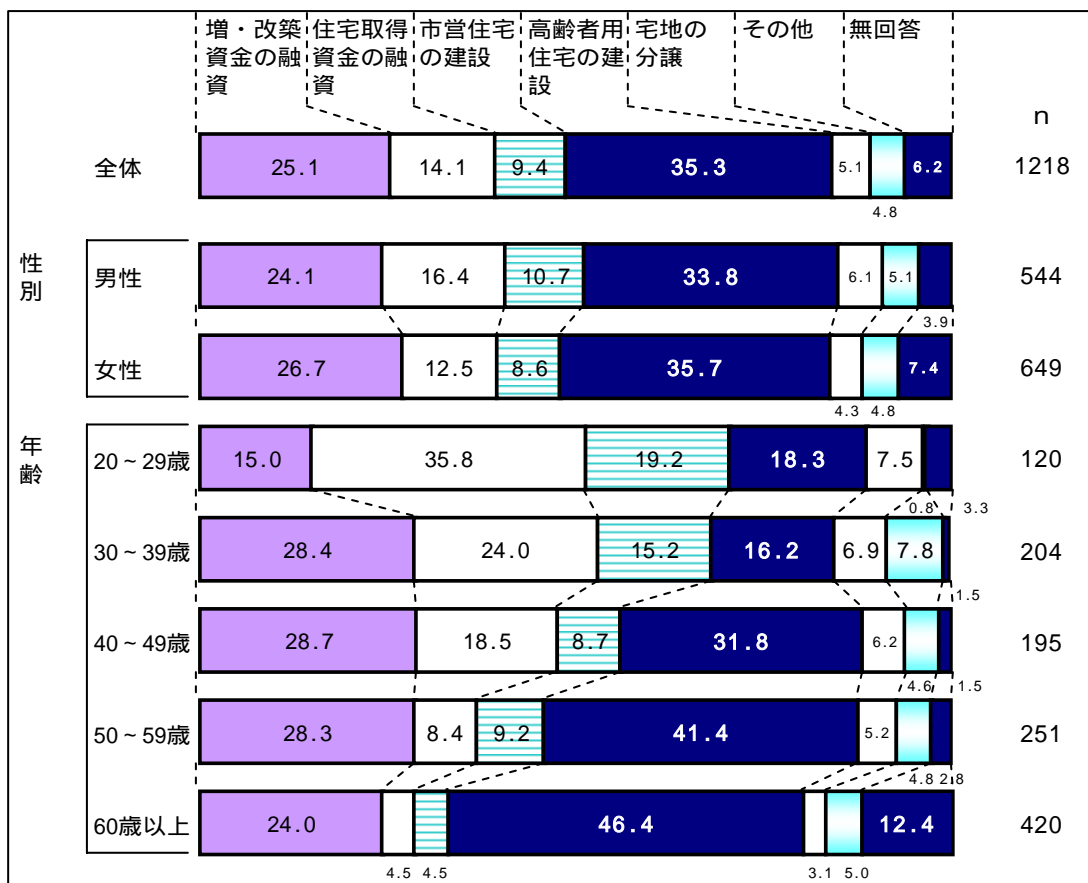
住宅対策については、「高齢者用住宅の建設」(35.3%)が最も多く、次いで「増・改築資金の融資」(25.1%)、「住宅取得資金の融資」(14.1%)などの順となっており、高齢者用住宅への要望が強い結果となっている。

#### [属性別]

性別でみると、大きな差はみられなかった。

年齢別でみると、「高齢者用住宅の建設」と回答する率が概ね年齢が上がるにつれて上昇し、60歳以上では46.4%となっている。一方、「住宅取得資金の融資」は年齢が若いほど率が高い傾向がみられ20～29歳では35.8%となっている。

住宅対策で力を入れてほしいこと(全体、性別、年齢別)



## 5 ごみ減量について

### (1) ごみの減量推進に有効なこと

問9 ごみの減量を推進するには、何が有効であると思いますか。【複数回答】

「資源物は自治会等の資源回収に出す」が第1位。次いで「小中学生を対象とした環境教育に力を入れる」が続く。

#### [全体]

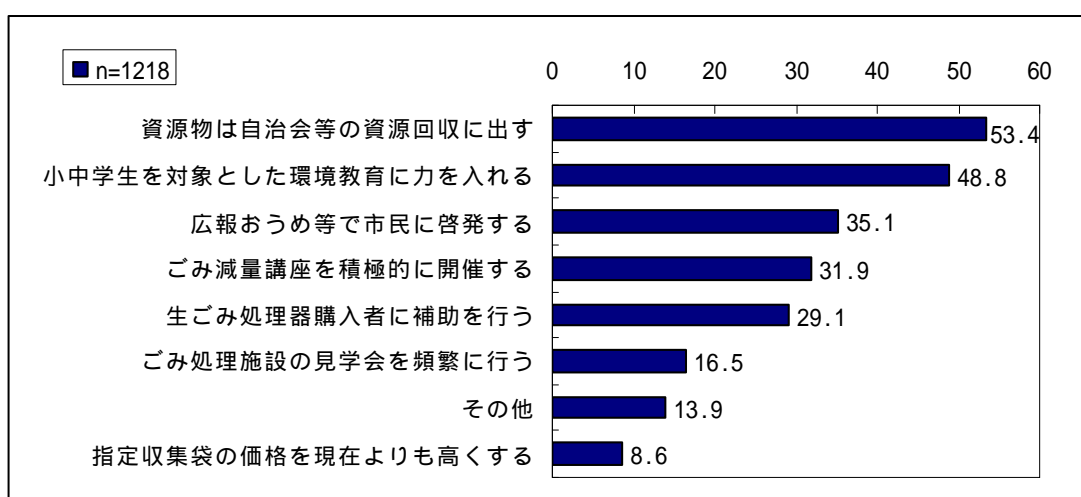
ごみの減量推進に有効なことについては、「資源物は自治会等の資源回収に出す」(53.4%)が第1位に挙げられ、次いで「小中学生を対象とした環境教育に力を入れる」(48.8%)が続き、以下、「広報おうめ等で市民に啓発する」(35.1%)、「ごみ減量講座を積極的に開催する」(31.9%)、「生ごみ処理器購入者に補助を行う」(29.1%)などの順となっている。

#### [属性別]

性別でみると、男女ともに「資源物は自治会等の資源回収に出す」が第1位となっている。

年齢別でみると、40歳未満の世代では「小中学生を対象とした環境教育に力を入れる」が、40歳以上の層では、「資源物は自治会等の資源回収に出す」が第1位回答となっている。

ごみの減量推進に有効なこと（全体）





(2) 商品過剰包装や使い捨てによるごみの増加について

問10 商品の過剰な容器包装や使い捨て商品によるごみが増えていますが、このことについてあなたのお考えに最も近いものを次の中から選んでください。

「ごみを減らすためメーカーが努力すべき」と考える人が半数を超える。

[全体]

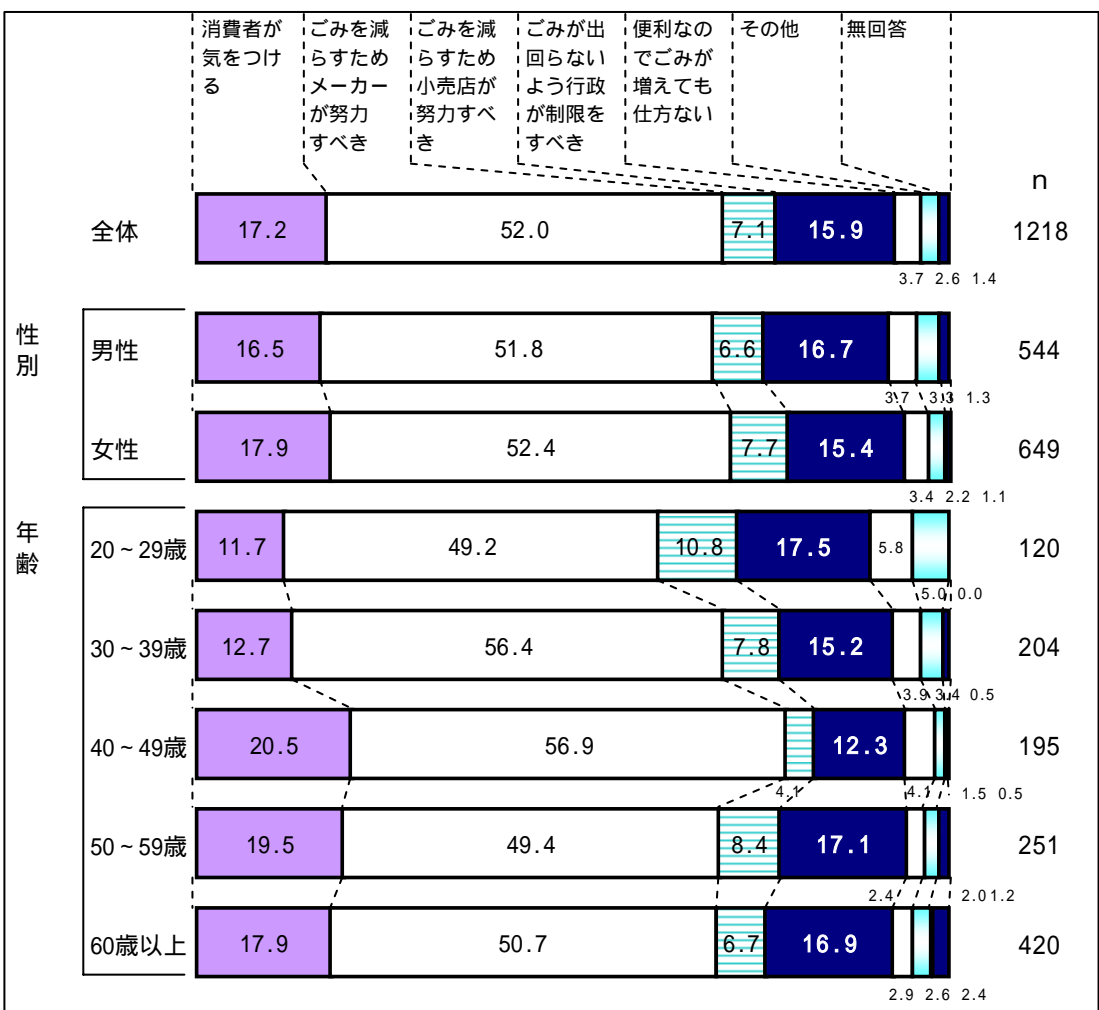
過剰包装や使い捨て商品についての考えは、「ごみを減らすためメーカーが努力すべき」が52.0%と半数を超え、「消費者が気をつける」が17.2%、「ごみが出回らないよう行政が制限をすべき」が15.9%となっている。

[属性別]

性別でみると、男女ともに「ごみを減らすためメーカーが努力すべき」が半数を超え、大きな差はみられなかった。

年齢別でみると、すべての世代で「ごみを減らすためメーカーが努力すべき」が多数を占める。

商品過剰包装や使い捨てによるごみの増加について（全体、性別、年齢別）



## 6 防災対策について

### (1) 脅威を感じる自然災害

問11 あなたの家庭では、どのような自然災害に脅威を感じていますか。【複数回答】

「地震」が他を大きく引き離して第1位。

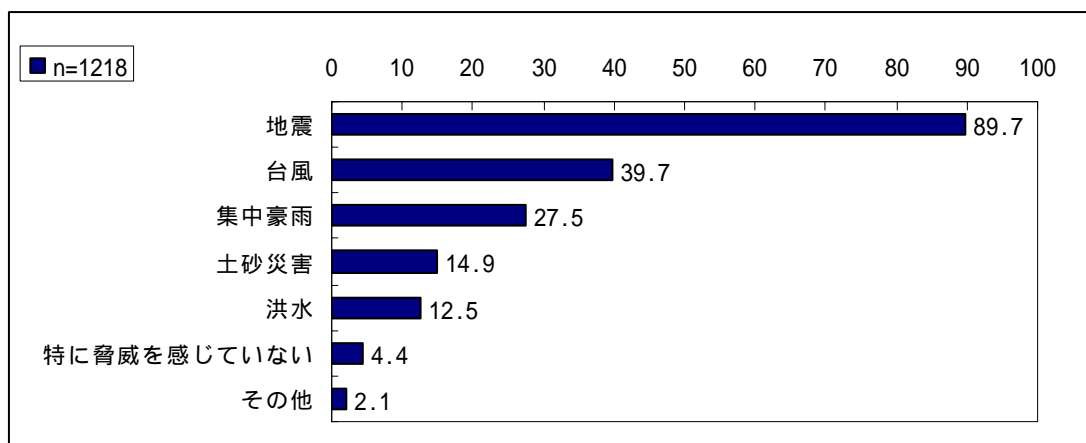
#### [全体]

脅威を感じる自然災害についてたずねたところ、「地震」(89.7%)が他を大きく引き離して第1位となっており、次いで「台風」(39.7%)、「集中豪雨」(27.5%)、「土砂災害」(14.9%)、「洪水」(12.5%)となっている。なお「特に脅威を感じていない」は4.4%であった。

#### [属性別]

性別・年齢別・居住地区別でもすべての層で「地震」が他を大きく引き離して第1位となっている。

脅威を感じる自然災害（全体）



## (2) 自然災害に対する備え

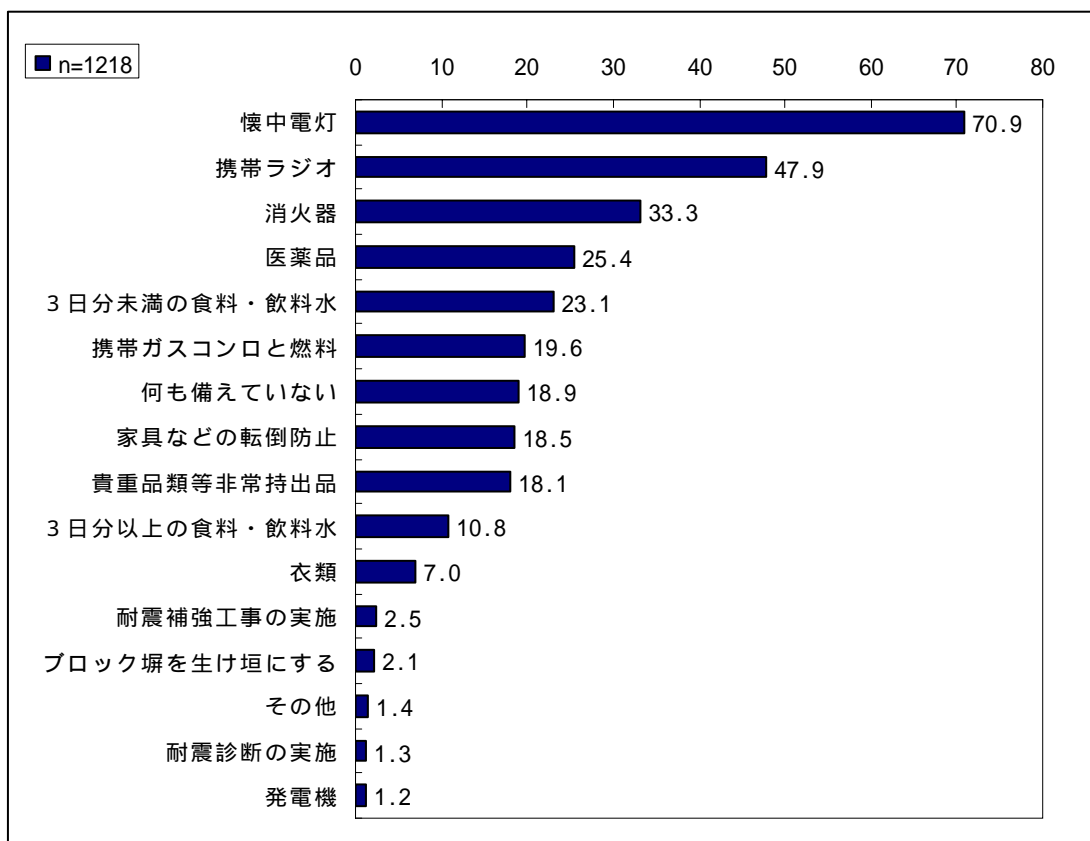
問12 あなたの家庭では、自然災害に対してどのような備えをしていますか。【複数回答】

「懐中電灯」が最も多く、次いで「携帯ラジオ」、「消火器」の順。

### [全体]

災害に対する備えについてたずねたところ、「懐中電灯」(70.9%)が第1位に挙げられ、次いで「携帯ラジオ」(47.9%)が続き、以下、「消火器」(33.3%)、「医薬品」(25.4%)、「3日分未満の食料・飲料水」(23.1%)、「携帯ガスコンロと燃料」(19.6%)などの順となっている。なお、「何も備えていない」は18.9%であった。

自然災害に対する備え（全体）



### [属性別]

性別で見ると、男性・女性ともに「懐中電灯」が第1位に挙げられ、次いで「携帯ラジオ」、「消火器」の順となっている。

年齢別で見ると、30歳以上では「懐中電灯」が第1位に挙げられ、次いで「携帯ラジオ」、「消火器」の順となっているが、20～29歳では「懐中電灯」(55.8%)に次いで「何も備えていない」(35.0%)が第2位の回答となっている。

自然災害に対する備え（全体、性別、年齢別）

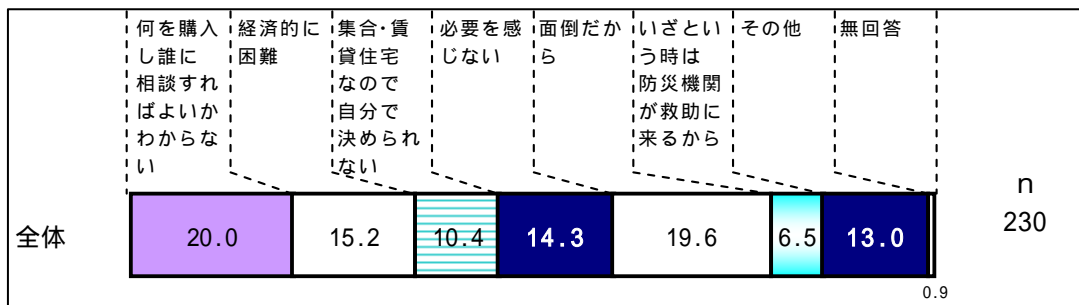
（上位5位）

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体		懐中電灯 70.9	携帯ラジオ 47.9	消火器 33.3	医薬品 25.4	3日分未満の 食料・飲料水 23.1
性別	男性	懐中電灯 68.0	携帯ラジオ 49.8	消火器 30.9	医薬品 24.8	何も備えて いない 22.2
	女性	懐中電灯 74.3	携帯ラジオ 46.2	消火器 35.6	医薬品 26.2	3日分未満の 食料・飲料水 25.4
年齢別	20～29歳	懐中電灯 55.8	何も備えて いない 35.0	携帯ラジオ 28.3	医薬品 22.5	消火器 20.8
	30～39歳	懐中電灯 63.2	携帯ラジオ 32.4	消火器 28.4	3日分未満の 食料・飲料水 27.0	何も備えて いない 26.0
	40～49歳	懐中電灯 68.2	携帯ラジオ 36.9	消火器 28.7	医薬品 23.6	何も備えて いない 21.5
	50～59歳	懐中電灯 75.3	携帯ラジオ 53.4	消火器 37.8	医薬品 26.7	携帯ガスコン ロと燃料 21.9
	60歳以上	懐中電灯 78.6	携帯ラジオ 63.1	消火器 38.6	貴重品類等 非常持出品 29.0	医薬品 28.6

[何も備えていない理由]

問12で「何も備えていない」と回答した人にその理由をたずねたところ、「何を購入し誰に相談すればよいかわからない」が20.0%、「面倒だから」が19.6%、「経済的に困難」が15.2%、「必要を感じない」が14.3%と続き、理由が分かれる結果となっている。

何も備えていない理由（「何も備えていない」と回答した人のみ・全体）



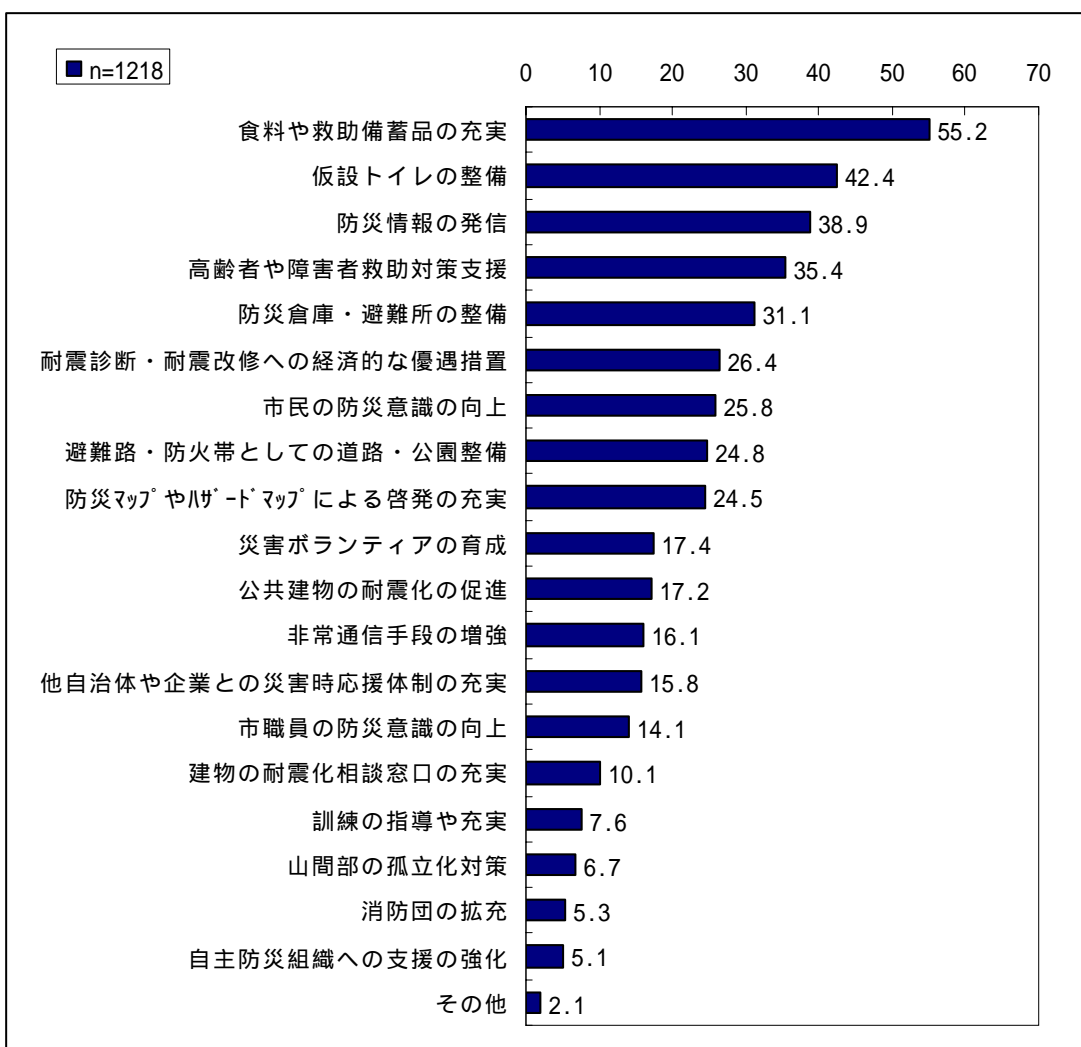
### (3) 防災対策で市に期待または充実すべきと思うこと

問13 防災対策で市に期待するまたは充実すべきだと思うものは何ですか。【複数回答】

「食料や救助備蓄品の充実」が第1位。次いで「仮設トイレの整備」、「防災情報の発信」の順。

[全体]

防災対策については、「食料や救助備蓄品の充実」(55.2%)が第1位に挙げられ、次いで「仮設トイレの整備」(42.4%)、「防災情報の発信」(38.9%)、「高齢者や障害者救助対策支援」(35.4%)、「防災倉庫・避難所の整備」(31.1%)などの順となっている。



(4) 防災行政無線のチャイム放送について

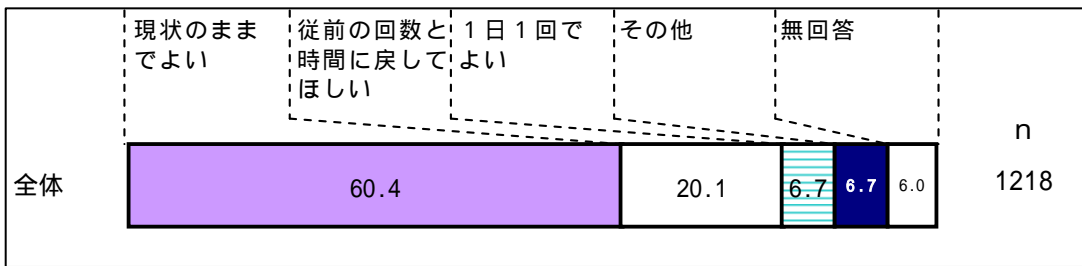
問14 防災行政無線のチャイム放送について、昨年、1日3回から1日1回午後5時に変更いたしました。このチャイム放送について、おうかがいします。  
問14-1 回数および時間について / 問14-2 音色について

回数および時間は「現状のままでよい」が60.4%、音色は「チャイムでよい」が66.4%。

[回数および時間]

防災行政無線のチャイム放送回数と時間について、「現状のままでよい」が60.4%を占め、「従前の時間に戻してほしい」が20.1%、「1日1回でよい」および「その他」が同率で6.7%となっており、約6割の人が現状でよいと回答している。

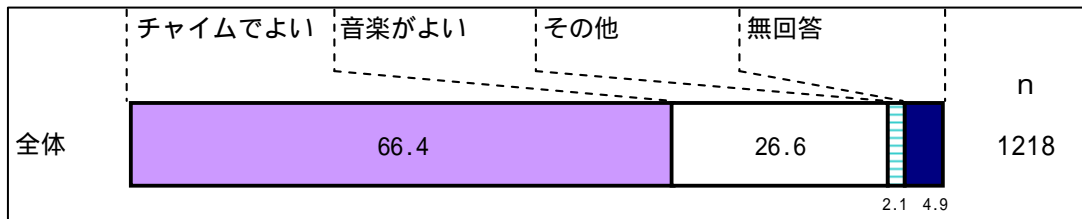
回数および時間（全体）



[チャイム放送の音色]

防災行政無線のチャイム放送の音色については、「チャイムでよい」が66.4%を占め、「音楽がよい」が26.6%などとなっており、6割以上の方が現状のチャイム放送でよいと回答している。

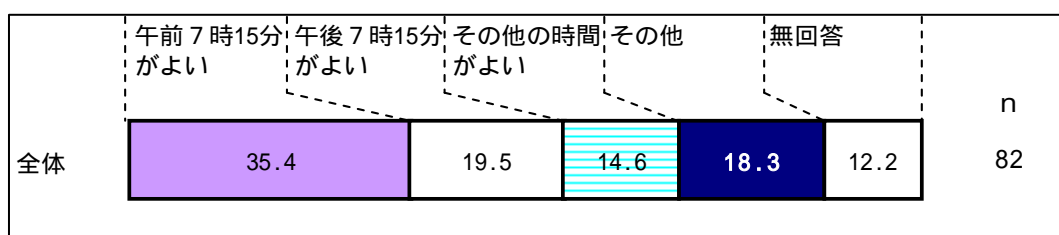
チャイム放送の音色（全体）



[「1日1回でよい」の時間帯]

[回数および時間]で「1日1回でよい」と回答した人にその時間をたずねたところ、「午前7時15分がよい」が35.4%、「午後7時15分がよい」が19.5%、「その他」が18.3%、「その他の時間がよい」が14.6%となっている。

「1日1回でよい」の時間帯（全体 / 複数回答）



【「その他の時間がよい」の時間帯】

【「1日1回でよい」の時間帯】で「その他の時間がよい」と回答した人に自由記述でその時間帯をたずねた結果をまとめると、「午後5時」が4件、「午後4時」が3件などとなっている。

「その他の時間がよい」の時間帯（自由記述）

時間帯（同意見数）
午後5時（4件）、午後4時（3件）、午前7時30分、午前11時30分、午前11時55分、午後5時30分、午後8時

【「その他」の時間帯】

【「1日1回でよい」の時間帯】で「その他」と回答した人に自由記述でその時間帯をたずねた結果をまとめると、「4月～9月は午後5時、10月～3月は午後4時」が9件で最も多くなっている。

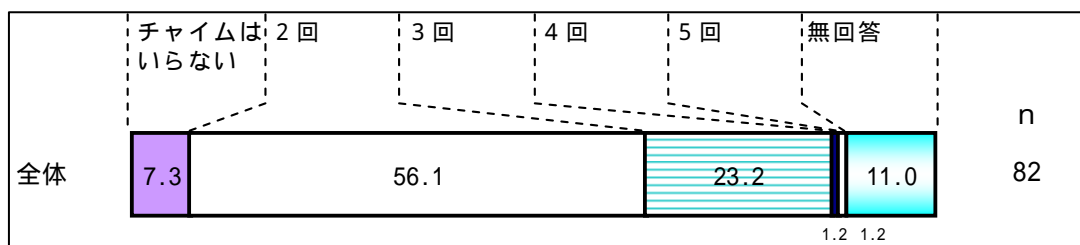
「その他」の時間帯（自由記述）

時間帯（同意見数）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4月～9月は午後5時、10月～3月は午後4時（9件）</li> <li>・ 4月～9月は午後5時、10月～3月は午後4時30分（3件）</li> <li>・ 4月～9月は午後6時、10月～3月は午後5時</li> <li>・ 4月～9月は午後5時30分、10月～3月は午後4時30分</li> <li>・ 4月～10月は午後5時、11月～3月は午後4時</li> <li>・ 4月～6月は午後5時、7月～9月は午後6時、10月～3月は午後4時30分</li> <li>・ 4月～9月は午後4時、10月～3月は午後5時</li> <li>・ 3月～10月は午後5時、11月～2月は午後4時</li> <li>・ 冬場は午後4時</li> <li>・ 午後4時45分</li> <li>・ 回数が多いとうるさい</li> <li>・ 現在、聞こえない</li> <li>・ 場所的に何をいっているのか判りにくい。</li> </ul>

【「その他」の回数】

【回数および時間】で「その他」と回答した人にチャイムの回数をたずねたところ、「2回」が56.1%、「3回」が23.2%、「チャイムはいらない」が7.3%などとなっている。

その他の場合の回数（全体）



【「その他」の時間帯】

【回数および時間】で「その他」と回答した人にチャイムの時間帯を自由記述でたずねた結果をまとめると以下のとおりとなっている。

「その他」の時間帯（自由記述）

時間帯（同意見数）	
「2回」と回答した人	
・午前7時15分・午後5時（9件）	・午前7時15分・午前11時30分
・午前7時・午後5時（5件）	・午前9時・午後4時
・午前7時30分・午後5時（3件）	・午前10時・午後4時30分
・午後12時・午後5時（3件）	・午前10時・午後5時
・午前7時15分・午後4時（2件）	・午後5時・午後7時
・午前6時45分・午後4時30分	
「3回」と回答した人	
・午前7時・午後12時・午後5時（6件）	
・午前7時15分・午後12時・午後5時（2件）	
・午前7時・午前11時45分・午後5時	
・午前7時・午後12時・午後6時	
・午前7時・午後4時・午後5時	
・午前7時・午後4時・午後7時	
・午前7時15分・午前11時45分・午後5時	
・午前7時15分・午後5時・午後7時15分	
・午前8時・午後12時・午後4時30分	
・午後5時・午後6時・午後7時	
「5回」と回答した人	
・午前8時・午前10時・午後12時・午後3時・午後5時	



## 7 安全・安心まちづくり施策について

### (1) 一番不安に感じること

問15 あなたが今一番不安に感じることは何ですか。

「少年の凶悪犯罪が起きていること」が最も多く、次いで「通学途中に襲われる事件が起きていること」が続く。

#### [ 全体 ]

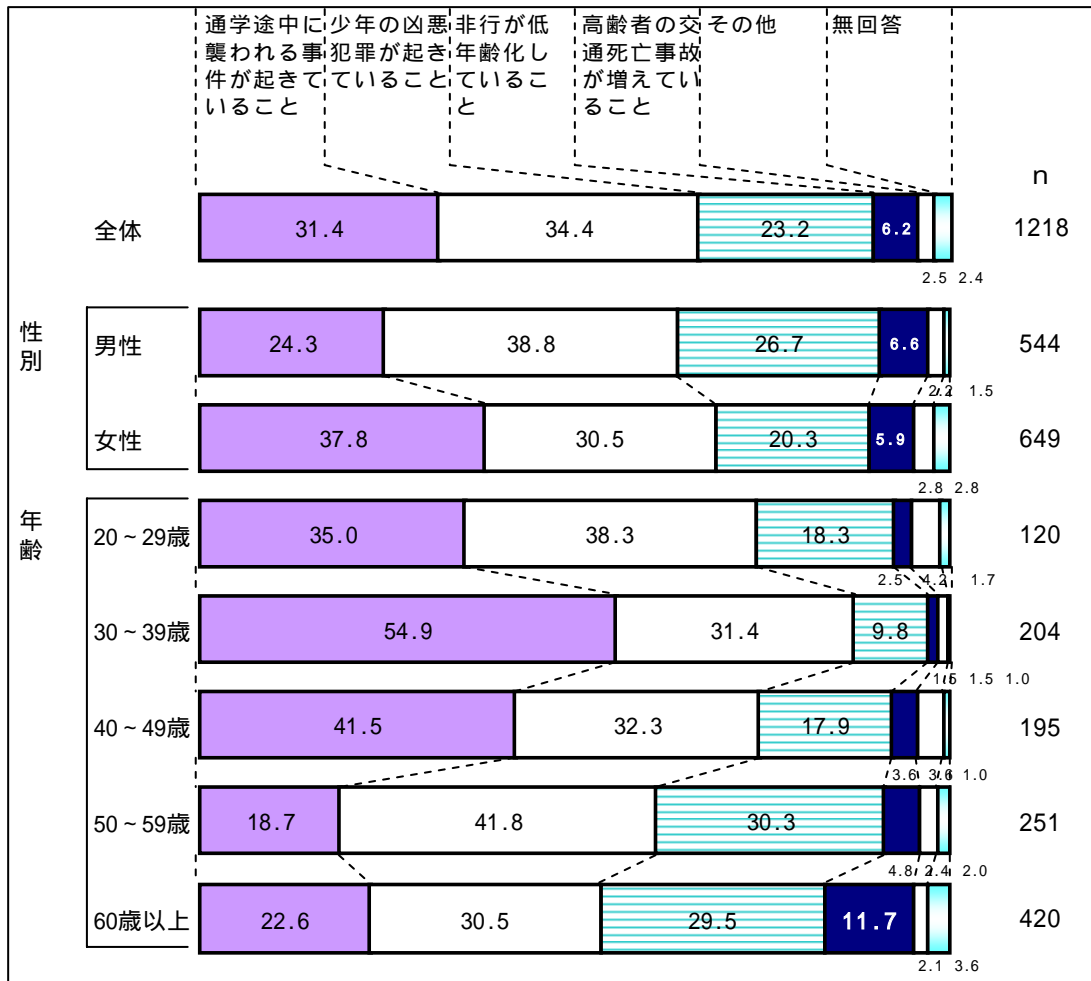
不安に感じることは、「少年の凶悪犯罪が起きていること」が 34.4%で最も多く、次いで「通学途中に襲われる事件が起きていること」(31.4%)が続き、以下、「非行が低年齢化していること」(23.2%)、「高齢者の交通死亡事故が増えていること」(6.2%)などの順となっている。

#### [ 属性別 ]

性別で見ると、男性では「少年の凶悪犯罪が起きていること」(38.8%)が第1位の回答となっているが、女性では「通学途中に襲われる事件が起きていること」(37.8%)と回答した率が男性(24.3%)を約14ポイント上回り、第1位の回答となっている。

年齢別で見ると、20～29歳・50～59歳・60歳以上では「少年の凶悪犯罪が起きていること」(38.3%・41.8%・30.5%)、30～39歳・40～49歳では「通学途中に襲われる事件が起きていること」(54.9%・41.5%)が第1位となっており、特に子育て世代といえる30代では半数以上が子どもへの犯罪に対して非常に不安を感じていることがうかがえる。

一番不安に感じること（全体、性別、年齢別）



## (2) 安全・安心なまちづくりで力を入れるべき施策

問16 青梅市では安全で安心して暮らせるまちを目標に掲げ、次のような防犯対策や交通安全対策を進めています。行政が特に力を入れるべきと思う施策は何ですか。【複数回答】

「警察官による防犯パトロールの強化」が第1位。次いで「街路灯・防犯灯の設置」が続く。

### [全体]

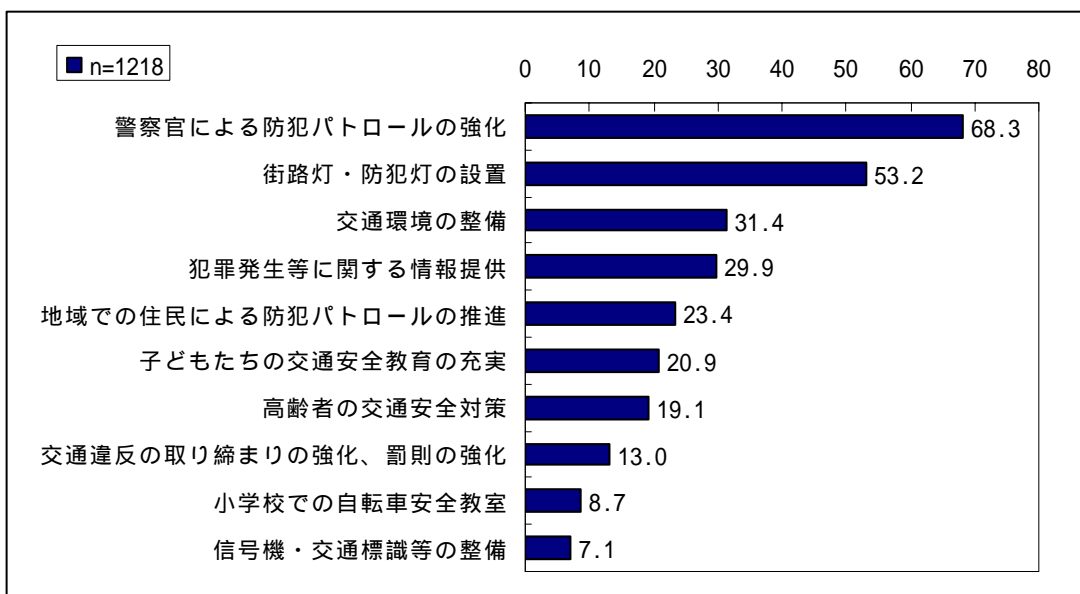
安全・安心なまちづくりに向けた取り組みについては、「警察官による防犯パトロールの強化」(68.3%)が第1位に挙げられ、次いで「街路灯・防犯灯の設置」(53.2%)が続き、以下、「交通環境の整備」(31.4%)、「犯罪発生等に関する情報提供」(29.9%)などの順となっている。

### [属性別]

性別で見ると、男性・女性ともに「警察官による防犯パトロールの強化」(69.7%・67.5%)が第1位に挙げられている。また、女性では「街路灯・防犯灯の設置」(57.9%)と回答する率が男性(48.3%)を約10ポイント上回る。

年齢別で見ると、すべての世代で全体と同様に「警察官による防犯パトロールの強化」が第1位になっており、次いで「街路灯・防犯灯の設置」が第2位に挙げられる結果となっている。

### 安全・安心なまちづくりで力を入れるべき施策（全体）



### (3) 協力しているまたはしたい防犯・交通安全活動

問17 安全で安心して暮らせるまちにするためには、市民の皆さんの協力が必要です。あなたが協力している、または協力したいと思う防犯活動・交通安全活動は何ですか。  
【複数回答】

「自治会による活動」が第1位。

#### [全体]

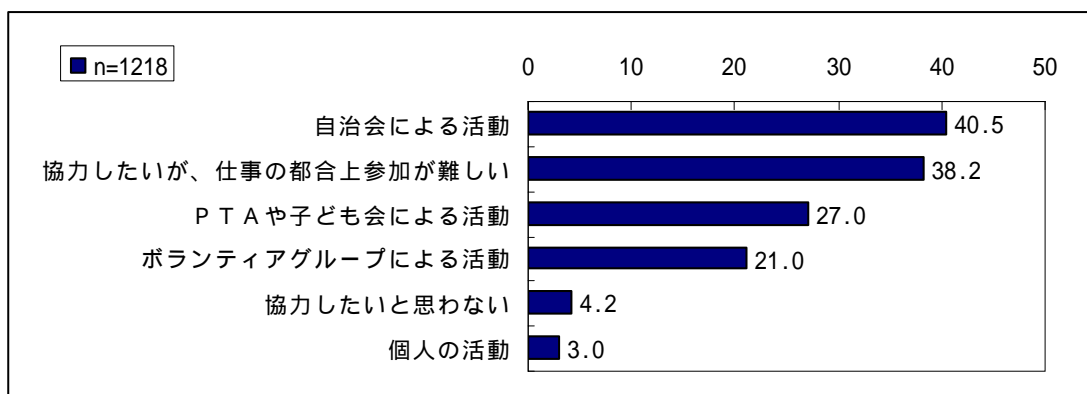
協力したいまたは協力している防犯・交通安全活動については、「自治会による活動」(40.5%)が第1位に挙げられ、次いで「協力したいが、仕事の都合上参加が難しい」(38.2%)が続き、「PTAや子ども会による活動」(27.0%)、「ボランティアグループによる活動」(21.0%)などの順となっている。なお、「協力したいと思わない」は4.2%であった。

#### [属性別]

性別でみると、男性では「協力したいが、仕事の都合上参加が難しい」(43.8%)、女性では「自治会による活動」(40.7%)が第1位となっている。また、女性では「PTAや子ども会による活動」(31.7%)と回答する率が男性(21.7%)を10ポイント上回る。

年齢別でみると、20～29歳・30～39歳・40～49歳では「協力したいが、仕事の都合上参加が難しい」(57.5%・45.6%・43.6%)、50～59歳・60歳以上では「自治会による活動」(45.8%・53.6%)が第1位となっている。

協力しているまたはしたい防犯・交通安全活動（全体）



## 8 学習・スポーツについて

### (1) 市民センターでの教室や講演会の開催について

問18 市では、各市民センターなどでいろいろな教室および講演会を開催していますが、あなたはどのようなものを行ってほしいと思いますか。【複数回答】

「健康管理に関するもの」が第1位。次いで「芸術や趣味に関するもの」、「パソコンなどITに関するもの」の順。

#### [全体]

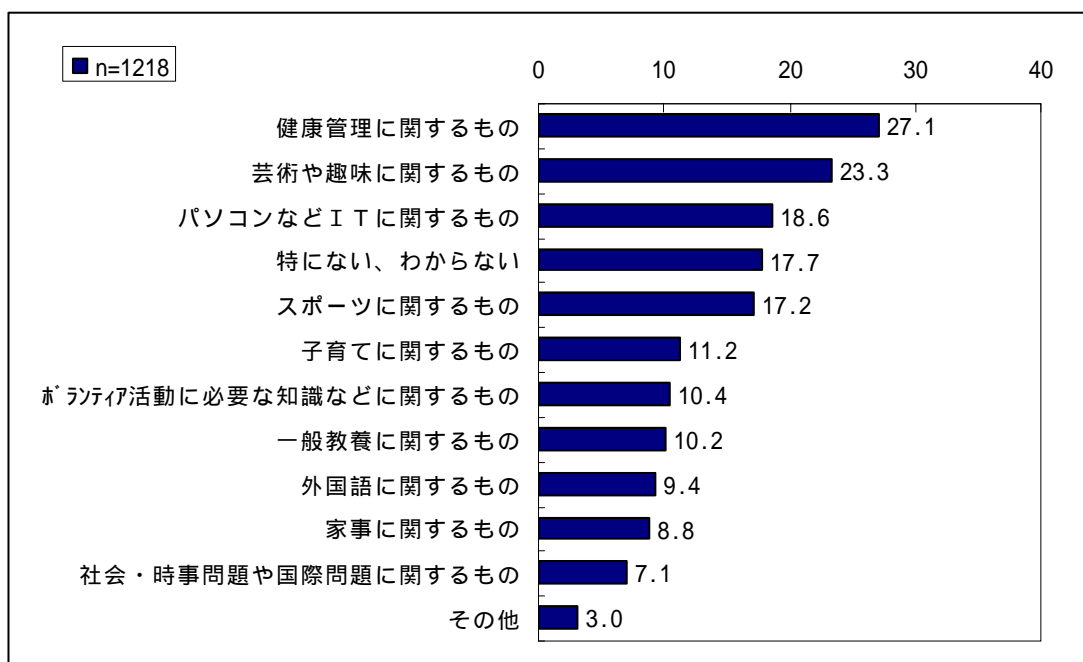
市民センターでの教室や講演などの要望をたずねたところ、「健康管理に関するもの」(27.1%)が第1位に挙げられ、次いで「芸術や趣味に関するもの」(23.3%)、「パソコンなどITに関するもの」(18.6%)、「スポーツに関するもの」(17.2%)などの順となっている。なお、「特にない、わからない」は(17.7%)であった。

#### [属性別]

性別でみると、男女ともに「健康管理に関するもの」が第1位となっている。

性別でみると、20～29歳・30～39歳では「スポーツに関するもの」、40～49歳・60歳以上では「健康管理に関するもの」、50～59歳では「芸術や趣味に関するもの」がそれぞれ第1位となっており、世代により興味のある教室や講演に違いがみられた。

市民センターでの教室や講演会の開催について（全体）



## (2) 今後やってみたいスポーツ

問19 あなたは、今後どのようなスポーツをしたいと思いますか。【複数回答】

「ウォーキング」が第1位。次いで「登山・ハイキング」などの順。

### [全体]

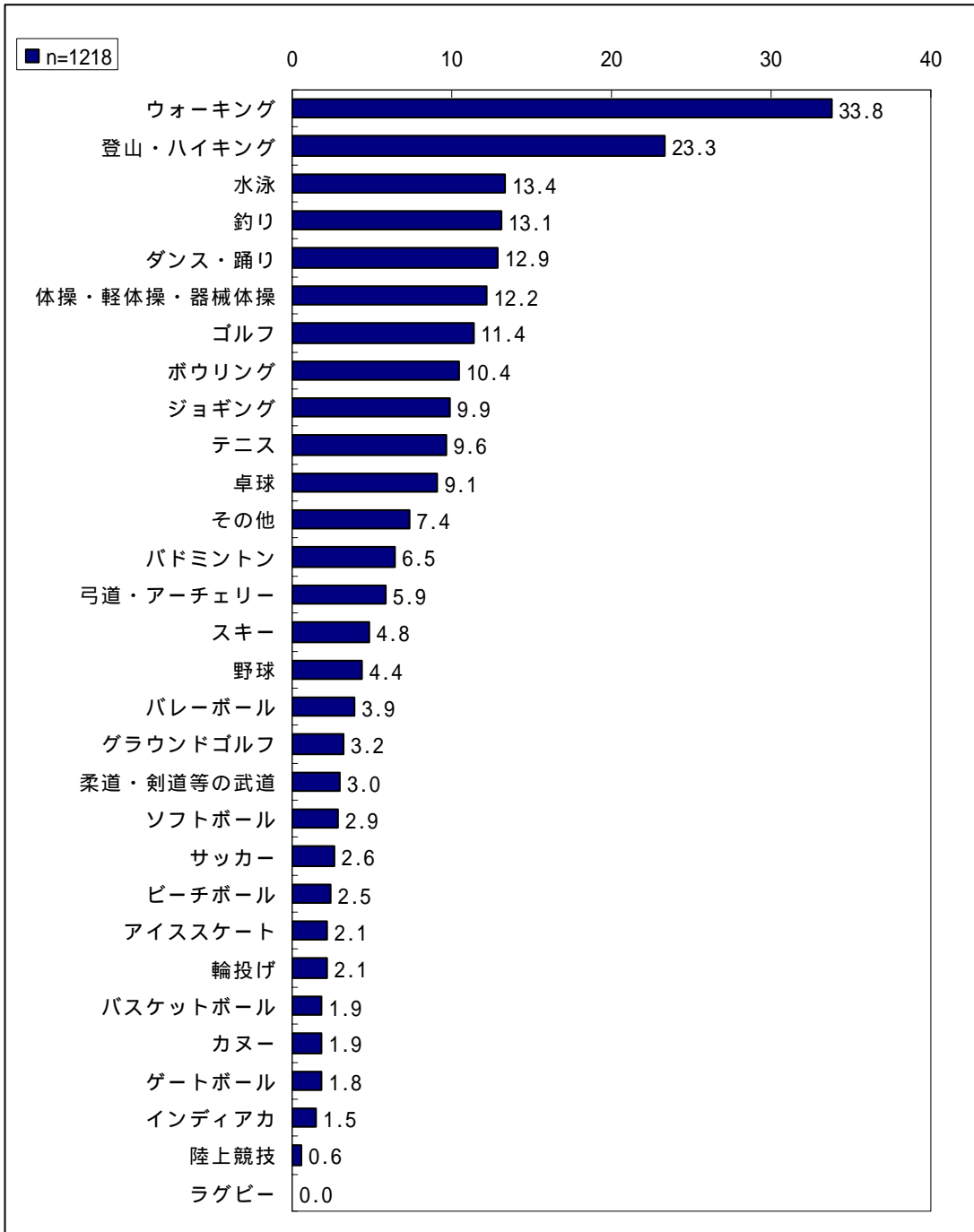
今後やってみたいスポーツをたずねたところ、「ウォーキング」(33.8%)が第1位に挙げられ、次いで「登山・ハイキング」(23.3%)、「水泳」(13.4%)、「釣り」(13.1%)、「ダンス・踊り」(12.9%)、「体操・軽体操・器械体操」(12.2%)などの順となっている。

### [属性別]

性別で見ると、男女ともに「ウォーキング」が第1位となっているが、男性では女性に比べて「ゴルフ」(17.5%)、女性では男性に比べて「ダンス・踊り」(20.2%)の人气が高い傾向がみられた。

性別で見ると、20～29歳では「水泳」、30歳以上では「ウォーキング」が第1位に挙げられ、上位回答をみても興味のあるスポーツが様々であることがうかがえる。

今後やってみたいスポーツ（全体）



## 9 青梅市立図書館について

### (1) 市立図書館の利用について

問20 あなたは、青梅市立図書館を利用したことがありますか。

「利用したことがある」が54.1%。一方、「利用したことがない」は44.4%。

#### [全体]

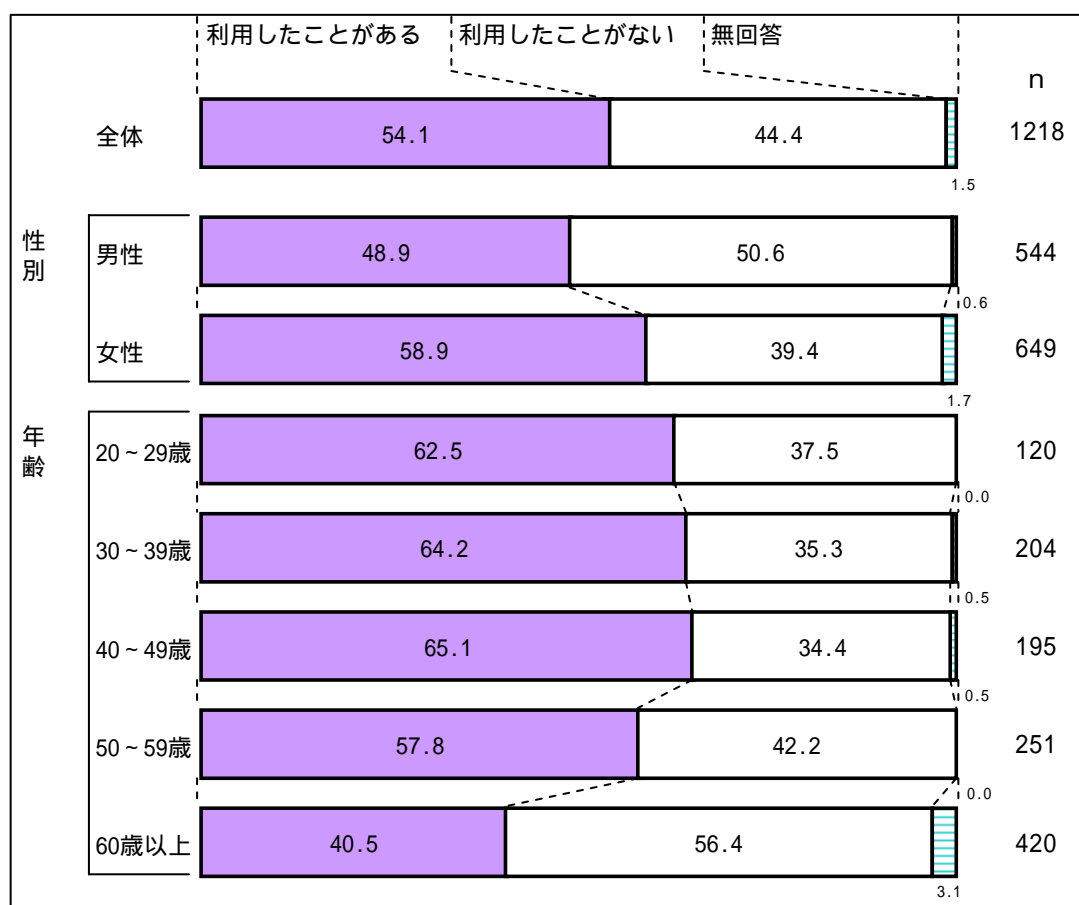
市立図書館の利用の有無をたずねたところ、「利用したことがある」が54.1%、「利用したことがない」は44.4%であった。

#### [属性別]

性別でみると、女性が男性より利用している率が10ポイント高い。

年齢別でみると、50歳未満の層で利用している率が高い傾向がみられた。

市立図書館の利用について（全体、性別、年齢別）





## (2) 市立図書館の利用目的

問20-1 市立図書館を利用する主な目的は何ですか。【問20で「1.利用したことがある」と回答した人のみ/複数回答】

「趣味や娯楽のため」が他を大きく引き離して第1位。次いで「知識や教養を得るため」が2大目的。

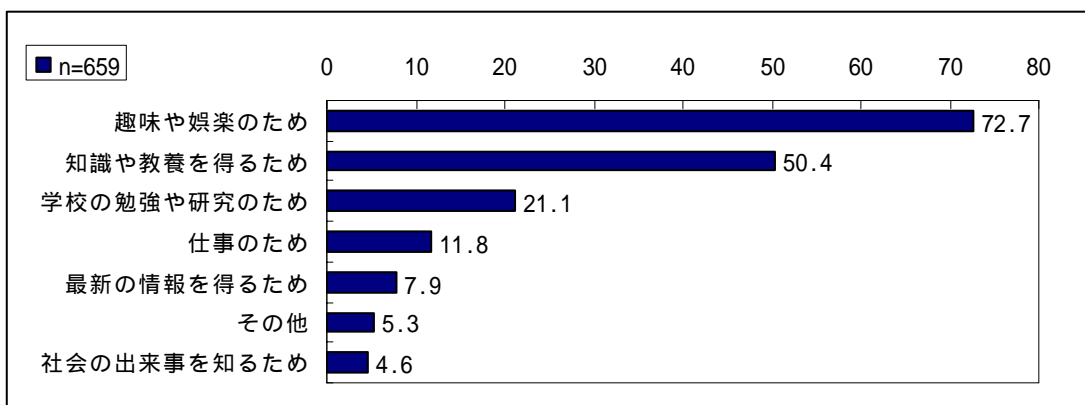
### [全体]

図書館の利用目的についてたずねたところ、「趣味や娯楽のため」(72.7%)が他を大きく引き離して第1位となっており、次いで「知識や教養を得るため」(50.4%)、が続き、これらが利用の2大目的となっている。その他では「学校の勉強や研究のため」(21.1%)、「仕事のため」(11.8%)、「最新の情報を得るため」(7.9%)の順であった。

### [属性別]

性別・年齢別でも、全体と同様に「趣味や娯楽のため」および「知識や教養を得るため」の2大目的が上位を占める結果となっている。

市立図書館の利用目的(全体)



### (3) 利用したことがない理由

問20-2 利用したことがない理由は何ですか。【問20で「2.利用したことがない」と回答した人のみ/複数回答】

「必要な資料は自分で購入しているから」が第1位。次いで「自宅から遠いから」、「時間に余裕がないから」の順。

#### [全体]

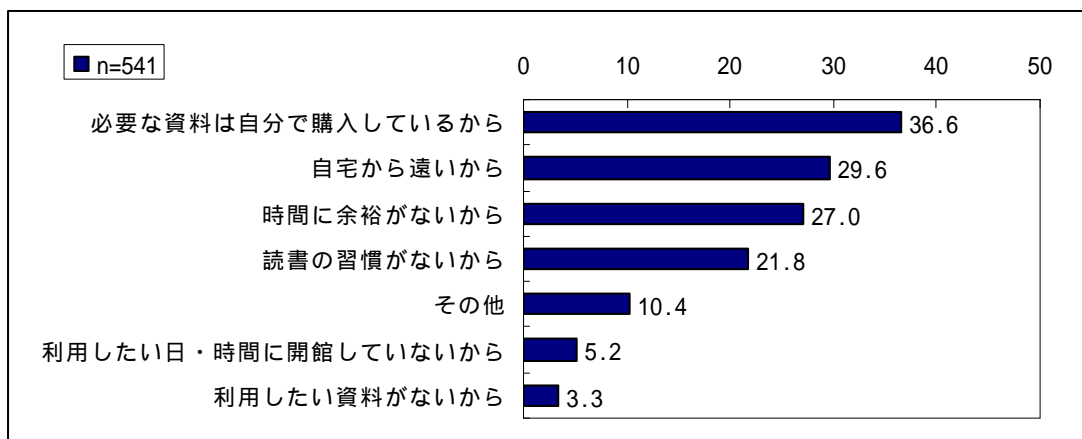
図書館を利用しない理由をたずねたところ、「必要な資料は自分で購入しているから」(36.6%)が第1位に挙げられ、次いで「自宅から遠いから」(29.6%)、「時間に余裕がないから」(27.0%)、「読書の習慣がないから」(21.8%)などの順となっている。

#### [属性別]

性別でみると、男性では「必要な資料は自分で購入しているから」(40.4%)、女性では「自宅から遠いから」(33.6%)が第1位の回答となっている。

年齢別でみると、20～29歳・40～49歳では「時間に余裕がないから」(31.1%・40.3%)、30～39歳では「自宅から遠いから」および「時間に余裕がないから」(同率33.3%)、50～59歳・60歳以上では「必要な資料は自分で購入しているから」(47.2%・35.9%)がそれぞれ第1位に挙げられている。

利用したことがない理由（全体）



## 10 男女平等について

### (1) 男女平等参画社会に向け市が力を入れるべき施策

問21 男女平等参画社会の実現に向けて、市が特に力を入れるべきと思う施策はどのようなことですか。【複数回答】

「保育所など子育て支援のための施策の充実」が第1位。次いで「高齢者の介護に関する施策の充実」、「女性の職業教育や再就職訓練の充実」の順。

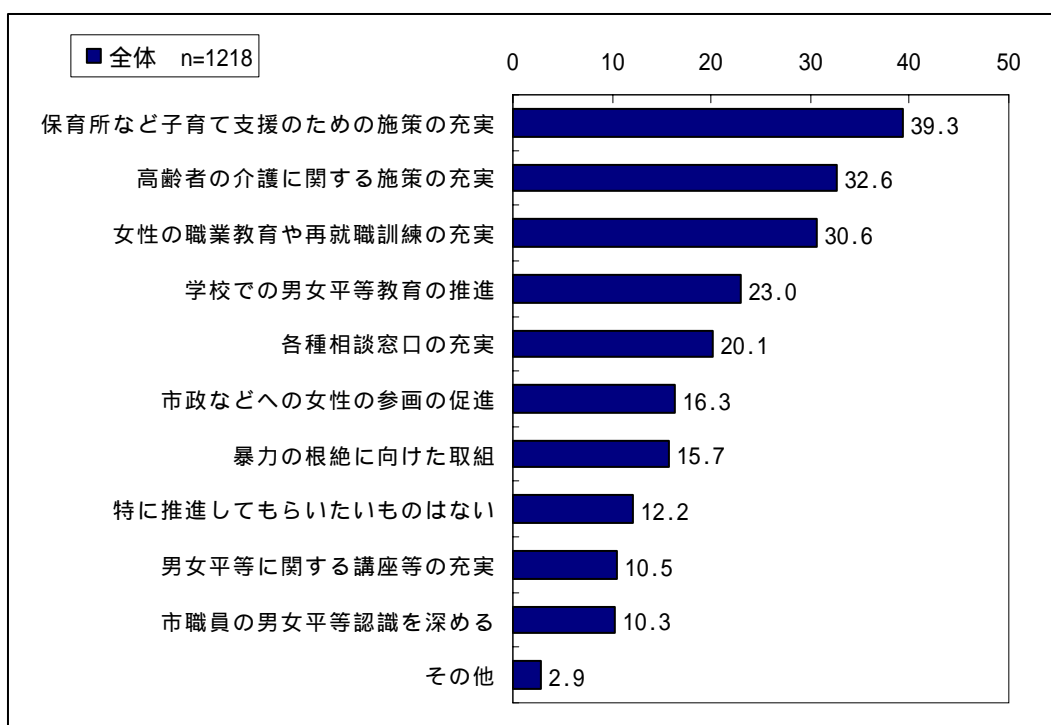
#### [全体]

男女平等参画社会に向け市が力を入れるべき施策は、「保育所など子育て支援のための施策の充実」(39.3%)が第1位に挙げられ、次いで「高齢者の介護に関する施策の充実」(32.6%)、「女性の職業教育や再就職訓練の充実」(30.6%)が続き、以下、「学校での男女平等教育の推進」(23.0%)、「各種相談窓口の充実」(20.1%)などの順となっている。

#### [属性別]

性別で見ると、男性・女性ともに「保育所など子育て支援のための施策の充実」(37.5%・41.8%)が第1位となっている。また、女性では「女性の職業教育や再就職訓練の充実」(38.1%)と回答する人が男性(22.8%)を約15ポイント上回り、女性では各種福祉サービスの充実とともに、就業支援に向けた取組への期待が強い。

男女平等参画社会に向け市が力を入れるべき施策（全体）



# 11 健康について

## (1) 健康診断の受診について

問22 あなたはこの1年間に健康診断を受けたことがありますか。

「受けたことがある」が72.8%。一方、「受けたことはない」は26.4%。

### [全体]

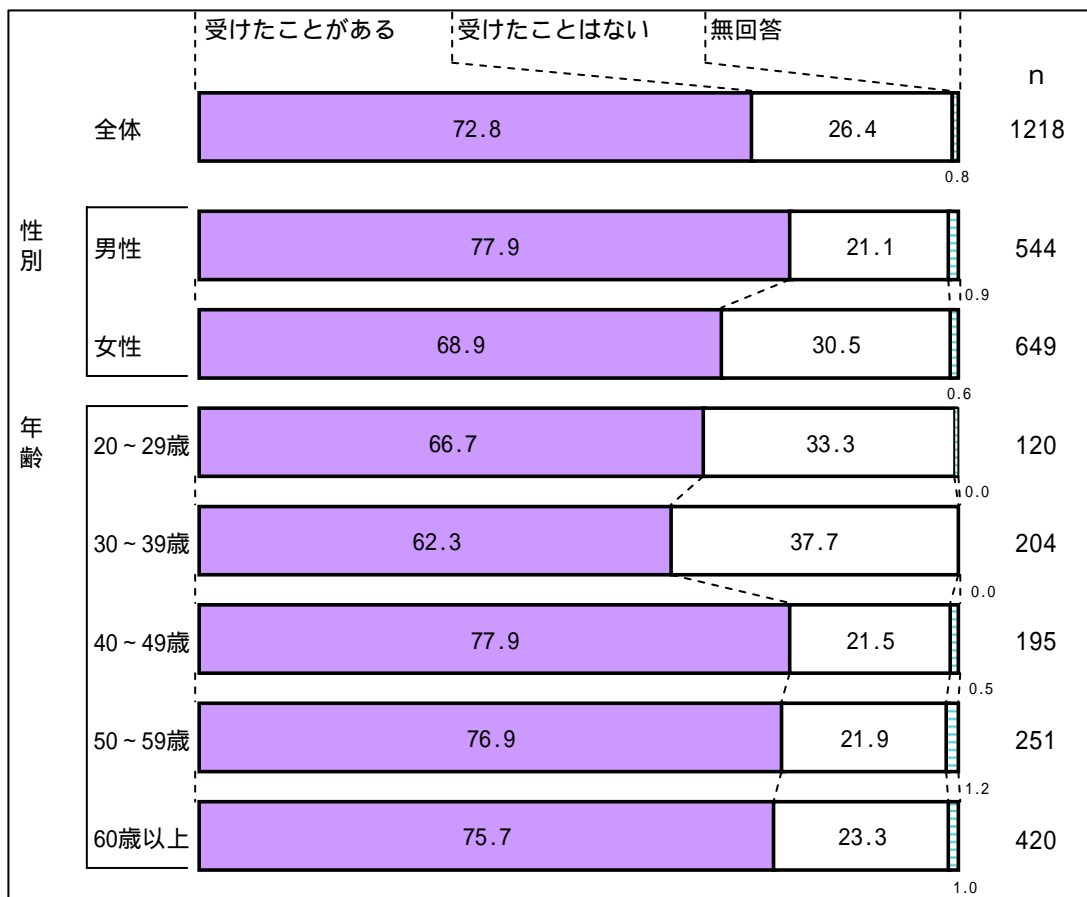
健康診断の受診についてたずねたところ、「受けたことがある」が72.8%、「受けたことはない」が26.4%であった。

### [属性別]

性別でみると、男性の「受けたことがある」という回答が女性を約9ポイント上回る。

年齢別でみると、40歳未満で「受けたことがある」の回答が7割以下となっているが、40歳以上では7割を超えており、比較的若い層の受診率の向上が課題であることがうかがえる。

健康診断の受診について（全、性別、年齢別）



## (2) 健康診断の受診場所

問22-1 その健康診断はどちらでお受けになりましたか。【問22で「1. 受けたことがある」と回答した人のみ/複数回答】

「学校や勤め先で行う健康診断」が他を大きく引き離して第1位。次いで「市で行う健康診断」、「個人的に病院で受けた(有料)」の順。

### [全体]

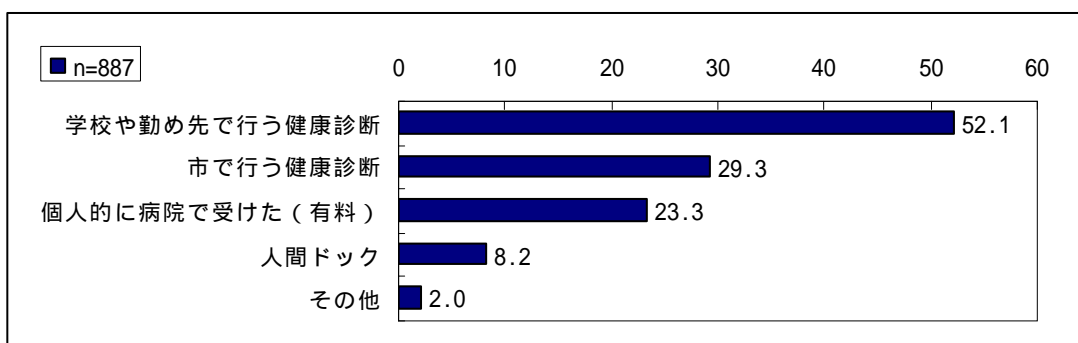
健康診断を「受けたことがある」と回答した人に受診場所をたずねたところ、「学校や勤め先で行う健康診断」(52.1%)が他を大きく引き離して第1位に挙げられ、次いで「市で行う健康診断」(29.3%)、「個人的に病院で受けた(有料)」(23.3%)などの順となっている。

### [属性別]

性別でみると、男性では「学校や勤め先で行う健康診断」が65.8%となっているが、女性では「学校や勤め先で行う健康診断」(40.3%)と「市で行う健康診断」(41.2%)がほぼ同率となっている。

年齢別でみると、60歳未満の世代は「学校や勤め先で行う健康診断」、60歳以上では「市で行う健康診断」(51.9%)が第1位の回答となっている。

健康診断の受診場所(「受けたことがある」と回答した人のみ・全体)



### (3) 健康診断の種類

問22-2 あなたがお受けになった健康診断は、どのようなものでしたか。【問22で「1. 受けたことがある」と回答した人のみ/複数回答】

「血圧測定や血液検査などの基本的な健康診断」が他を大きく引き離して第1位。

#### [全体]

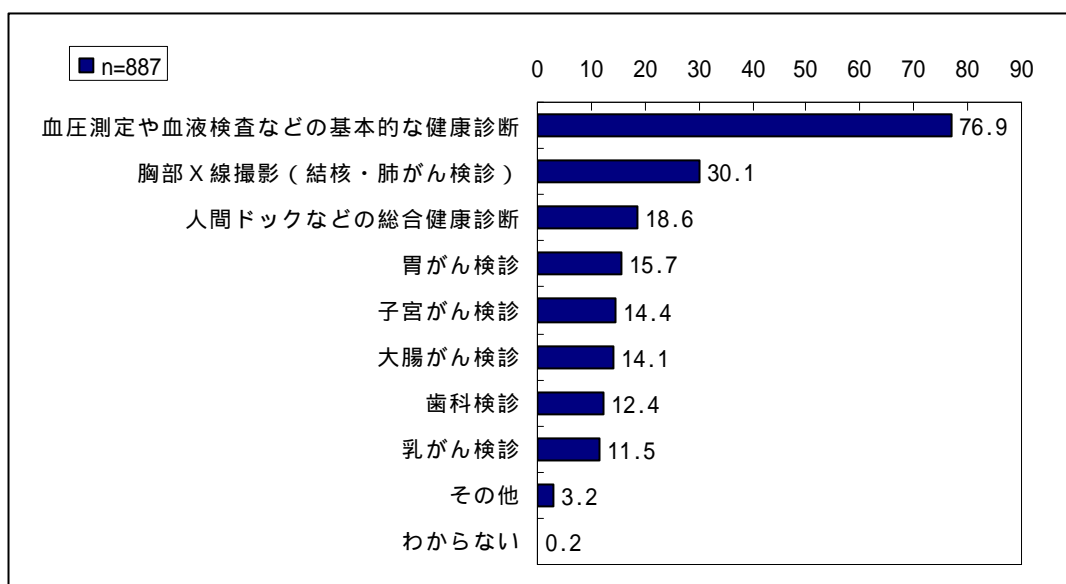
健康診断を「受けたことがある」と回答した人に健康診断の種類をたずねたところ、「血圧測定や血液検査などの基本的な健康診断」(76.9%)が他を大きく引き離して第1位に挙げられ、次いで「胸部X線撮影(結核・肺がん検診)」(30.1%)、「人間ドックなどの総合健康診断」(18.6%)、「胃がん検診」(15.7%)などの順となっている。

#### [属性別]

性別で見ると、男性・女性ともに「血圧測定や血液検査などの基本的な健康診断」(78.3%・76.1%)が第1位に挙げられている。また、男性では「胸部X線撮影(結核・肺がん検診)」(34.2%)、「人間ドックなどの総合健康診断」(22.9%)、女性では「子宮がん検診」(28.0%)、「乳がん検診」(22.4%)と回答した率が高い傾向がみられた。

年齢別で見ると、すべての世代で「血圧測定や血液検査などの基本的な健康診断」が第1位となっている。

健康診断の種類(「受けたことがある」と回答した人のみ・全体)



#### (4) 健康診断を受けなかった理由

問22-3 お受けにならなかった理由は何ですか。【問22で「2. 受けたことはない」と回答した人のみ/複数回答】

「受ける暇がなかった」が第1位。次いで「料金が高いから」、「医者にかかっているから」の順。

##### [全体]

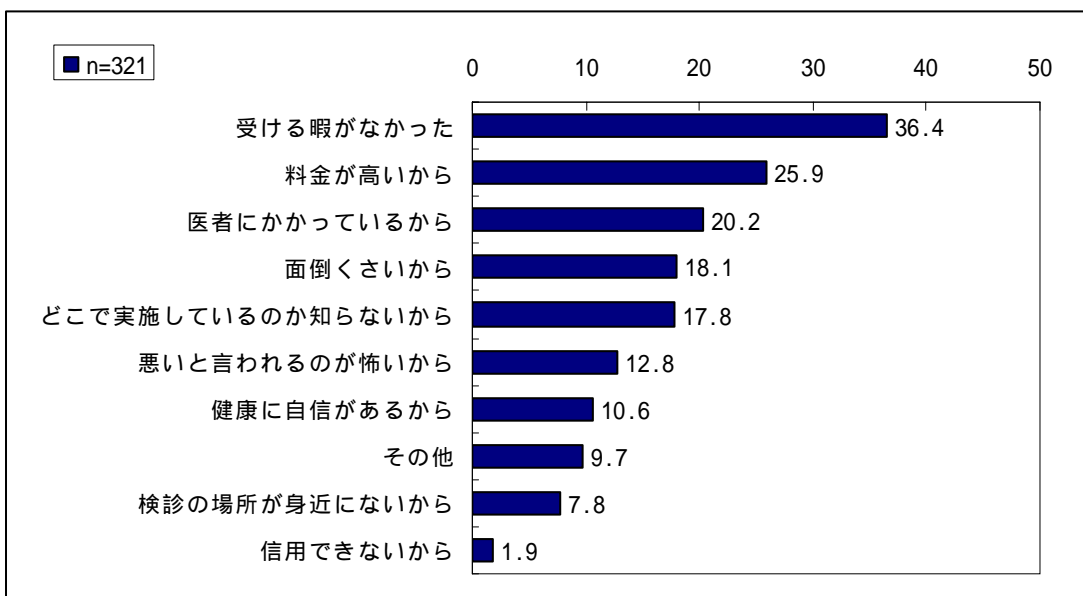
健康診断を「受けたことはない」と回答した人にその理由をたずねたところ、「受ける暇がなかった」(36.4%)が理由の第1位に挙げられ、次いで「料金が高いから」(25.9%)、「医者にかかっているから」(20.2%)の順となっている。

##### [属性別]

性別で見ると、男性・女性ともに「受ける暇がなかった」(39.1%・35.9%)が第1位の回答となっている。

年齢別で見ると、20～29歳では「料金が高いから」(45.0%)、30～39歳・40～49歳・50～59歳では「受ける暇がなかった」(48.1%・52.4%・43.6%)、60歳以上では「医者にかかっているから」(41.8%)が第1位に挙げられている。

#### 健康診断を受けなかった理由（「受けたことはない」と回答した人のみ・全体）



## 12 医療について

### (1) 市の救急医療体制について

問23 あなたは市内の救急医療体制についてどう感じですか。

「どちらともいえない」が45.7%。「満足していない」が31.8%、「満足している」は20.1%。

#### [ 全体 ]

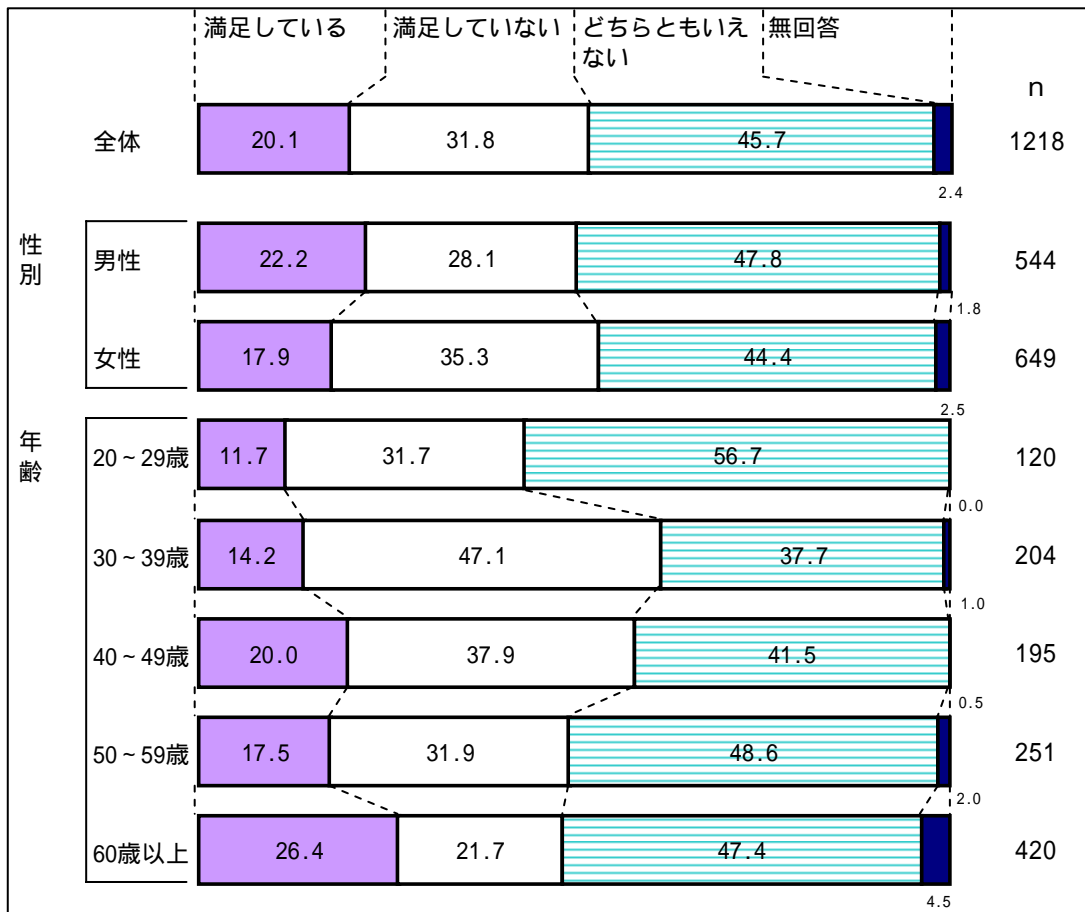
市の救急医療体制については、「どちらともいえない」が45.7%、「満足していない」が31.8%、「満足している」が20.1%となっている。

#### [ 属性別 ]

性別でみると、女性の「満足していない」と回答する率が男性を7ポイント上回る。

年齢別でみると、30～39歳の世代で「満足していない」と回答する率が高く、「どちらともいえない」を唯一上回る世代となっている。

市の救急医療体制について（全体、性別、年齢別）





(2) 満足していない理由

問23-1 満足していない理由をお聴かせください。【問23で「2.満足していない」と回答した人のみ】

「救急医療制度の情報が少ない」が41.3%を占める。

[全体]

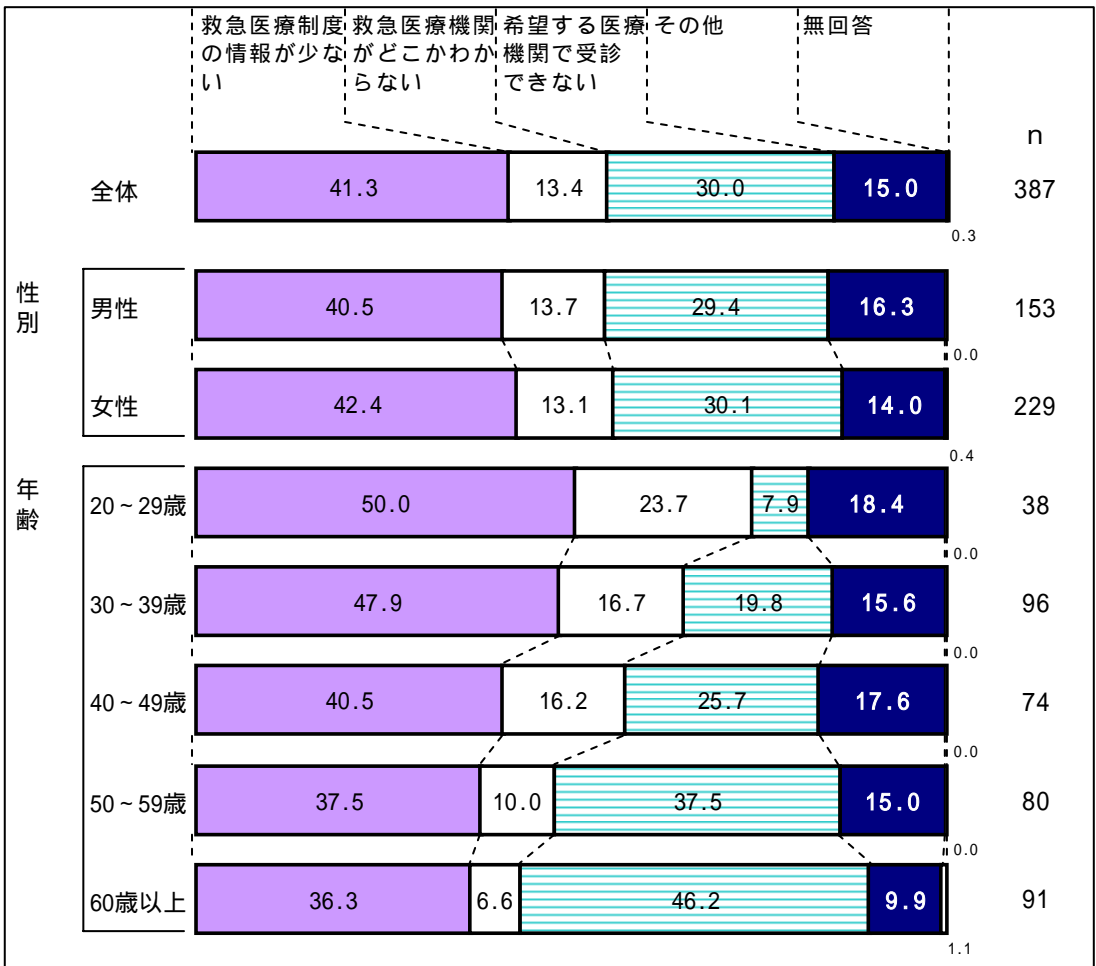
市の救急医療体制に満足していない理由については、「救急医療制度の情報が少ない」が41.3%、「希望する医療機関で受診できない」が30.0%、「救急医療機関がどこにあるかわからない」が13.4%となっており、医療機関に関する情報不足が満足していない理由となっている。

[属性別]

性別でみると、大きな差はみられなかった。

年齢別でみると、年齢が若い層ほど「救急医療制度の情報が少ない」と回答する率が高く、年齢が上がるにつれて「希望する医療機関で受診できない」と回答する率が高くなる傾向がみられた。

満足していない理由（全体、性別、年齢別）



## 13 子育てについて

### (1) 子育てについて悩んでいること

問24 少子高齢化は今後の社会の大きな問題です。子育て中でない方も、周りの方に聞くなどして、是非お答えください。子育てに関して悩んでいることがありますか。【複数回答】

「子どものしつけや遊ばせ方」が他を引き離して第1位。次いで「子どもの病気や発達」が続く。

#### [全体]

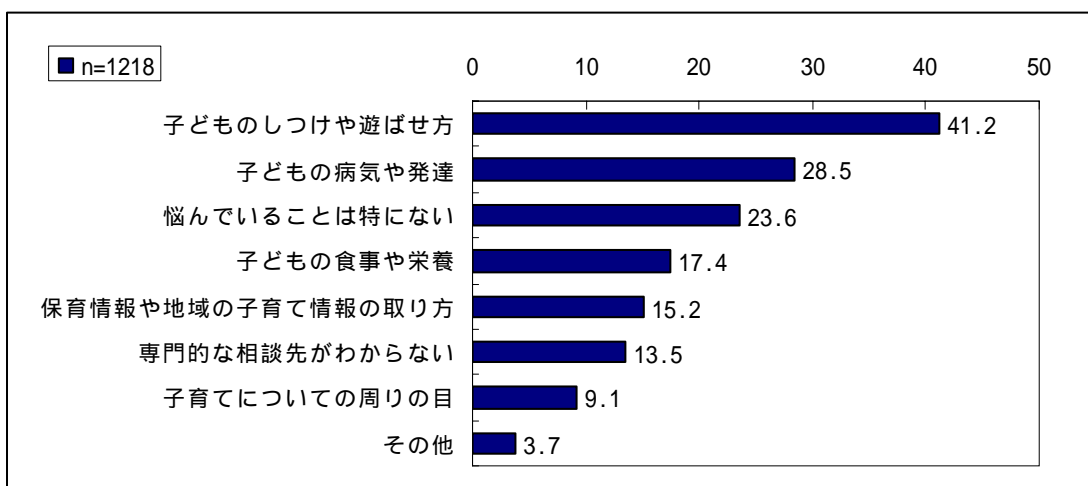
子育てについて悩んでいることは、「子どものしつけや遊ばせ方」(41.2%)が他を引き離して第1位に挙げられ、次いで「子どもの病気や発達」(28.5%)、「子どもの食事や栄養」(17.4%)などの順となっている。なお、「悩んでいることは特にない」は23.6%であった。

#### [属性別]

性別で見ると、男性・女性ともに「子どものしつけや遊ばせ方」(41.0%・41.4%)が第1位となっている。

年齢別で見ると、すべての世代で「子どものしつけや遊ばせ方」が第1位となっている。また、30～39歳では「子どもの食事や栄養」(23.5%)と回答する率が他の世代より高い傾向がみられた。

子育てについて悩んでいること(全体)



## (2) 子育てについての相談者

問24-1 子育てに関して悩み事やわからないことがあるとき、誰に相談していますか。  
【問24で「8.悩んでいることは特にない」以外の番号を選択した人のみ/複数回答】

「父母(子どもの祖父母)」が第1位。次いで「配偶者(夫、妻)」、「知人」の順。

### [全体]

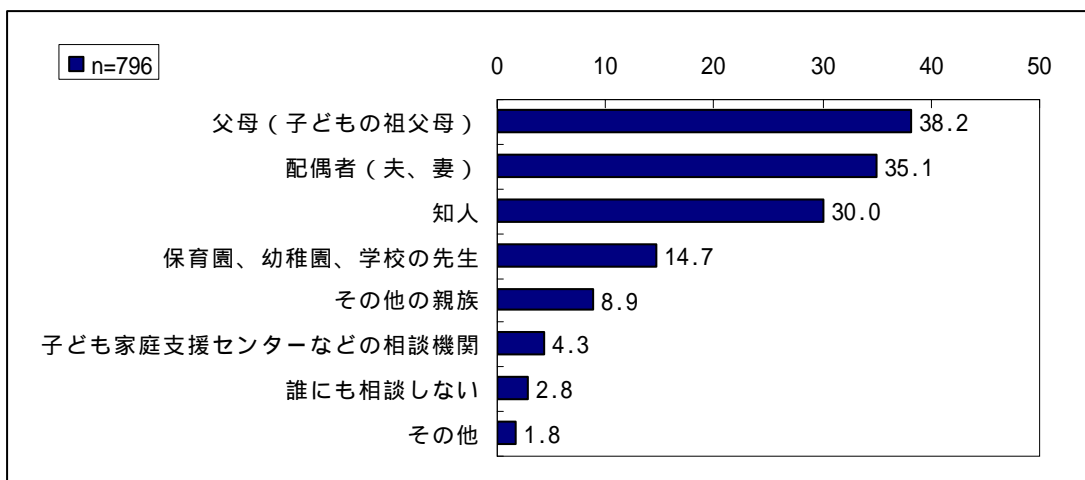
子育ての悩みについての相談者は、「父母(子どもの祖父母)」(38.2%)が第1位となっており、次いで「配偶者(夫、妻)」(35.1%)、「知人」(30.0%)が続き、自分の親をはじめ家族に相談することが多い結果となっている。その他では「保育園、幼稚園、学校の先生」(14.7%)、「その他の親族」(8.9%)などの順となっている。

### [属性別]

性別でみると、男性では「配偶者(夫、妻)」(36.8%)、女性では「父母(子どもの祖父母)」(40.5%)が第1位となっている。また、女性では「知人」(34.0%)と回答する率が男性(25.1%)を大きく上回る。

年齢別でみると、20~29歳・30~39歳・50~59歳・60歳以上では「父母(子どもの祖父母)」(39.1%・43.6%・38.0%・40.9%)、40~49歳では「知人」(34.5%)が第1位となっている。

子育てについての相談者(「悩んでいることは特にない」以外を回答した人のみ・全体)



### (3) 安心して子育てをするために必要な取組

問25 安心して子育てをするためには、地域や職場でどのような取組が必要だと思いますか。【複数回答】

「子育て後の再就職制度を充実させる」、「育児休業制度を充実させる」、「学校や保護者と協力し子どもの安全を守る」、「子育て中親子や経験者が集まれる場を増やす」が僅差で上位を占める。

#### [全体]

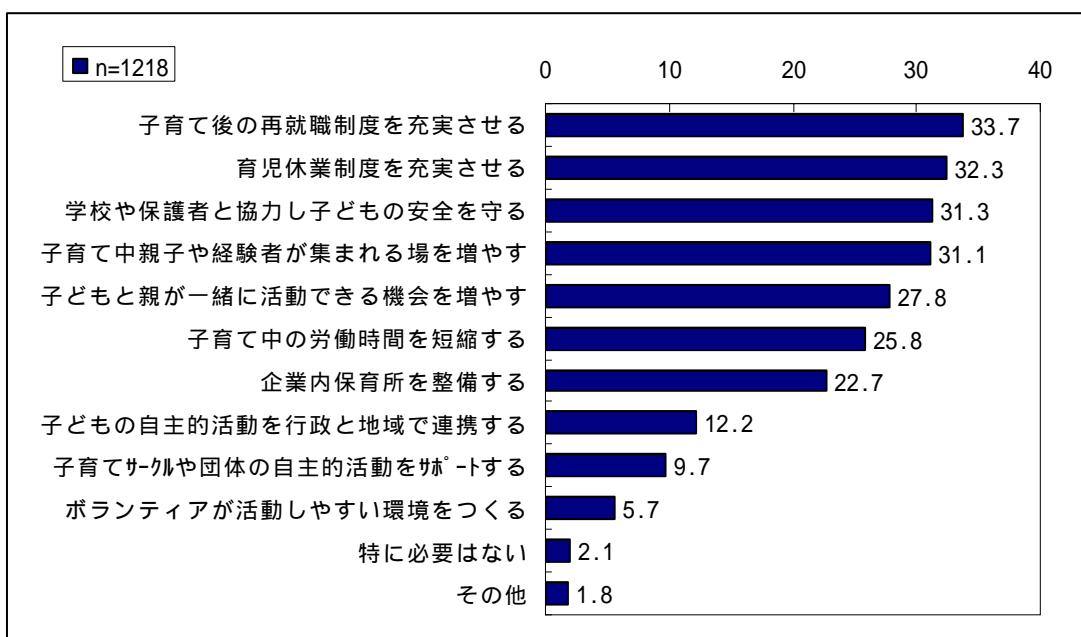
安心して子育てをするために必要な取組は、「子育て後の再就職制度を充実させる」(33.7%)、「育児休業制度を充実させる」(32.3%)、「学校や保護者と協力し子どもの安全を守る」(31.3%)、「子育て中親子や経験者が集まれる場を増やす」(31.1%)が僅差で上位を占め、子育てしやすい労働環境をはじめ、学校との連携、子育てサークルの充実など多様な取組が求められていることがうかがえる。

#### [属性別]

性別で見ると、男性では「育児休業制度を充実させる」(32.5%)、女性では「子育て後の再就職制度を充実させる」(35.6%)が第1位となっている。

年齢別で見ると、20～29歳・30～39歳では「育児休業制度を充実させる」(48.3%・44.6%)、40～49歳・50～59歳では「子育て後の再就職制度を充実させる」(36.4%・37.5%)、60歳以上では「子育て中親子や経験者が集まれる場を増やす」(33.6%)がそれぞれ第1位に挙げられている。

安心して子育てをするために必要な取組（全体）



( 4 ) 市の子育て支援事業で整備、充実すべきもの

問26 青梅市が進める子育て支援事業について、整備、充実させるべきものはどれだと思いますか。【複数回答】

「仕事と子育てが両立できる環境整備」が第1位。次いで「子どもが安心して遊べる居場所づくり」、「児童手当の拡充等の経済的援助」の順。

[ 全体 ]

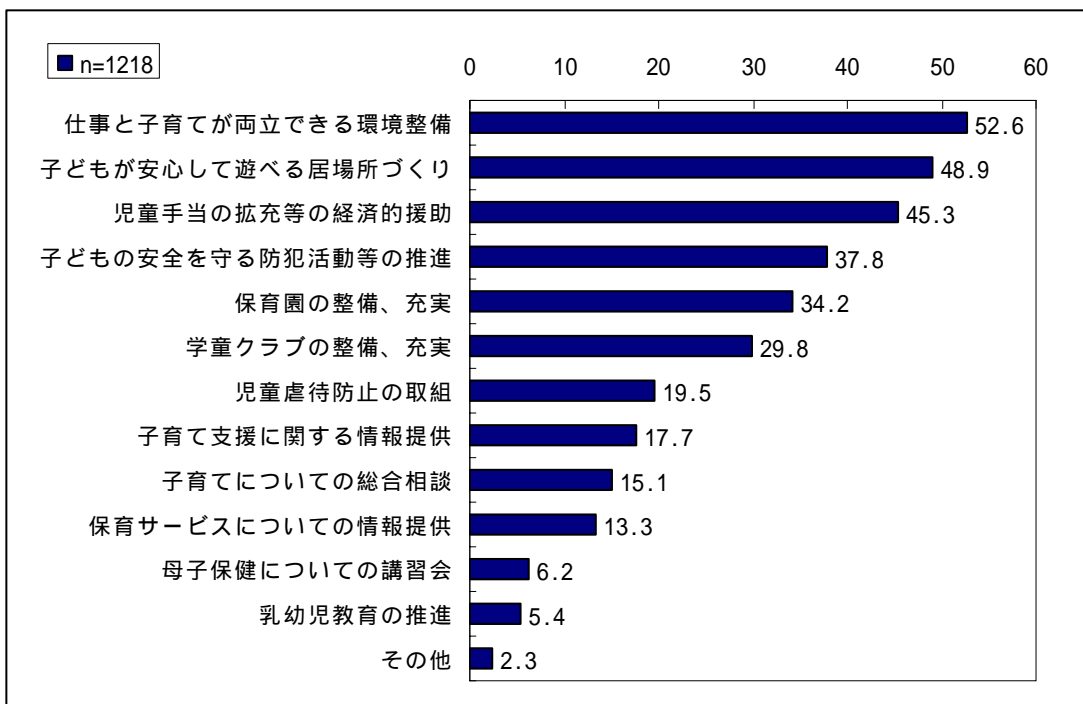
整備・充実すべき市の子育て支援事業は、「仕事と子育てが両立できる環境整備」(52.6%)が第1位に挙げられ、次いで「子どもが安心して遊べる居場所づくり」(48.9%)、「児童手当の拡充等の経済的援助」(45.3%)が続き、以下、「子どもの安全を守る防犯活動等の推進」(37.8%)、「保育園の整備、充実」(34.2%)などの順となっている。

[ 属性別 ]

性別で見ると、男性・女性ともに「仕事と子育てが両立できる環境整備」(51.1%・55.2%)が第1位となっている。

年齢別で見ると、20～29歳・30～39歳では「児童手当の拡充等の経済的援助」(66.7%・71.1%)、40～49歳・50～59歳では「仕事と子育てが両立できる環境整備」(52.8%・57.8%)、60歳以上では「仕事と子育てが両立できる環境整備」および「子どもが安心して遊べる居場所づくり」(同率46.9%)がそれぞれ第1位に挙げられている。

市の子育て支援事業で整備、充実すべきもの(全体)



## 14 高齢社会や介護保険制度について

### (1) 介護が必要となった場合に受きたい介護

問27 仮に、あなたが老後に寝たきりや認知症になり、介護が必要となった場合に、どこで介護を受けたいと思いますか。

「高齢者用の施設や病院に入り介護を受けたい」が48.8%。

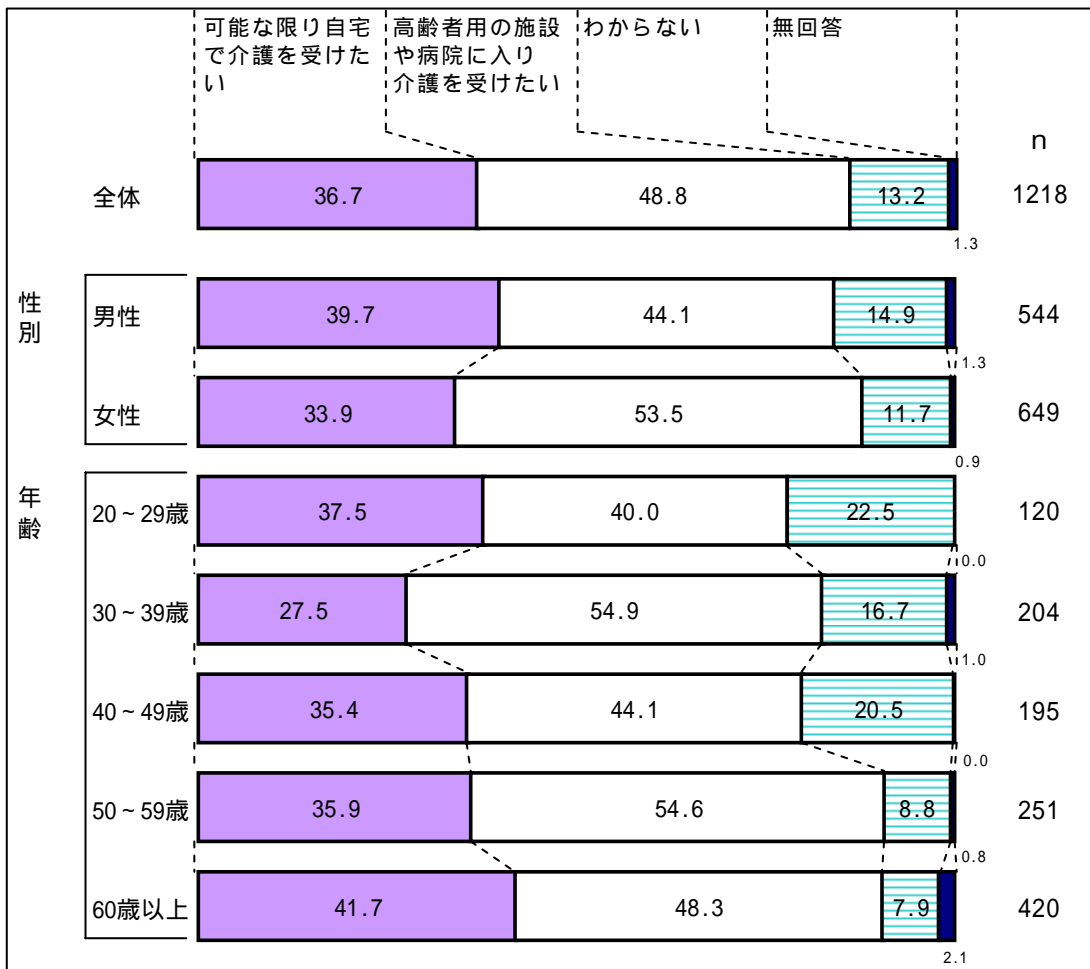
#### [全体]

受きたい介護については、「高齢者用の施設や病院に入り介護を受けたい」が48.8%、「可能な限り自宅で介護を受けたい」が36.7%、「わからない」は13.2%となっており、居宅介護より施設介護を望む人が多い結果となっている。

#### [属性別]

性別・年齢別でも、すべての層で「高齢者用の施設や病院に入り介護を受けたい」と回答する人が多い。

介護が必要となった場合に受きたい介護（全体、性別、年齢別）



## (2) 自宅で介護を受けたい理由

問27-1 自宅で介護を受けたい理由を次の中から選んでください。【問27で「1.可能な限り自宅で介護を受けたい」と回答した人のみ/複数回答】

「住み慣れた自宅で生活を続けたいから」が他を大きく引き離して第1位。次いで「金銭的な余裕がないから」の順。

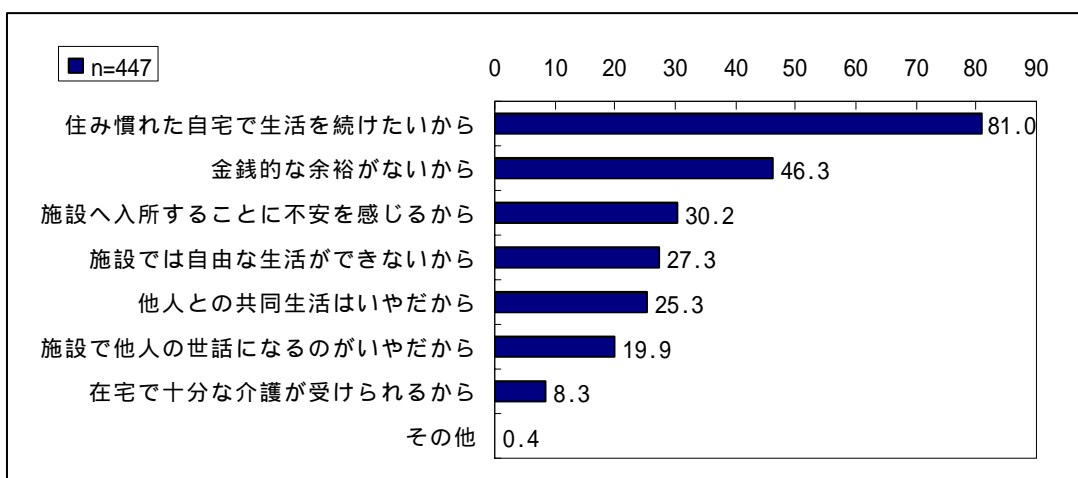
### [全体]

「可能な限り自宅で介護を受けたい」と回答した人にその理由をたずねたところ、「住み慣れた自宅で生活を続けたいから」(81.0%)が他を大きく引き離して第1位に挙げられ、次いで「金銭的な余裕がないから」(46.3%)、「施設へ入所することに不安を感じるから」(30.2%)、「施設では自由な生活ができないから」(27.3%)、「他人との共同生活はいやだから」(25.3%)などの順となっている。

### [属性別]

性別・年齢別でも、すべての層で「住み慣れた自宅で生活を続けたいから」が第1位となっている。

### 自宅で介護を受けたい理由(「自宅で介護を受けたい」と回答した人のみ・全体)



### (3) 施設等で介護を受けたい理由

問27-2 施設等で介護を受けたい理由を次の中から選んでください。【問27で「2.高齢者のための施設や病院に入所・入院し、介護を受けたい」と回答した人のみ/複数回答】

「家族に迷惑をかけたくないから」が他を引き離して第1位。次いで「専門的な介護が受けられるから」の順。

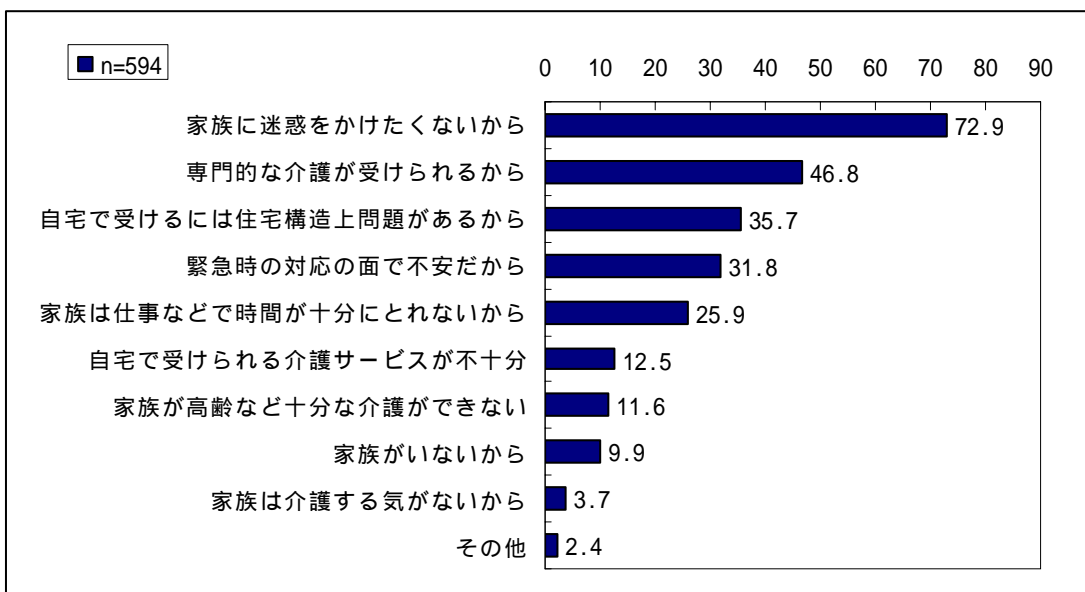
#### [全体]

「高齢者のための施設や病院に入所・入院し、介護を受けたい」と回答した人にその理由をたずねたところ、「家族に迷惑をかけたくないから」(72.9%)が他を大きく引き離して第1位に挙げられ、次いで「専門的な介護が受けられるから」(46.8%)、「自宅で受けるには住宅構造上問題があるから」(35.7%)、「緊急時の対応の面で不安だから」(31.8%)、「家族は仕事などで時間が十分にとれないから」(25.9%)などの順となっている。

#### [属性別]

性別・年齢別でも、すべての層で「家族に迷惑をかけたくないから」が第1位となっている。

#### 施設等で介護を受けたい理由（「施設で介護を受けたい」と回答した人のみ・全体）





#### (4) 介護サービス充実のための費用負担について

問28 今世紀前半には4人に1人が65歳以上という「超高齢社会」が到来すると予測されています。それに備え、介護サービスを一層充実させていく必要があると言われています。そのための費用負担についてお考えをお聴かせください。

「保険料増加はやむを得ないが対策も必要」が54.4%を占める。

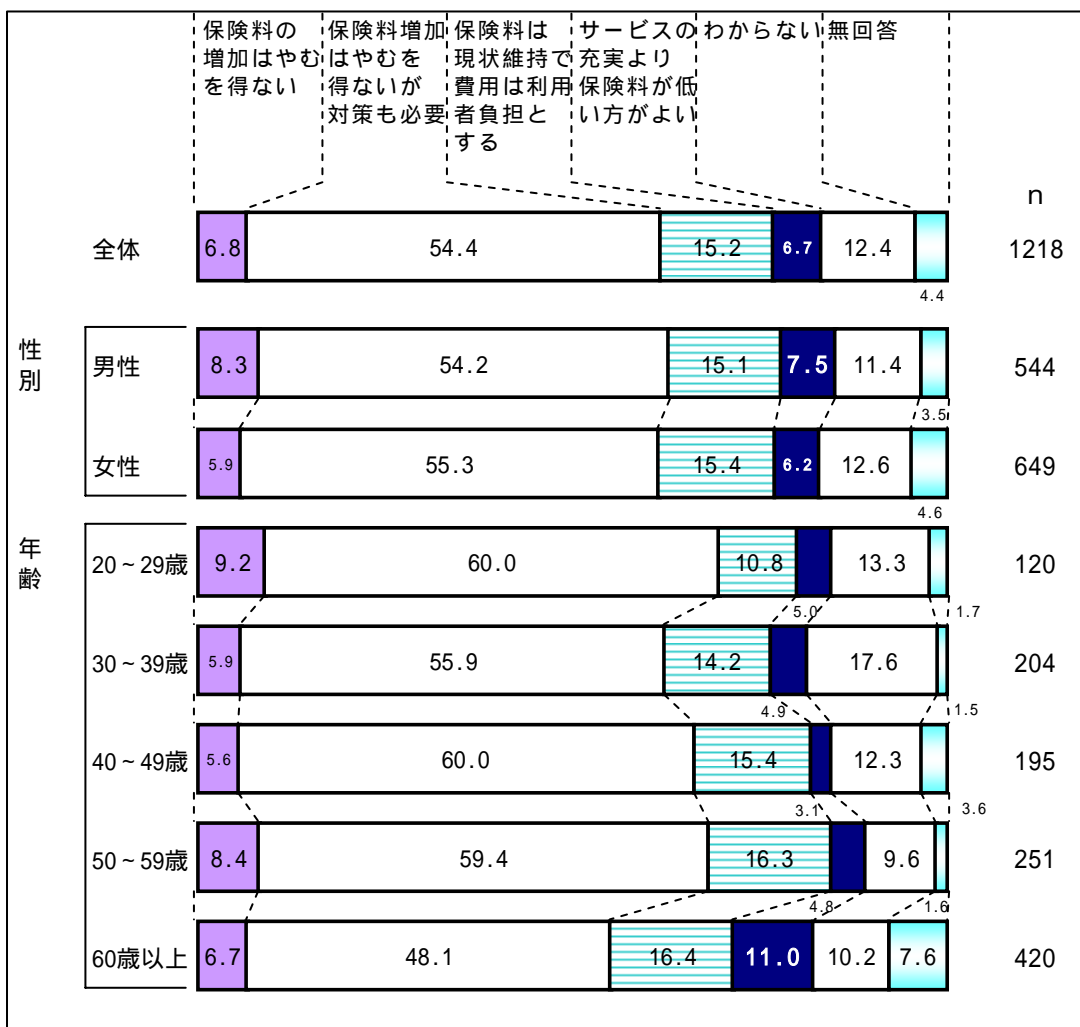
##### [全体]

介護サービス充実のための費用負担について、「保険料増加はやむを得ないが対策も必要」が54.4%を占め、次いで「保険料は現状維持で費用は利用者負担とする」が15.2%、「わからない」が12.4%、「保険料の増加はやむを得ない」が6.8%、「サービスの充実より保険料が低い方がよい」が6.7%となっている。

##### [属性別]

性別・年齢別でも、すべての層で「保険料増加はやむを得ないが対策も必要」が多数を占める。また、60歳以上では「サービスの充実より保険料が低い方がよい」(11.0%)と回答する率が他の世代より高い傾向がみられた。

介護サービス充実のための費用負担について（全体、性別、年齢別）



## 15 買物・商業関連施設について

### (1) 買物をする場所

問29 あなたは、次の買物などを主にどこでしていますか。ア～スの商品ごとに一番よく利用する場所をそれぞれ1つずつ選んで をつけてください。

市内の「大型専門店」、「総合大型店」での買物が多い。

#### [商品別の傾向]

買物動向を商品別にまとめると以下の通りとなっており、「市内：大型専門店」、「市内：総合大型店」での買物が多い結果となっている。

##### 食料品

「市内：スーパーマーケット（食品）」(74.9%)が最も多く、次いで「市内：総合大型店（西友）」(9.9%)、「市内：その他」(3.9%)などの順。

##### 日用雑貨品

「市内：大型専門店」(41.5%)が最も多く、次いで「市内：スーパーマーケット（食品）」(22.2%)、「市内：総合大型店（西友）」(11.2%)などの順。

##### 肌着・寝具

「市内：総合大型店(西友)」(41.3%)が最も多く、次いで「市内：大型専門店」(26.6%)、「市内：その他」(8.7%)などの順。

##### 洋服・呉服

「市内：総合大型店(西友)」(24.5%)が最も多く、次いで「市内：大型専門店」(24.3%)、「立川」(16.8%)などの順。

##### 靴・カバン類

「市内：大型専門店」(30.6%)が最も多く、次いで「立川」(19.0%)、「市内：総合大型店（西友）」(15.8%)などの順。

##### 家具

「市内：大型専門店」(55.4%)が最も多く、次いで「市内：その他」(10.3%)、「八王子」(8.2%)などの順。

##### 電化製品

「市内：大型専門店」(70.9%)が最も多く、次いで「立川」(7.9%)、「市内：商店街」および「市内：その他」(4.4%)などの順。

##### カメラ・時計・宝石類

「市内：大型専門店」(45.4%)が最も多く、次いで「立川」(15.8%)、「市内：その他」(8.2%)などの順。

##### スポーツ・レジャー用品

「市内：大型専門店」(49.3%)が最も多く、次いで「市内：その他」(9.2%)、「立川」

(8.7%)などの順。

#### 書籍・文具

「市内：大型専門店」(29.4%)が最も多く、次いで「市内：総合大型店(西友)」(18.1%)、「市内：商店街」(14.3%)などの順。

#### 贈答品

「市内：総合大型店(西友)」(25.9%)が最も多く、次いで「立川」(21.8%)、「市内：大型専門店」(15.2%)などの順。

#### 飲食

「市内：その他」(25.9%)が最も多く、次いで「市内：商店街」(18.6%)、「市内：大型専門店」(11.1%)などの順。

#### 理容・美容

「市内：その他」(34.6%)が最も多く、次いで「市内：商店街」(32.2%)、「羽村、福生」(6.5%)などの順。

### [ 買物先の傾向 ]

市内での買物が多い商品を比率で見ると、

90%以上 ( 2 項目 )

「食料品」(94.2%)、「日用雑貨品」(90.3%)

80%以上 ( 2 項目 )

「電化製品」(82.8%)、「肌着・寝具」(81.8%)

70%以上 ( 4 項目 )

「書籍・文具」(74.9%)、「理容・美容」(73.5%)、「家具」(71.9%)、「飲食」(71.1%)

60%以上 ( 4 項目 )

「スポーツ・レジャー用品」(69.7%)、「カメラ・時計・宝石類」(63.1%)、「洋服・呉服」(61.8%)、「靴・カバン類」(60.2%)

50%以上 ( 1 項目 )

「贈答品」(58.9%)

となっており、市外での買物が多い商品をみると「贈答品」(33.1%)、「靴・カバン類」(32.9%)、「洋服・呉服」(32.6%)などが挙げられ、これらの商品は「立川」での購入が多い傾向がみられる。

買物をする場所（全体）

全体 n=1218 (%)	市内						市内合計
	総合大型店 (西友)	大型専門店	スーパー マーケット (食品)	コンビニエ ンストア	商店街	その他	
食料品	9.9	2.0	74.9	2.5	1.0	3.9	94.2
日用雑貨品	11.2	41.5	22.2	2.4	3.6	9.5	90.3
肌着・寝具	41.3	26.6	1.2	0.0	3.9	8.7	81.8
洋服・呉服	24.5	24.3	0.2	0.0	3.9	8.9	61.8
靴・加工類	15.8	30.6	0.2	0.1	4.8	8.7	60.2
家具	3.8	55.4	0.0	0.0	2.5	10.3	71.9
電化製品	3.0	70.9	0.1	0.0	4.4	4.4	82.8
カラ・時計・宝石類	5.3	45.4	0.1	0.0	4.0	8.2	63.1
スポーツ・レジャー用品	6.9	49.3	0.2	0.0	4.1	9.2	69.7
書籍・文具	18.1	29.4	0.7	2.1	14.3	10.4	74.9
贈答品	25.9	15.2	2.1	0.3	6.1	9.2	58.9
飲食	3.9	11.1	7.8	3.8	18.6	25.9	71.1
理容・美容	0.6	5.6	0.2	0.2	32.2	34.6	73.5

全体 n=1218 (%)	市外										無回答
	あきる野	羽村、 福生	瑞穂	昭島	立川	八王子	国分寺 三鷹、 吉祥寺	都心 (23区)	飯能、 入間	市外合計	
食料品	0.2	1.3	0.7	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	1.0	3.7	2.1
日用雑貨品	0.3	0.6	0.6	0.2	1.3	0.1	0.2	0.2	0.6	4.2	5.5
肌着・寝具	1.1	0.7	1.1	0.8	4.9	0.2	0.5	1.4	1.1	11.9	6.3
洋服・呉服	0.9	1.3	2.2	2.5	16.8	0.7	1.3	5.2	1.6	32.6	5.6
靴・加工類	0.5	0.6	2.0	1.7	19.0	0.8	1.0	6.3	1.1	32.9	6.9
家具	0.2	0.7	0.6	0.2	5.0	8.2	0.2	2.5	0.6	18.3	9.8
電化製品	0.2	0.4	0.1	0.2	7.9	1.1	0.0	1.8	0.1	11.7	5.5
カラ・時計・宝石類	0.3	1.0	1.3	0.9	15.8	1.4	0.4	6.5	0.2	27.8	9.1
スポーツ・レジャー用品	0.2	2.3	1.6	1.1	8.7	0.5	0.6	3.9	0.4	19.4	10.9
書籍・文具	0.2	3.0	1.6	0.7	8.0	0.5	0.6	2.8	0.7	18.1	7.1
贈答品	0.6	0.7	0.8	1.1	21.8	1.0	0.6	5.2	1.4	33.1	8.0
飲食	0.5	5.1	0.9	0.9	9.0	0.6	0.5	3.2	0.7	21.3	7.6
理容・美容	1.2	6.5	1.0	1.1	3.1	0.9	1.3	2.4	2.0	19.5	7.1

表中の丸数字は順位。

## (2) 商業施設について

問30 あなたは、市内の商店街にどのような商業関連施設を希望しますか。【複数回答】

「百貨店(デパート)」が第1位。次いで「映画館」、「スーパーマーケット」の順。

### [全体]

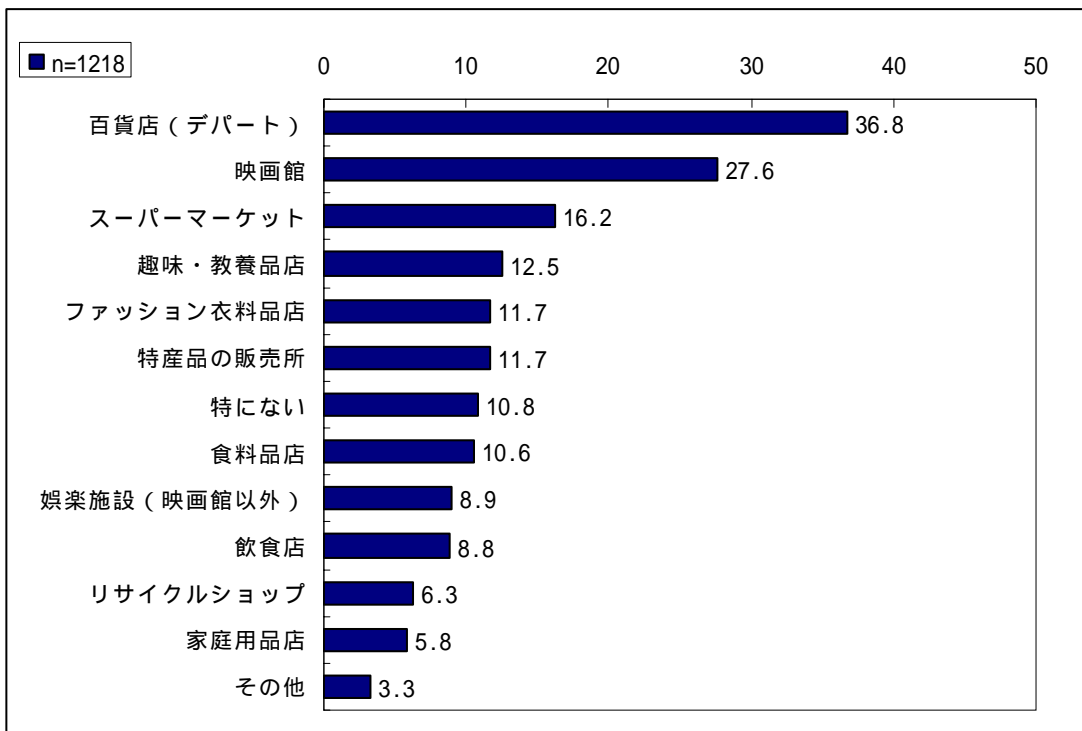
商業施設については、「百貨店(デパート)」(36.8%)が第1位に挙げられ、次いで「映画館」(27.6%)が続き、以下、「スーパーマーケット」(16.2%)、「趣味・教養品店」(12.5%)等の順となっている。

### [属性別]

性別・年齢別でも、すべての層で全体と同様に「百貨店(デパート)」が第1位となっている。

居住地区別で見ると、多くの地区で「百貨店(デパート)」が第1位となっているが、小曾木地区・成木地区では「映画館」が第1位となっている。

商業施設について(全体)



### (3) 商店街施設について

問30 あなたは、市内の商店街にどのような商業関連施設を希望しますか。【複数回答】

「駐車場、自転車置場」が他を引き離して第1位。

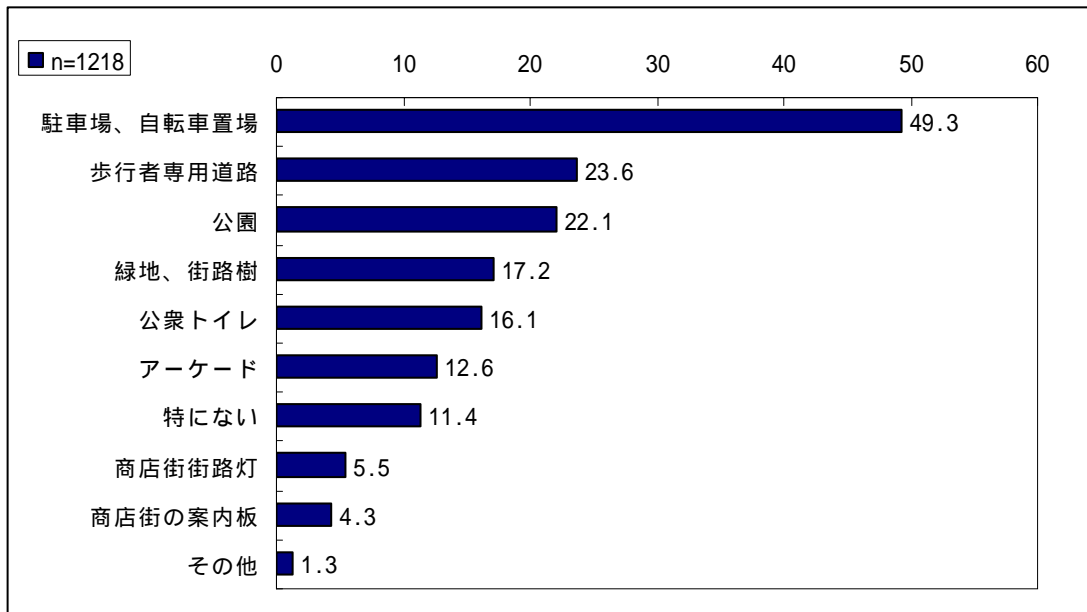
#### [全体]

商店街施設については、「駐車場、自転車置場」(49.3%)が他を引き離して第1位に挙げられ、次いで「歩行者専用道路」(23.6%)、「公園」(22.1%)が続き、以下、「緑地、街路樹」(17.2%)、「公衆トイレ」(16.1%)などの順となっている。なお「特にない」は11.4%であった。

#### [属性別]

これを性別・年齢別・居住地区別でも、全体と同様に「駐車場、自転車置場」が第1位に挙げられている。

商店街施設について(全体)



## 16 ボランティアについて

### (1) ボランティア活動への参加

問31 あなたは、現在ボランティア活動に参加されていますか。

「参加していない」が87.1%、一方、「参加している」は10.4%。

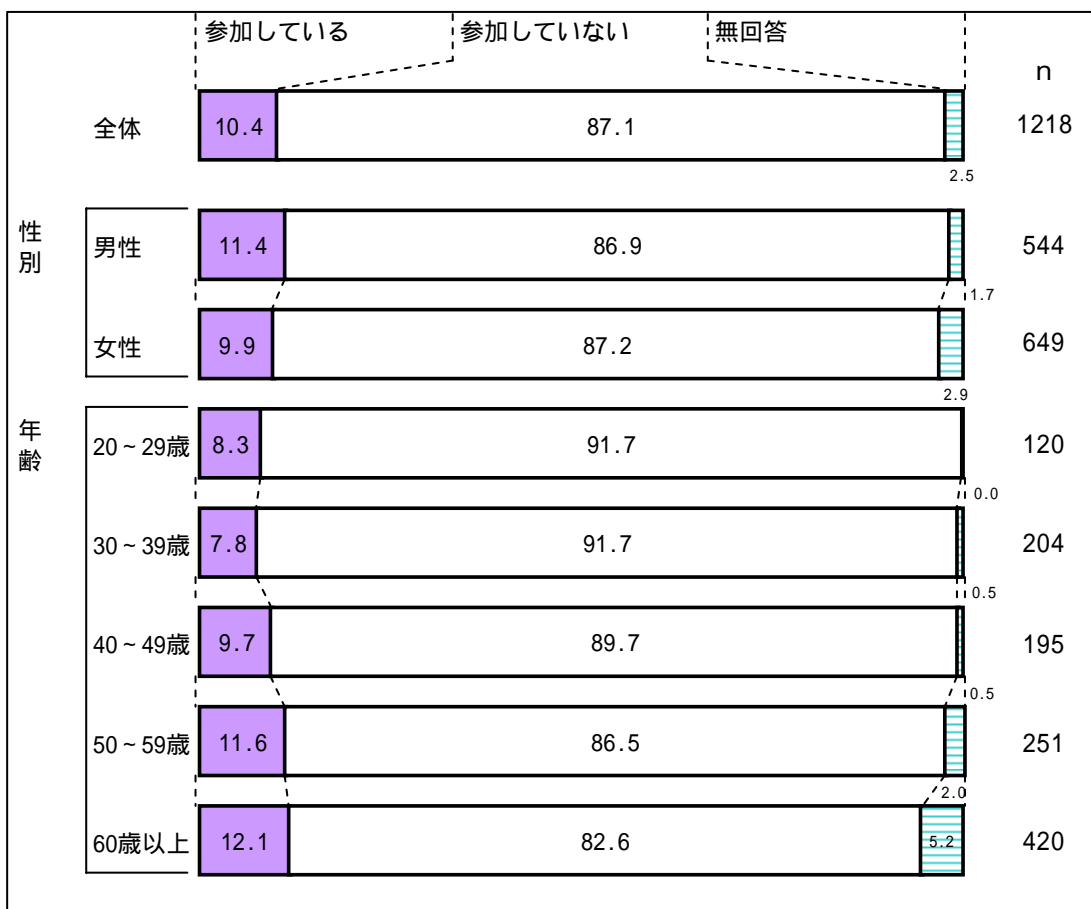
[全体]

ボランティア活動への参加をたずねたところ、「参加していない」が87.1%と9割近くを占め、「参加している」は10.4%にとどまる結果となっている。

[属性別]

性別・年齢別でも、「参加していない」と回答する人が多数を占める結果となっている。

ボランティア活動への参加（全体、性別、年齢別）



## (2) 参加しているボランティア活動

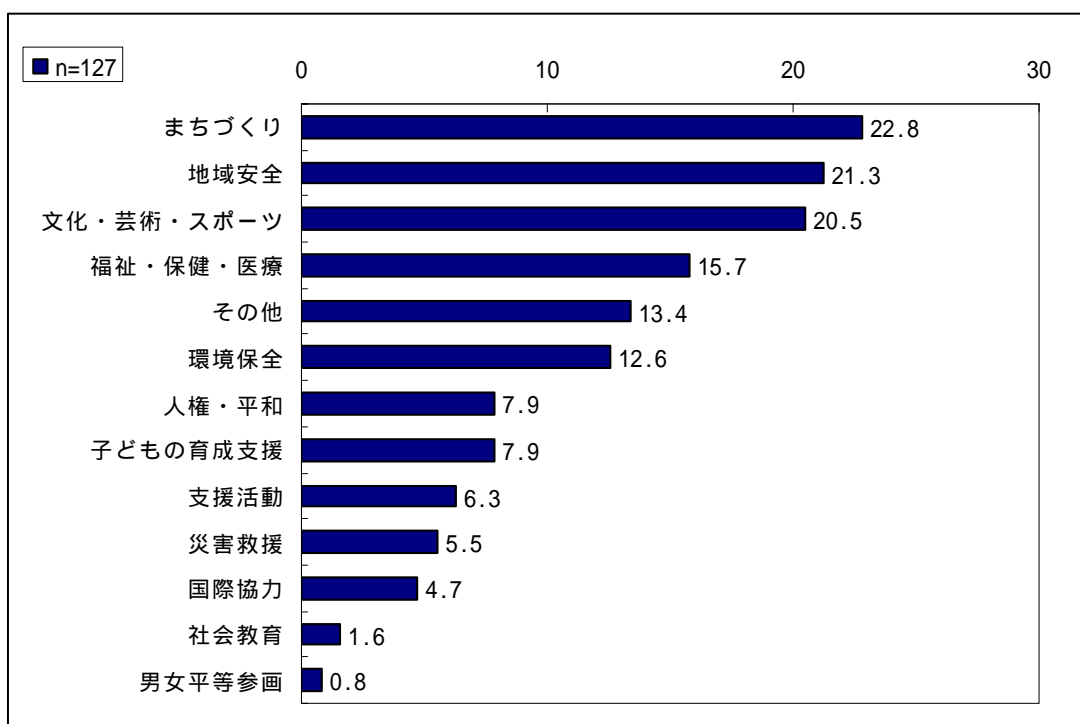
問31-1 あなたが参加しているボランティア活動はどのようなものですか。【問31で「1.参加している」と回答した人のみ/複数回答】

まちづくり、「地域安全」、「文化・芸術・スポーツ」が上位を占める。

[全体]

ボランティア活動に「参加している」と回答した人に参加している活動をたずねたところ、「まちづくり」(22.8%)、「地域安全」(21.3%)、「文化・芸術・スポーツ」(20.5%)が僅差で上位を占め、以下、「福祉・保健・医療」(15.7%)、「その他」(13.4%)、「環境保全」(12.6%)などの順となっている。

参加しているボランティア活動(「参加している」と回答した人のみ・全体)





### (3) ボランティア活動に参加しない理由

問31-3 あなたが参加されていないのはどのような理由からですか。【問31で「2.参加していない」と回答した人のみ】

「仕事や家事が多忙で時間がとれない」が43.9%。

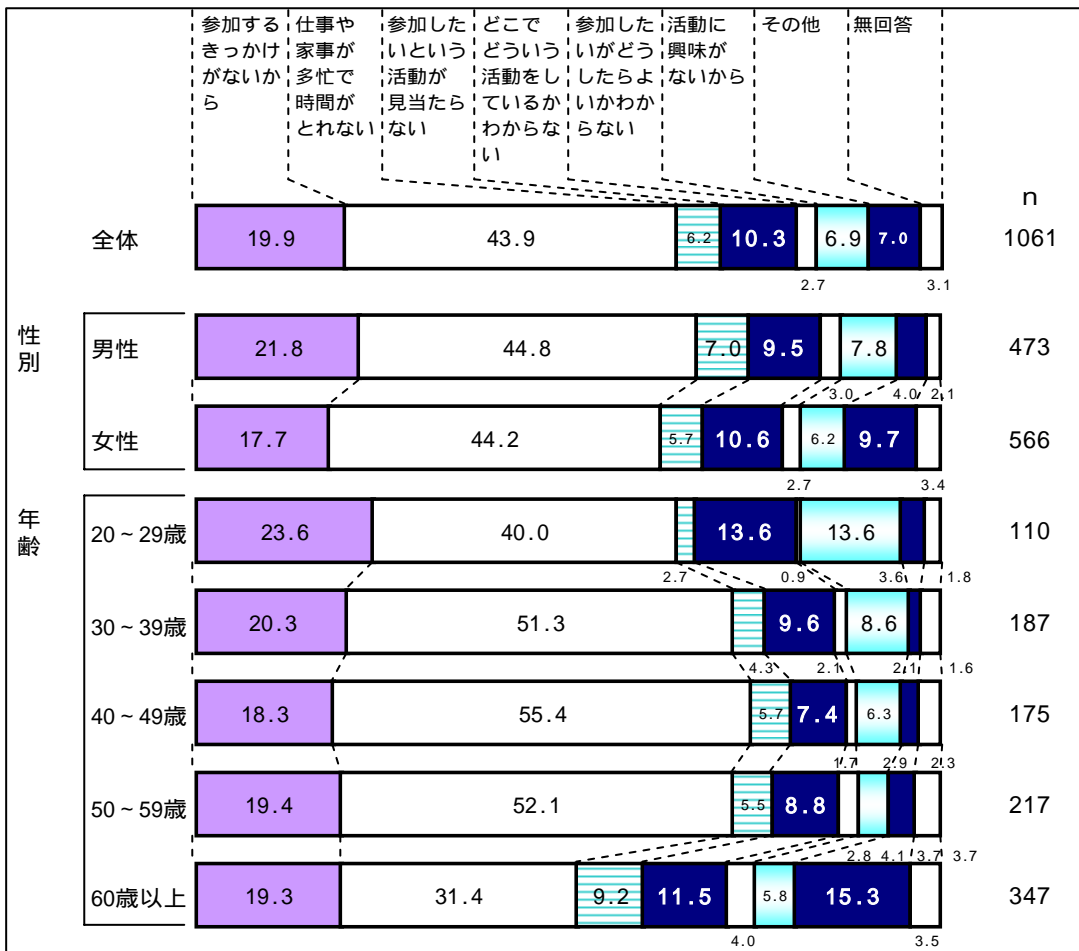
#### [全体]

ボランティア活動に「参加していない」と回答した人にその理由をたずねたところ、「仕事や家事が多忙で時間がとれない」が43.9%で最も多く、次いで「参加するきっかけがないから」(19.9%)、「どこでどういう活動をしているかわからない」(10.3%)、「その他」(7.0%)、「活動に興味がないから」(6.9%)、「参加したいという活動が見当たらない」(6.2%)、「参加したいがどうしたらよいかかわからない」(2.7%)の順となっている。

#### [属性別]

性別・年齢別でも、「仕事や家事が多忙で時間がとれない」と回答する人が多数を占める結果となっている。

ボランティア活動に参加しない理由（「参加していない」と回答した人のみ・全体、性別、年齢）



#### (4) ボランティア活動への参加意向

問31-4 あなたはボランティア活動に参加したいと思いますか。【問31で「2.参加していない」と回答した人のみ】

参加したいと「思わない」と「思う」がほぼ同率。

##### [全体]

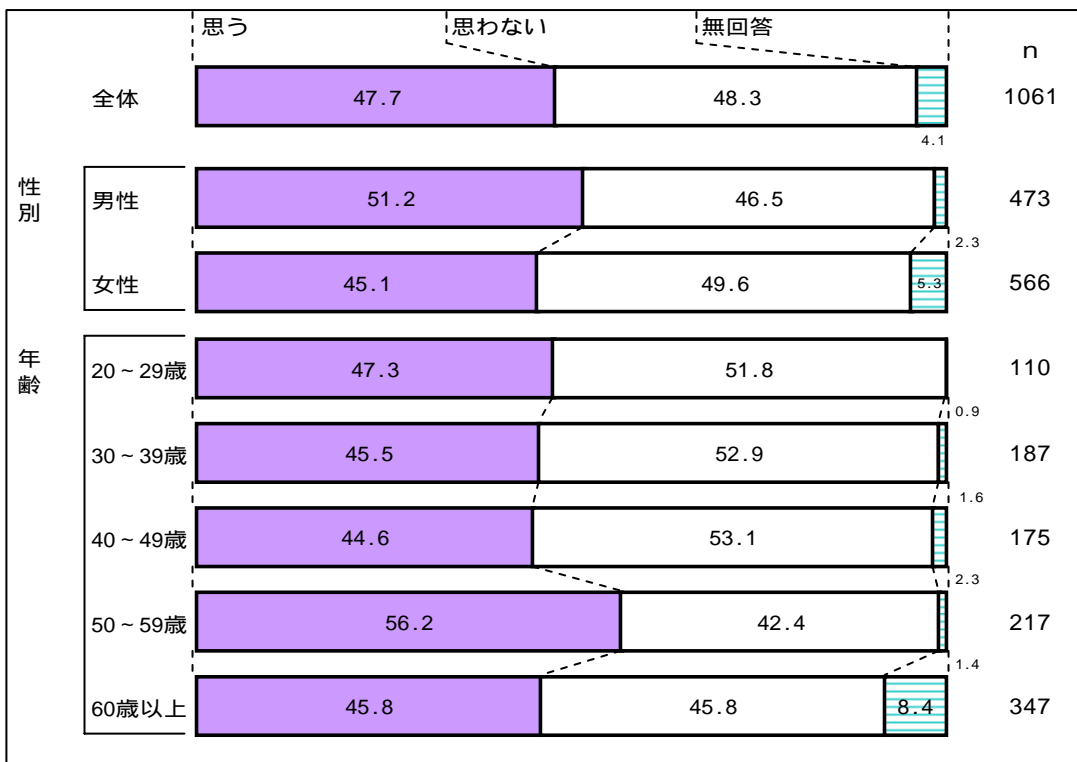
ボランティアへの参加意向をたずねたところ、参加したいと「思わない」(48.3%)と「思う」(47.7%)と回答した人がほぼ同率となっている。

##### [属性別]

性別で見ると、男性では「思う」(51.2%)が「思わない」(46.5%)を4.7ポイント上回る。一方、女性では「思わない」(49.6%)が「思う」(45.1%)を4.5ポイント上回る。

年齢別で見ると、20～29歳では「思わない」(51.8%)が「思う」(47.3%)を4.5ポイント上回り、30～39歳では「思わない」(52.9%)が「思う」(45.5%)を7.4ポイント上回り、40～49歳では「思わない」(53.1%)が「思う」(44.6%)を8.5ポイント上回り、これらの世代では参加したいと「思わない」がやや上回る。一方、50～59歳では「思う」(56.2%)が「思わない」(42.4%)を13.8ポイント上回り、参加意向が強くなっており、60歳以上では「思う」と「思わない」が45.8%で同率となっている。

ボランティア活動への参加意向（全体、性別、年齢別）



## ( 5 ) ボランティア活動への参加方法

問31-4 - あなたがボランティア活動に参加する場合、どのようなかたちで参加したいと思いませんか。【問31-4で「1.思う」と回答した人のみ/複数回答】

「市の呼びかけによる参加」が第1位。次いで「町会・自治会を通じたの参加」、「ボランティア団体を通じたの参加」の順。

### [ 全体 ]

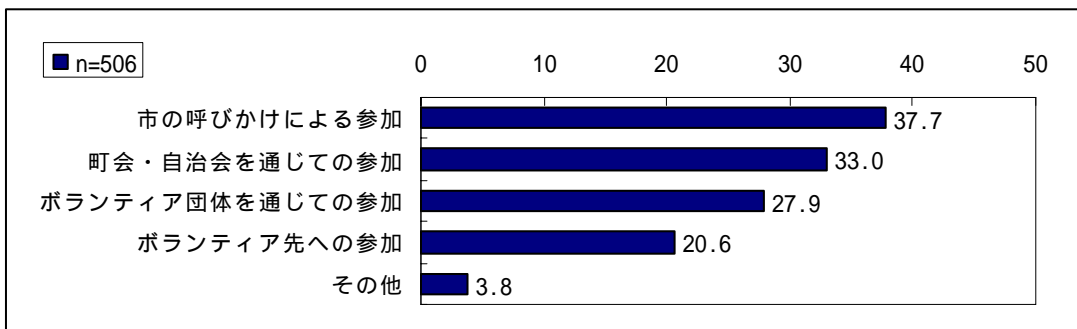
参加したいと「思う」と回答した人にボランティア活動への参加方法をたずねたところ、「市の呼びかけによる参加」(37.7%)が第1位に挙げられ、次いで「町会・自治会を通じたの参加」(33.0%)、「ボランティア団体を通じたの参加」(27.9%)、「ボランティア先への参加」(20.6%)などの順となっている。

### [ 属性別 ]

性別で見ると、男性では「町会・自治会を通じたの参加」(37.2%)、女性では「市の呼びかけによる参加」(39.2%)が第1位となっている。

年齢別で見ると、20～29歳では「ボランティア団体を通じたの参加」(32.7%)、30～39歳では「市の呼びかけによる参加」および「町会・自治会を通じたの参加」(同率32.9%)、40～49歳・50～59歳では「市の呼びかけによる参加」(35.9%・44.3%)、60歳以上では「町会・自治会を通じたの参加」(45.3%)がそれぞれ第1位に挙げられている。

ボランティア活動への参加方法（参加したいと「思う」と回答した人のみ・全体）



## 17 自治会について

### (1) 自治会への加入状況

問32 青梅市内には、一定の地域ごとに、自治会という団体が形成されていますが、あなたはこの自治会に加入していますか。

「加入している」が65.4%、「加入していない」が29.3%。

#### [全体]

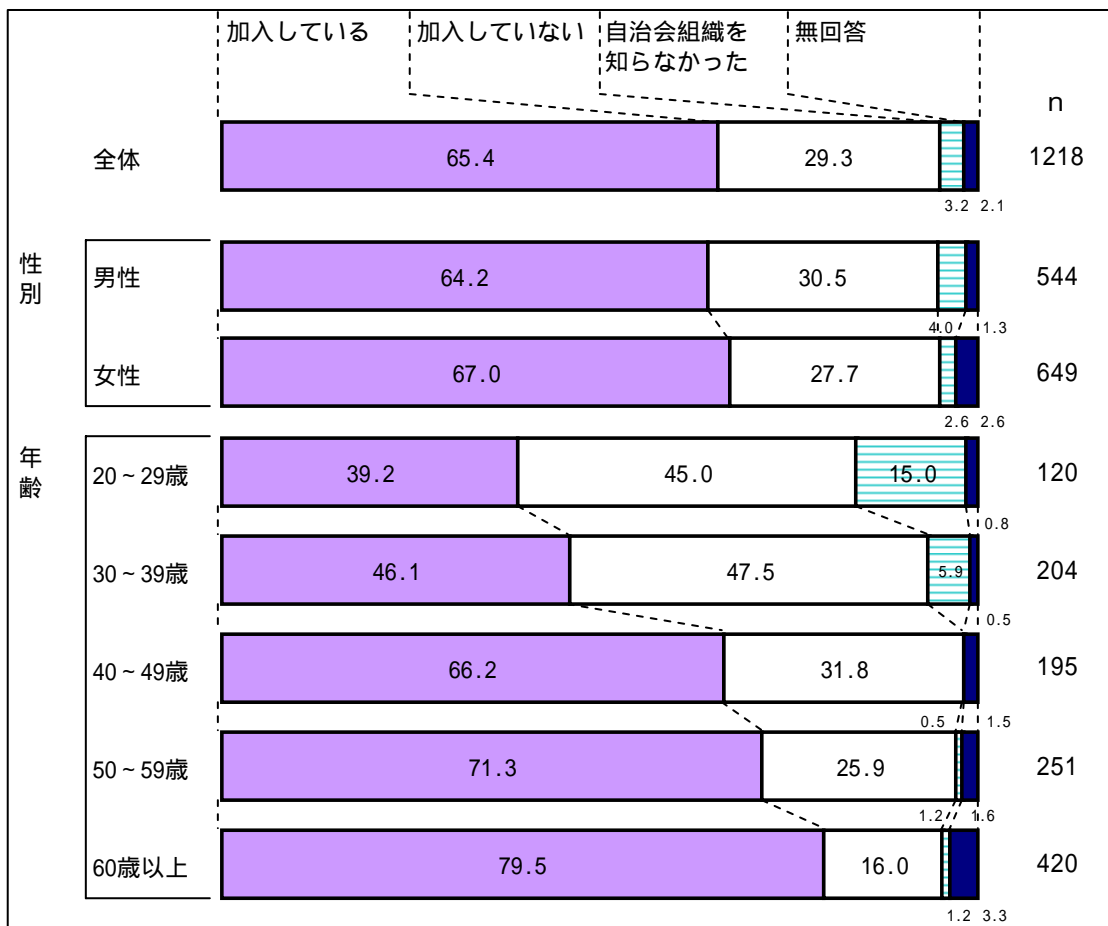
自治会への加入状況は、「加入している」が65.4%、「加入していない」が29.3%となっている。

#### [属性別]

性別でみると、大きな差はみられなかった。

年齢別でみると、年齢が上がるにつれて「加入している」と回答する率が上昇し、60歳以上では79.5%と約8割を占める。また、20～29歳では「自治会組織を知らなかった」という回答が15.0%と他の世代に比べて多くなっている。

自治会への加入状況（全体、性別、年齢別）



## (2) 参加している自治会の事業

問32-1 自治会で実施される各種事業で、参加している事業はどれですか。【問32で「1. 加入している」と回答した人のみ/複数回答】

「美化運動、ごみ減量運動などの推進事業」が第1位。次いで「文化的事業」、「運動会、スポーツ大会等、健康と体力の増進事業」の順。

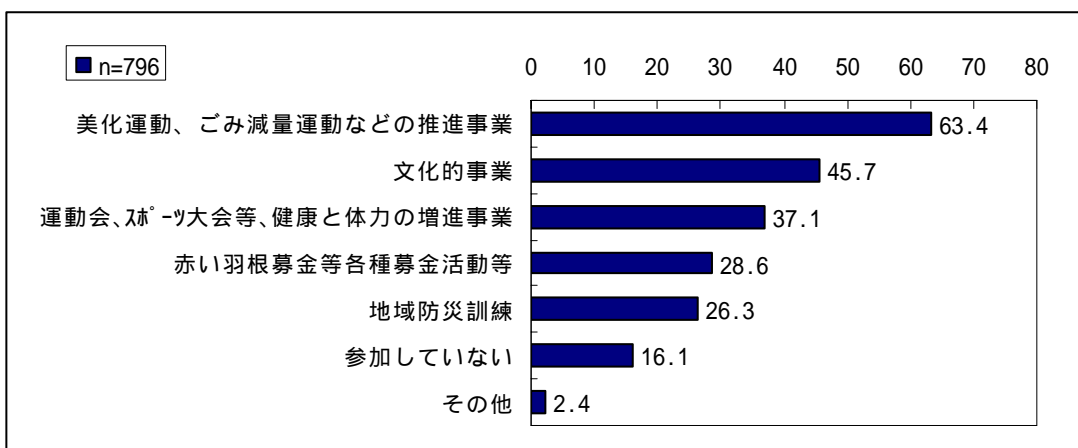
### [全体]

自治会に「加入している」と回答した人に参加している自治会の事業をたずねたところ、「美化運動、ごみ減量運動などの推進事業」(63.4%)が他を引き離して第1位に挙げられ、次いで「文化的事業」(45.7%)、「運動会、スポーツ大会等、健康と体力の増進事業」(37.1%)、「赤い羽根募金等各種募金活動等」(28.6%)、「地域防災訓練」(26.3%)の順となっている。なお、「参加していない」は16.1%であった。

### [属性別]

性別・年齢別でも、「美化運動、ごみ減量運動などの推進事業」が第1位に挙げられている。

参加している自治会の事業（自治会に「加入している」と回答した人のみ・全体）



### (3) 自治会への加入意向

問32-2 今後、自治会に加入したいと思いますか。【問32で「3.自治会組織を知らなかった」と回答した人のみ】

「加入したいとは思わない」が 79.5%、一方、「加入したいと思う」は 15.4%。

[全体]

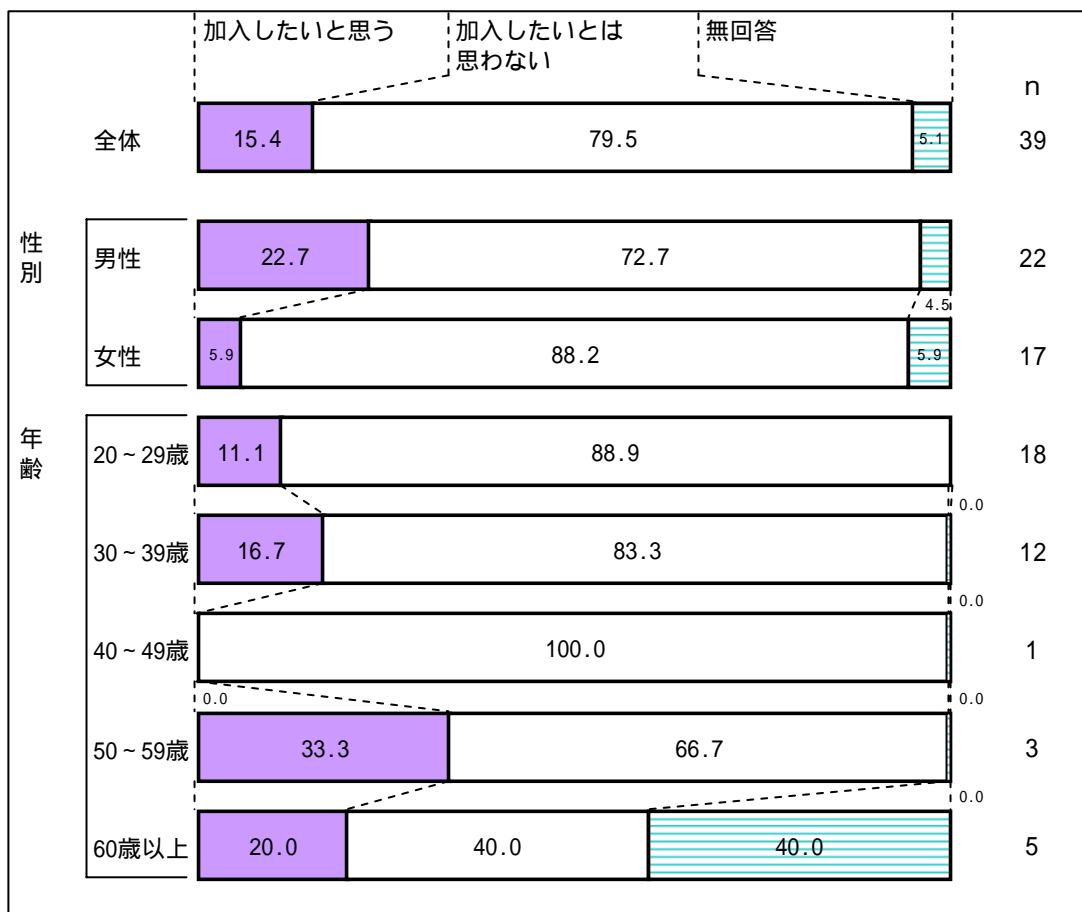
「自治会組織を知らなかった」と回答した人に自治会への加入意向をたずねたところ、「加入したいとは思わない」が 79.5%、「加入したいと思う」は 15.4%となっている。

[属性別]

性別で見ると、「加入したいと思う」と回答した率は、男性(22.7%)が女性(5.9%)を大きく上回る。

年齢別では 50～59 歳で特に加入意向が強い傾向がみられた。

自治会への加入意向（「自治会組織を知らなかった」と回答した人のみ・全体、性別、年齢別）



#### (4) 自治会に未加入の理由

問32-3 未加入の理由は何ですか。【問32で「2.加入していない」および問32-2で「2.加入したいとは思わない」と回答した人のみ/複数回答】

「自治会活動に参加する時間の余裕がない」が第1位。

##### [全体]

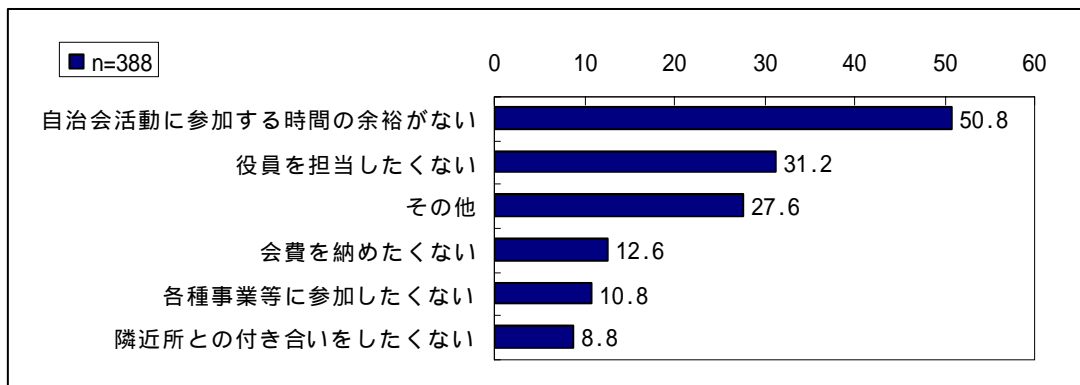
自治会に「加入していない」または「加入したいとは思わない」と回答した人にその理由ををたずねたところ、「自治会活動に参加する時間の余裕がない」(50.8%)が第1位に挙げられ、次いで「役員を担当したくない」(31.2%)、「その他」(27.6%)、「会費を納めたくない」(12.6%)、「各種事業等に参加したくない」(10.8%)、「隣近所との付き合いをしたくない」(8.8%)の順となっている。

##### [属性別]

性別でみると、男性・女性ともに「自治会活動に参加する時間の余裕がない」(54.9%・48.2%)が第1位に挙げられている。

年齢別でみると、60歳未満の層では「自治会活動に参加する時間の余裕がない」が第1位となっているが、60歳以上では「その他」(46.4%)が第1位となっている。

自治会に未加入の理由（「加入していない」または「加入したいとは思わない」と回答した人のみ・全体）



## 18 市役所の印象について

### (1) 市役所の印象

問33 市役所の印象についてお聴きします。ア～クのそれぞれの項目についてあてはまるものを1つずつ選んでをつけてください。

「窓口対応が親切」、「事務の取扱が公平」、「仕事が正確」、「手軽に利用できる」といった印象が上位に挙げられる。

#### [ 全体 ]

市役所に対する印象を8つの項目を設定して、項目ごとに「そう思う」、「そう思わない」、「どちらともいえない」で回答してもらい、その結果をまとめると以下のとおりとなる。

「そう思う」が占める割合が多い項目

- ・「窓口対応が親切」(45.3%)
- ・「事務の取扱が公平」(45.1%)
- ・「仕事が正確」(44.1%)
- ・「手軽に利用できる」(36.0%)

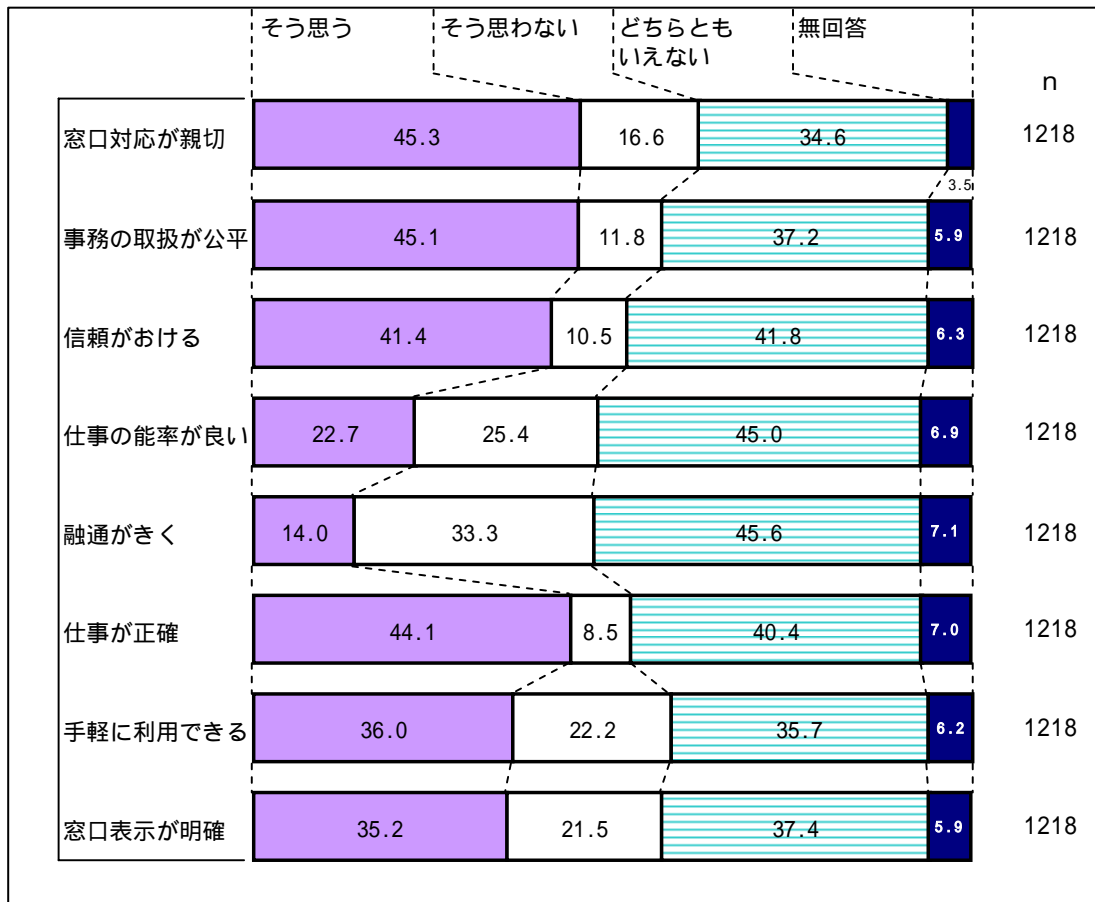
「どちらともいえない」が占める割合が多い項目

- ・「信頼がおける」(41.8%)
- ・「仕事の能率が良い」(45.0%)
- ・「融通がきく」(45.6%)
- ・「窓口表示が明確」(37.4%)

なお、「そう思わない」と回答した割合が多い項目はみられなかったが、「仕事の能率がよい」、「融通がきく」の2項目では「そう思わない」が「そう思う」を上回る。



市役所の印象（全体）



## 19 市政への参画方法について

### (1) 市民の意見等を取り入れるための重点的な取組

問34 あなたは、市が市民の意見や要望を取り入れていくために、どのような取組を重点的に行うべきだと思いますか。【複数回答】

「市に寄せられた意見・要望の対応を公表」が他を引き離して第1位。

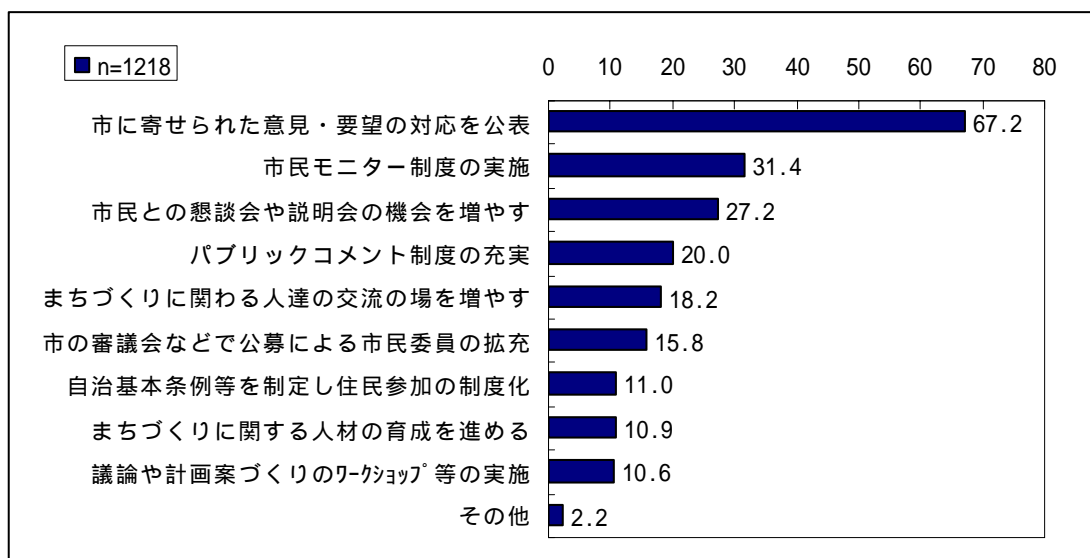
#### [全体]

市民の意見等を取り入れるための重点的な取り組みとして、「市に寄せられた意見・要望の対応を公表」(67.2%)が他を大きく引き離して第1位となっている。次いで「市民モニター制度の実施」(31.4%)、「市民との懇談会や説明会の機会を増やす」(27.2%)、「パブリックコメント制度の充実」(20.0%)、「まちづくりに関わる人達の交流の場を増やす」(18.2%)などの順となっている。

#### [属性別]

性別・年齢別でも、全体と同様に「市に寄せられた意見・要望の対応を公表」が他を大きく引き離して第1位となっている。また、年齢別の30～39歳代では「市民モニター制度の実施」(44.1%)と回答する率が他の世代に比べ高い傾向がみられた。

市民の意見等を取り入れるための重点的な取組（全体）



## 20 情報関連について

### (1) 市の情報の入手方法

問35 あなたは、市からの情報をどのように入手していますか。【複数回答】

「市の広報紙『広報おうめ』」が他を大きく引き離して第1位。

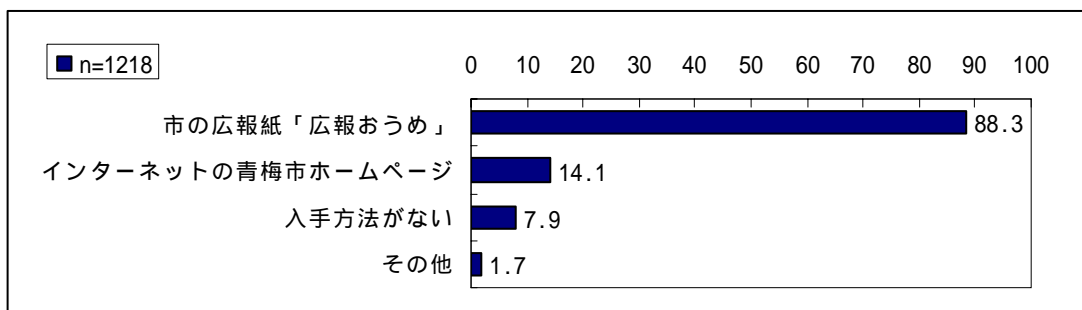
#### [全体]

市からの情報入手方法をたずねたところ、「市の広報紙『広報おうめ』」(88.3%)が最も多く、次いで「インターネットの青梅市ホームページ」(14.1%)、「その他」(1.7%)の順となっている。なお「入手方法がない」は7.9%であった。

#### [属性別]

性別・年齢別でも、全体と同様に「市の広報紙『広報おうめ』」が他を大きく引き離して第1位に挙げられており、市の情報の入手方法として広報紙が重要な役割を果たしていることがうかがえる。

市の情報の入手方法（全体）



( 2 ) 市の広報の読みやすさ

問35-1 「広報おうめ」を読んで、どのように感じますか。【問35で「1.市の広報紙「広報おうめ」を読んでいる」と回答した人のみ】

「読みやすいと思う」が61.3%。一方、「読みにくいと思う」は7.3%。

[ 全体 ]

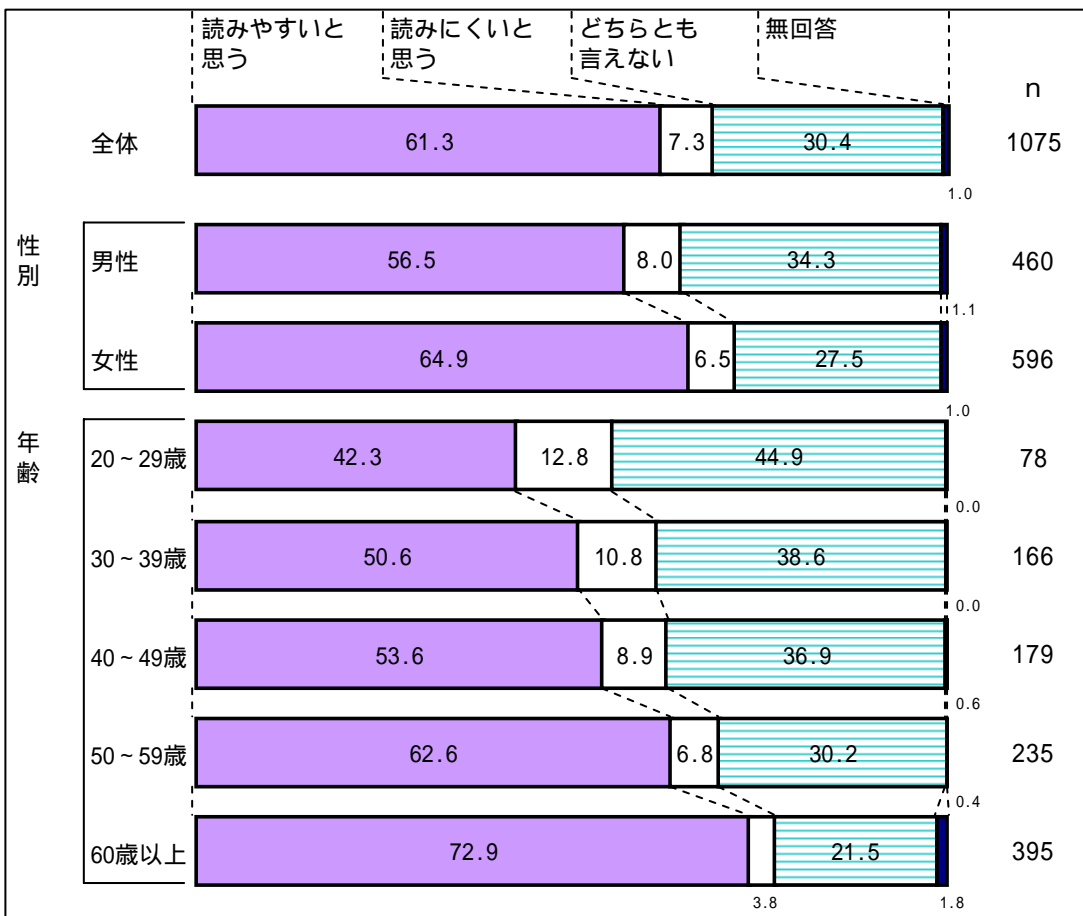
「広報おうめ」の読みやすさをたずねたところ、「読みやすいと思う」が61.3%、「どちらとも言えない」が30.4%、「読みにくいと思う」は7.3%にとどまり、広報紙は読みやすいと一定の評価をされているといえる。

[ 属性別 ]

性別では、女性が読みやすいと思う人が男性より多い傾向がみられた。

年齢別では、年齢が上がるにつれて「読みやすいと思う」と回答する人が増える傾向がみられた。

市の広報の読みやすさ（「読んでいる」と回答した人のみ・全体、性別、年齢別）



### (3) 読みにくい理由

問35-1 - 読みにくいと思われる理由は何ですか。【問35-1で「2.読みにくいと思う」と回答した人のみ/複数回答】

「読みたい記事の場所がわかりにくい」が第1位。

#### [全体]

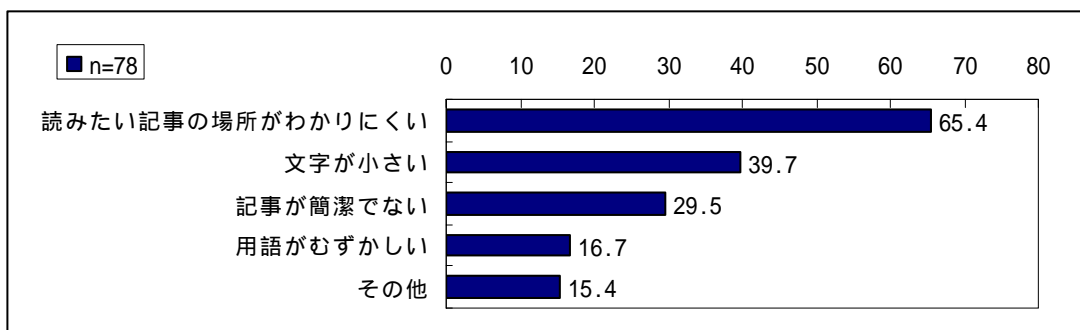
読みにくいと思う理由をたずねたところ、「読みたい記事の場所がわかりにくい」(65.4%)が他を大きく引き離して第1位となっている。次いで「文字が小さい」(39.7%)、「記事が簡潔でない」(29.5%)などの順となっている。

#### [属性別]

性別でみても、男女ともに「読みたい記事の場所がわかりにくい」が第1位となっている。

年齢別でみると、50歳未満の層では「読みたい記事の場所がわかりにくい」が第1位となっているが、50～59歳では「文字が小さい」(62.5%)、60歳以上では「文字が小さい」および「記事が簡潔でない」(同率40.0%)が第1位に挙げられている。

読みにくい理由(「読みにくいと思う」と回答した人のみ・全体)



(4) 市の広報の掲載情報量

問35-2 「広報おうめ」に掲載されている情報(内容)量はいかがですか。【問35で「1.市の広報紙「広報おうめ」を読んでいる」と回答した人のみ】

「十分だと思う」が49.1%、「どちらともいえない」が30.0%、「不十分だと思う」が13.7%。

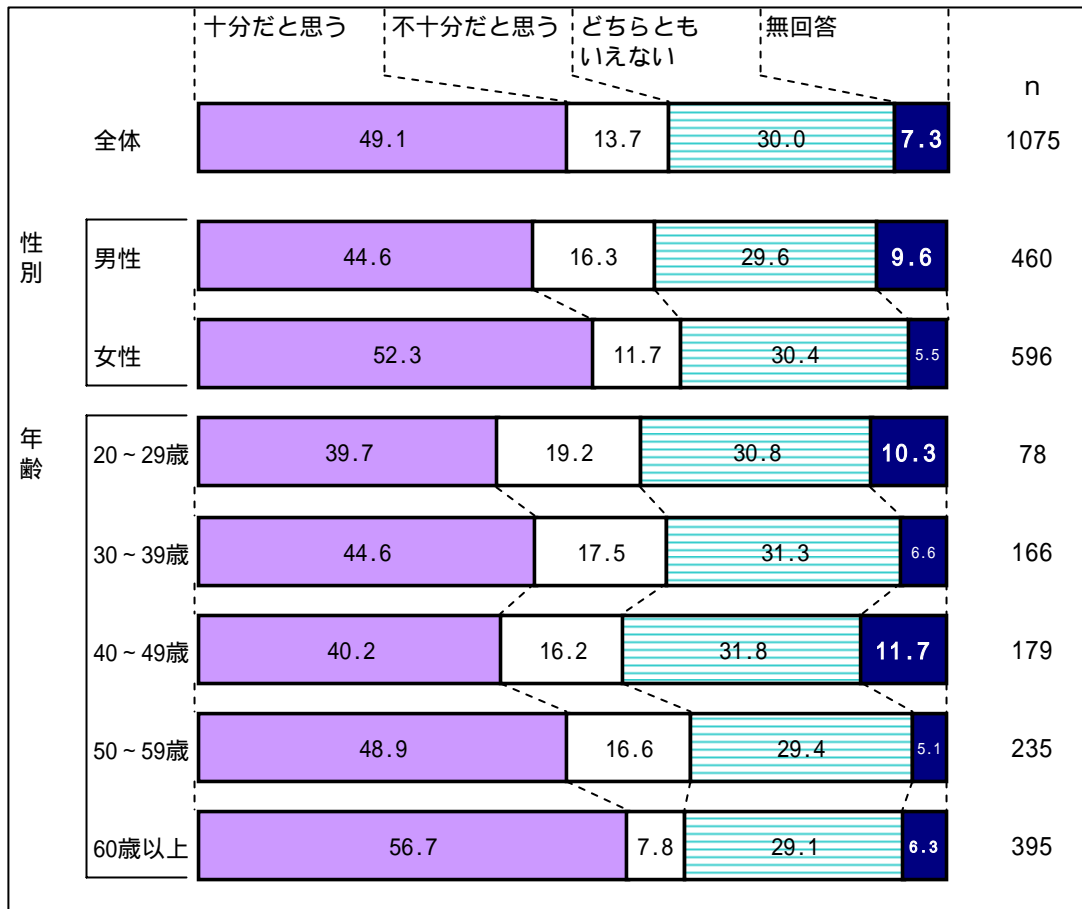
[全体]

「広報おうめ」の情報量については、「十分だと思う」が49.1%、「どちらともいえない」が30.0%となっており、「不十分だと思う」は13.7%にとどまる。

[属性別]

性別では、男性より女性の方が「十分だと思う」と回答する人が多い傾向がみられた。年齢別では、すべての世代で「十分だと思う」と回答する人が最も多く、特に60歳以上では56.7%と半数を超える。

市の広報の掲載情報量(「読んでいる」と回答した人のみ・全体、性別、年齢別)



## (5) 不足していると思う情報

問35-2 - どのような情報(内容)が不足していると思いますか。【問35-2で「2.不十分だと思う」と回答した人のみ/複数回答】

「まちの話題など、市民に関する情報」が第1位。

### [全体]

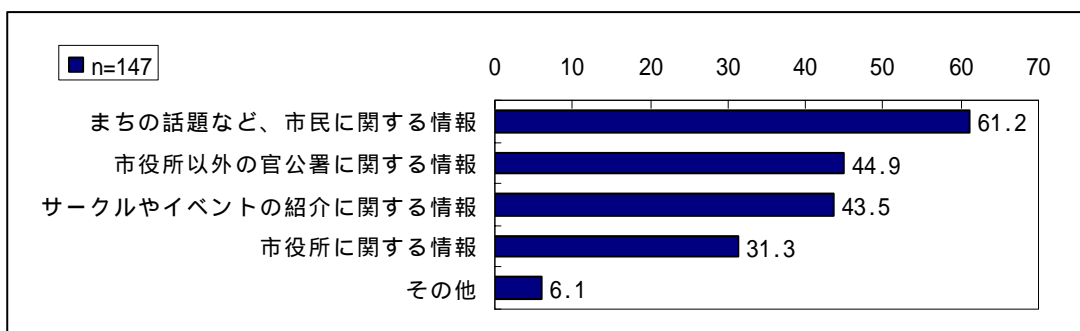
広報紙に不足していると思う情報(内容)については、「まちの話題など、市民に関する情報」(61.2%)が第1位となっており、「市役所以外の官公署に関する情報」(44.9%)、「サークルやイベントの紹介に関する情報」(43.5%)、「市役所に関する情報」(31.3%)などの順となっている。

### [属性別]

性別でみると、男性・女性ともに「まちの話題など、市民に関する情報」(65.3%・57.1%)が第1位となっている。

年齢別でみると、20~29歳・50~59歳・60歳以上では「まちの話題など、市民に関する情報」(73.3%・71.8%・61.3%)、30~39歳では「サークルやイベントの紹介に関する情報」(69.0%)、40~49歳では「市役所以外の官公署に関する情報」および「まちの話題など、市民に関する情報」(同率 58.6%)がそれぞれ第1位となっている。

不足していると思う情報(「不十分だと思う」と回答した人のみ・全体)



(6) 市のホームページについて

問35-3 「青梅市ホームページ」を見て、どのように感じますか。【問35で「2.インターネットの青梅市ホームページを見ている」と回答した人のみ】

「どちらともいえない」が48.8%、「見やすいと思う」が30.2%、「見にくいと思う」は13.4%。

[全体]

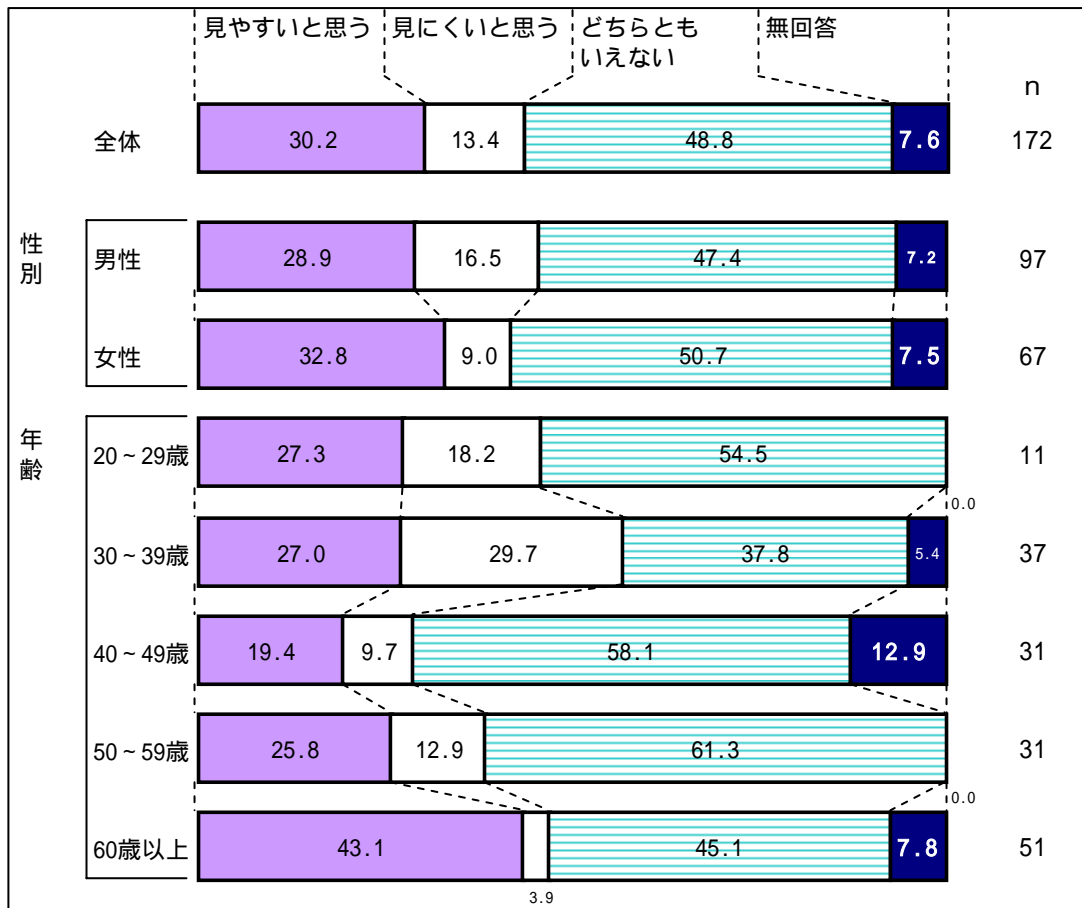
「市ホームページを見ている」と回答した人に見やすさについてたずねたところ、「どちらともいえない」が48.8%と約半数を占め、「見やすいと思う」が30.2%、「見にくいと思う」が13.4%となっている。

[属性別]

性別でみると、男性・女性ともに「どちらともいえない」が約半数を占める。

年齢別でみると、すべての世代で「どちらともいえない」が最も多い回答となっている。また、「見やすい」という回答は60歳以上で43.1%と最も多く、「見にくいと思う」という回答は30～39歳(29.7%)で最も多い。

市のホームページについて(「市ホームページを見ている」と回答した人のみ・全体、性別、年齢別)





( 7 ) 市のホームページで充実してほしい項目

問35-4 「青梅市ホームページ」で充実してほしい項目は何ですか。【問35で「2.インターネットの青梅市ホームページを見ている」と回答した人のみ/複数回答】

「診療所・病院の案内や紹介」が第1位。次いで「健康・福祉に関する情報」、「市が今後行う計画の紹介」の順。

[ 全体 ]

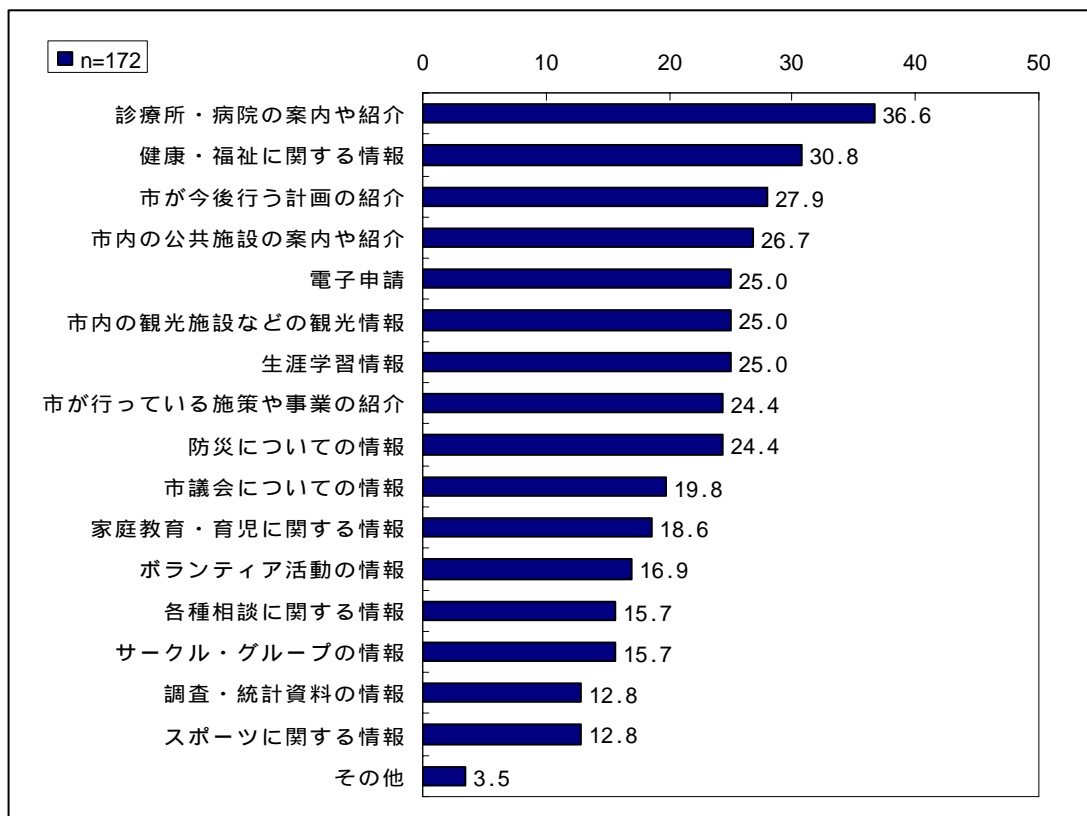
「市ホームページを見ている」と回答した人に充実してほしい内容をたずねたところ、「診療所・病院の案内や紹介」(36.6%)が第1位に挙げられ、次いで「健康・福祉に関する情報」(30.8%)、「市が今後行う計画の紹介」(27.9%)、「市内の公共施設の案内や紹介」(26.7%)などの順となっている。

[ 属性別 ]

性別で見ると、男性・女性ともに「診療所・病院の案内や紹介」(39.2%・34.3%)が第1位となっている。

年齢別で見ると、20～29歳・60歳以上では「診療所・病院の案内や紹介」(72.7%・31.4%)、30～39歳では「市内の公共施設の案内や紹介」(54.1%)、40～49歳では「電子申請」(45.2%)、50～59歳では「防災についての情報」(38.7%)がそれぞれ第1位に挙げられており、世代により充実して欲しい項目に違いがみられる。

市のホームページで充実してほしい項目(「市ホームページを見ている」と回答した人のみ・全体)



## ( 8 ) インターネットへの接続方法

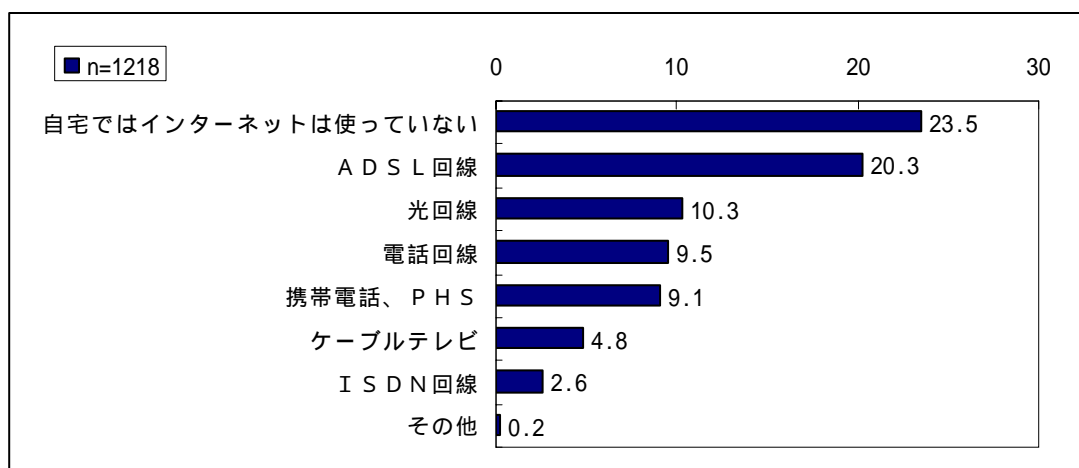
問36 高度情報化の進展で、ホームページの閲覧やEメールなど、インターネットは現代生活に欠かせない情報源となっています。ご自宅での主なインターネットへの接続方法はどのような方法ですか。【複数回答】

接続方法の中では「ADSL回線」が最も多い。

### [ 全体 ]

自宅でのインターネットへの接続方法をたずねたところ、「自宅ではインターネットは使っていない」が23.5%となっており、具体的な接続方法としては「ADSL回線」(20.3%)が最も多く、次いで「光回線」(10.3%)、「電話回線」(9.5%)、「携帯電話、PHS」(9.1%)などの順となっている。

インターネットへの接続方法（全体）



## (9) インターネットの利用目的

問36-1 ご自宅でインターネットを利用する目的は何ですか。【問36で「1..」から「7..」のいずれかを選択した人のみ/複数回答】

「情報の検索・情報の収集」が他を引き離して第1位。次いで「電子メールによる情報連絡」、「買物、チケット予約、金融サービス」の順。

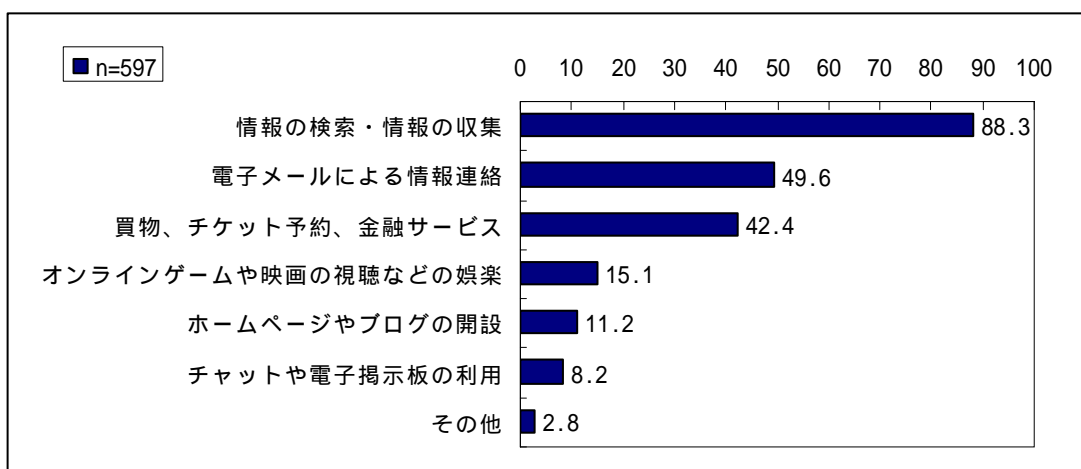
### [全体]

自宅でインターネットを利用している人に利用目的をたずねたところ、「情報の検索・情報の収集」(88.3%)が他を引き離して第1位に挙げられ、次いで「電子メールによる情報連絡」(49.6%)、「買物、チケット予約、金融サービス」(42.4%)が続き、以下、「オンラインゲームや映画の視聴などの娯楽」(15.1%)、「ホームページやブログの開設」(11.2%)などの順となっている。

### [属性別]

性別・年齢別でも「情報の検索・情報の収集」が第1位となっている。

インターネットの利用目的(「自宅でインターネットを使用している人」のみ・全体)



## 21 個人情報保護について

### (1) 個人情報の保護への関心

問37 個人情報の保護について、関心をお持ちですか。

“関心がある”が72.9%。一方、“関心がない”は13.6%。

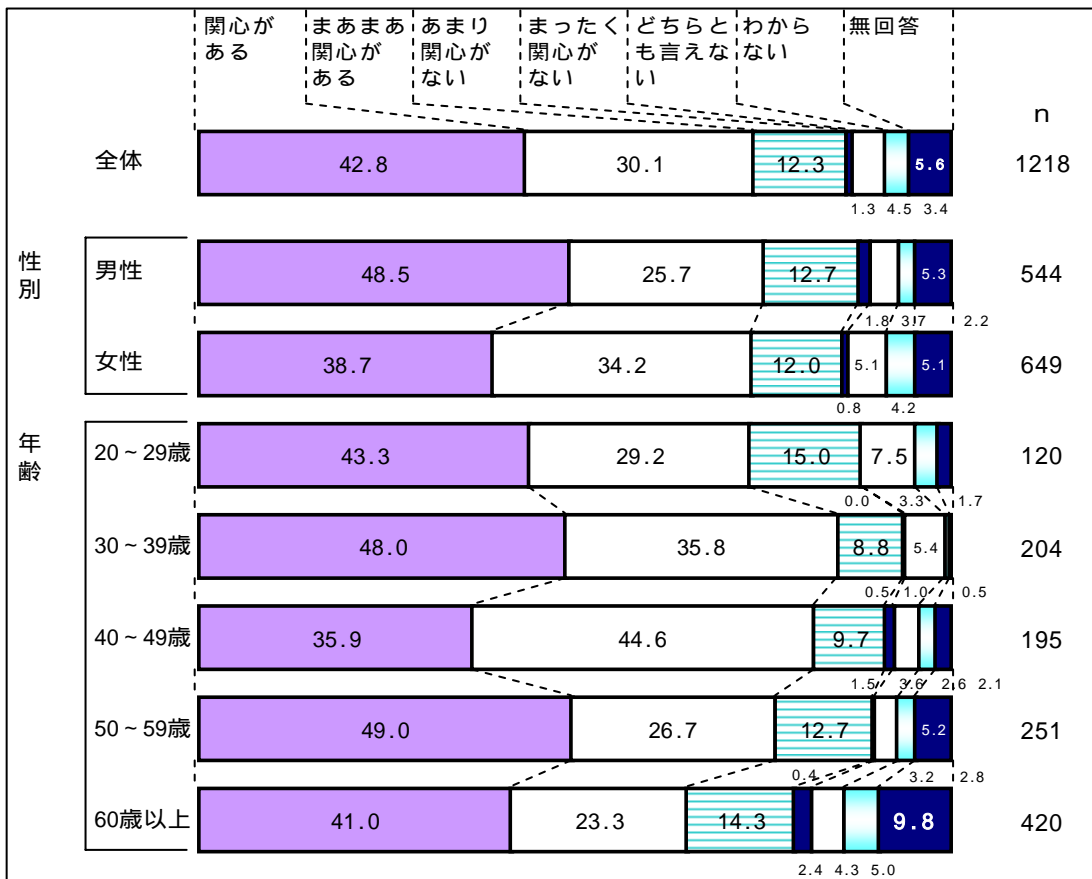
#### [全体]

個人情報の保護への関心をたずねたところ、「関心がある」(42.8%)が4割強を占め、これに「まあまあ関心がある」(30.1%)をあわせた“関心がある”が72.9%と7割強となっている。一方、“関心がない”(「まったく関心がない」1.3%および「あまり関心がない」12.3%の合計)は13.6%にとどまり、多くの市民が個人情報の保護に関心がある結果となっている。

#### [属性別]

性別・年齢別でも、ほとんどの層で“関心がある”という回答が多数を占め、30～39歳(83.8%)で最も比率が高くなっている。

個人情報の保護について(全体・性別・年齢別)



## (2) 他人に知られたくない個人情報について

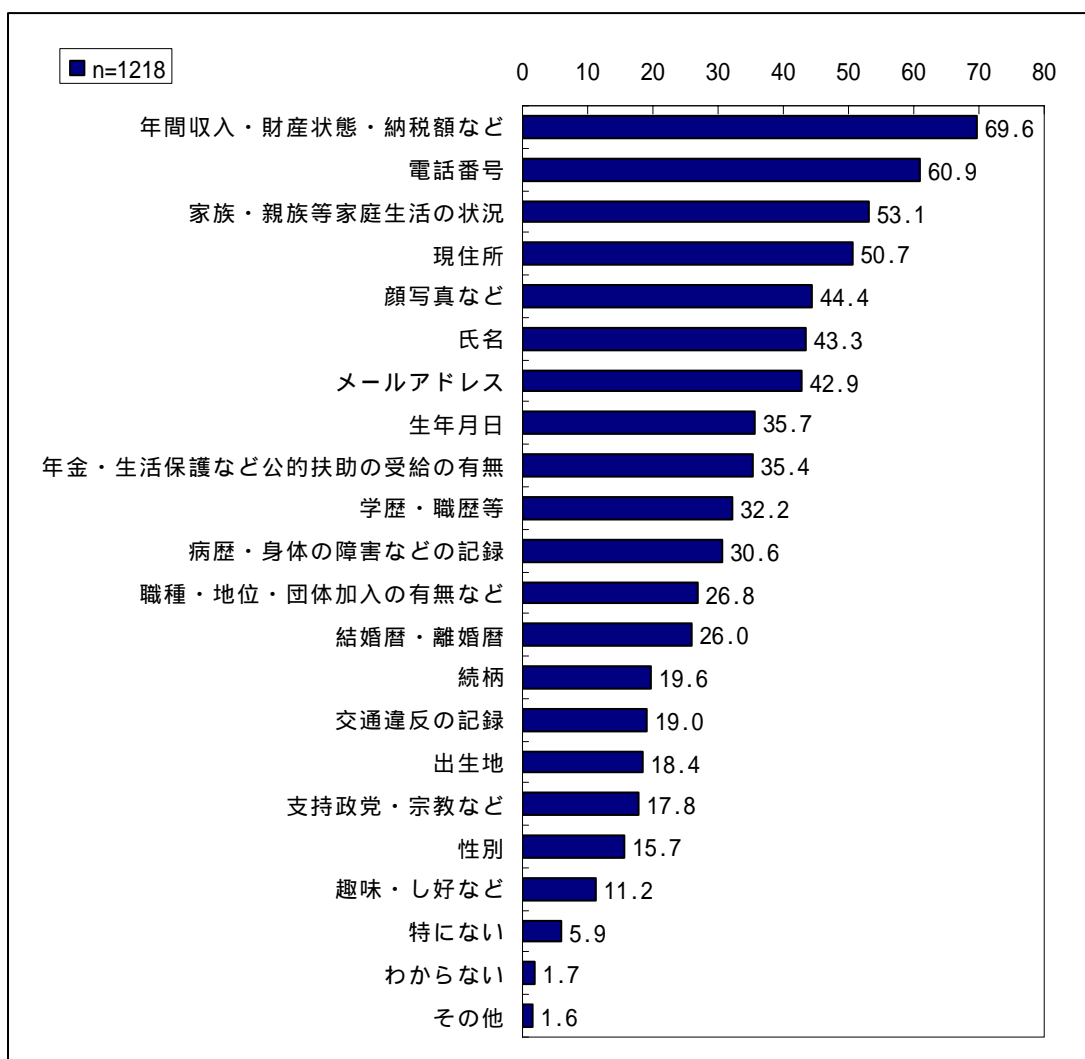
問38 他人に知られたくない個人情報は、どのようなものですか。【複数回答】

「年間収入・財産状態・納税額など」が第1位。

### [全体]

他人に知られたくない個人情報は、「年間収入・財産状態・納税額など」(69.6%)が第1位に挙げられ、次いで「電話番号」(60.9%)、「家族・親族等家庭生活の状況」(53.1%)、「現住所」(50.7%)などの順となっている。

他人に知られたくない個人情報について(全体)



## 22 多摩川競艇事業について

### (1) 多摩川競艇事業の認知度

問39 青梅市が府中市内で多摩川競艇を行っていることをご存じですか。

「知っている」が68.3%。一方、「知らない」は29.0%。

#### [全体]

青梅市が競艇事業を行っていることの認知度をたずねたところ、「知っている」が68.3%、「知らない」が29.0%となっており、約7割の市民が多摩川競艇事業を知っている結果となっている。

#### [属性別]

性別でみると、「知っている」と回答した率が男性(75.0%)が女性(63.8%)を11.4ポイント上回る。

年齢別でみると、世代により認知度に大きな違いがみられ、最も低い20～29歳では「知っている」が30.0%にとどまるが、年齢が上がるにつれて「知っている」と回答する率が上昇し、60歳以上では81.2%に達する。

多摩川競艇事業の認知度（全体、性別、年齢別）

